

# 十和田市市民意識調査

## 報告書

# 目次

第1章 一般市民向けアンケート.....	1
1. 調査概要.....	1
2. 調査結果.....	2
(1) 基本属性.....	2
(2) 暮らしについて.....	9
(3) 幸福度について.....	24
(4) 施策の満足度・重要度.....	31
(5) 結婚について.....	44
(6) 出産について.....	52
(7) 子育てについて.....	62
(8) ダイバーシティ（多様性）について.....	64
(9) デジタル化について.....	70
第2章 小学生向けアンケート.....	83
1. 調査概要.....	83
2. 調査結果.....	84
(1) 基本属性.....	84
(2) 十和田市について思うこと.....	86
(3) 将来について考えていること.....	93
第3章 中学生向けアンケート.....	98
1. 調査概要.....	98
2. 調査結果.....	99
(1) 基本属性.....	99
(2) 十和田市について.....	101
(3) 定住・就職について.....	109
第4章 高校生向けアンケート.....	115
1. 調査概要.....	115
2. 調査結果.....	116
(1) 基本属性.....	116
(2) 十和田市について.....	118
(3) 施策の満足度・重要度.....	124

(4) 十和田市の方向性.....	130
(5) 定住・就職について.....	132
第5章 対象横断的分析.....	145
(1) 十和田市について.....	145
(2) 定住意向.....	148
(3) 市の方向性について.....	151

**【留意事項】**

本報告書においては、数値の表記を行う際、小数点第2位以下を四捨五入して表記することとする。そのため、単一回答の設問における各選択肢の構成比の合計が100%とならない場合がある。

# 第1章 一般市民向けアンケート

---

## 1. 調査概要

調査名	第3次十和田市総合計画策定に向けたアンケート調査
調査目的	「第3次十和田市総合計画」の策定の参考とするため、無作為抽出にて抽出した市民にアンケートを送付し、意見を聴取する。
調査対象	市内在住の18歳以上の市民から無作為抽出にて2,700名を抽出。
調査期間	令和7（2025）年8月22日（金）～9月24日（水）
配布数	2,700件
配布方法	郵送配布
回収方法	郵送回収とウェブ回答の併用
有効回答数	1,070件（うち紙面796件・ウェブ274件）
有効回答率	39.6%

## 2. 調査結果

### (1) 基本属性

#### ①年齢階級・性別

回答者総数は1,070件であり、性別の内訳は男性42.7%（457件）、女性56.0%（599件）となっており、やや女性が多い。年齢階級別の内訳は、70歳代（23.2%）、60歳代（21.4%）の割合が高く2割を超えており、80歳以上を加えた60歳以上が半分以上の56.8%を占める。

性別・年齢階級別では、40歳代で女性の割合が68.5%と高くなっている。50歳代以上では、年齢が上がるにつれて女性の割合がやや高まっている。

図 1-(1)-1 性別・年齢階級別回答者数・割合

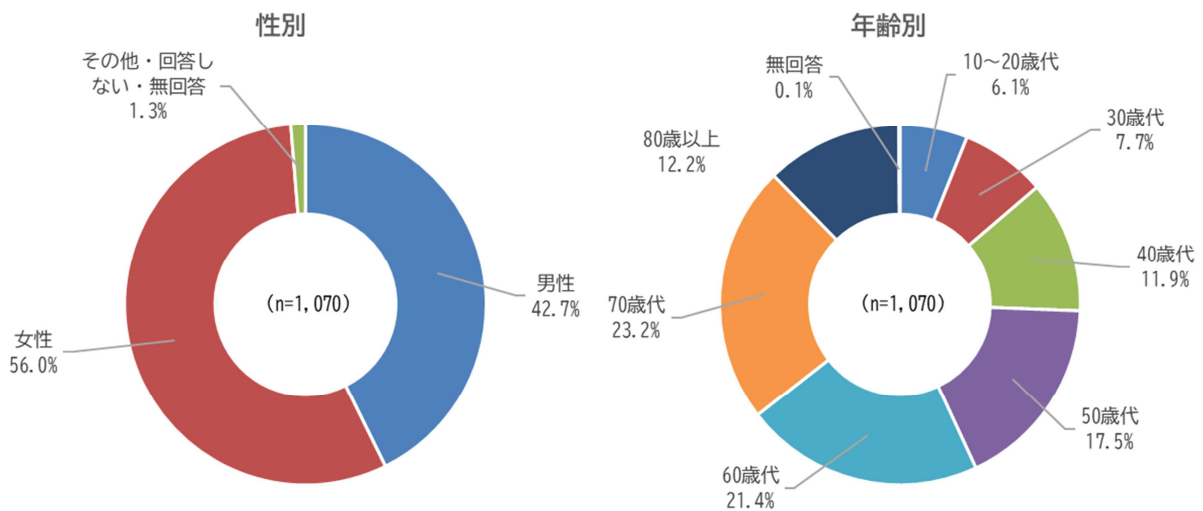
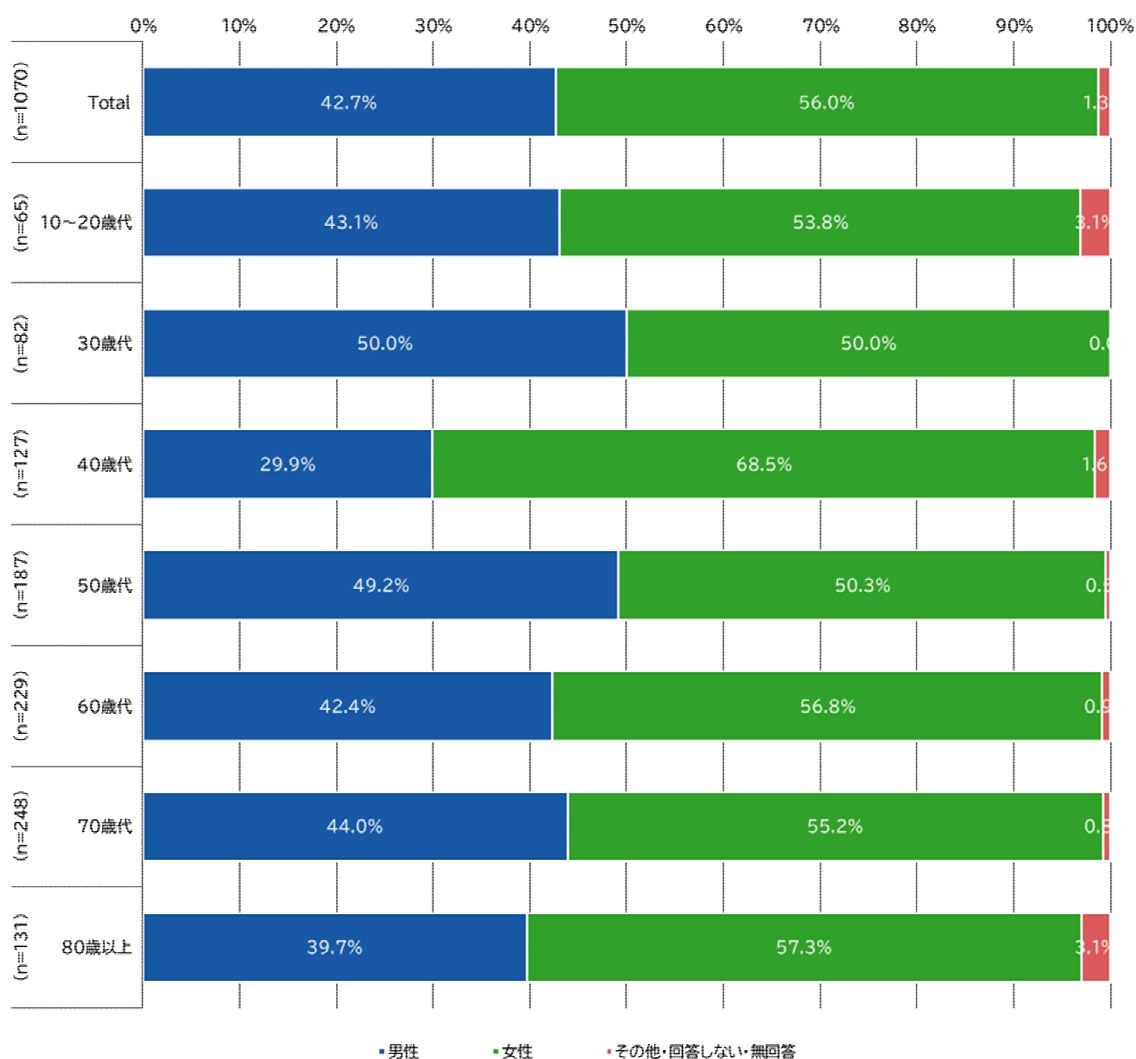


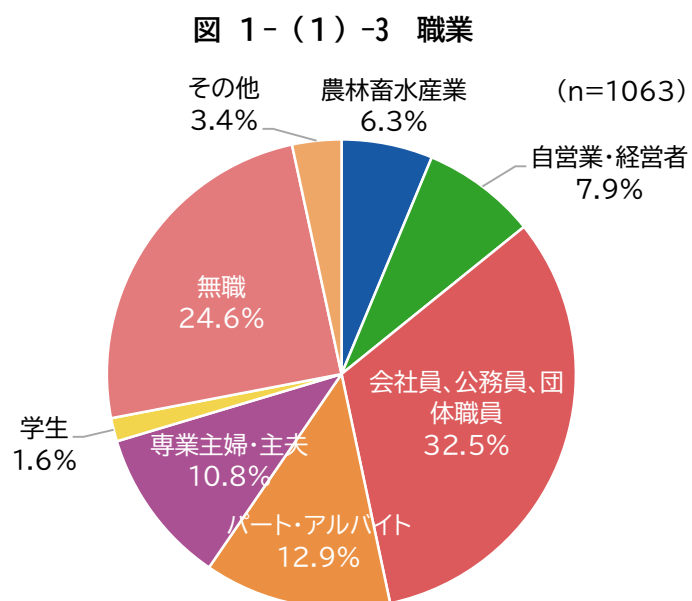
図 1 - (1) -2 性別・年齢階級別回答者数・割合



	男性		女性		その他・回答しない・無回答		合計	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
10~20歳代	28	43.1%	35	53.8%	2	3.1%	65	100.0%
30歳代	41	50.0%	41	50.0%	0	0.0%	82	100.0%
40歳代	38	29.9%	87	68.5%	2	1.6%	127	100.0%
50歳代	92	49.2%	94	50.3%	1	0.5%	187	100.0%
60歳代	97	42.4%	130	56.8%	2	0.9%	229	100.0%
70歳代	109	44.0%	137	55.2%	2	0.8%	248	100.0%
80歳以上	52	39.7%	75	57.3%	4	3.1%	131	100.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%
合計	457	42.7%	599	56.0%	14	1.3%	1070	100.0%

## ②職業

「会社員、公務員、団体職員」の割合が最も高く 32.5%である。次いで、「無職」(24.6%)、「パート・アルバイト」(12.9%)である。



### ③居住地区

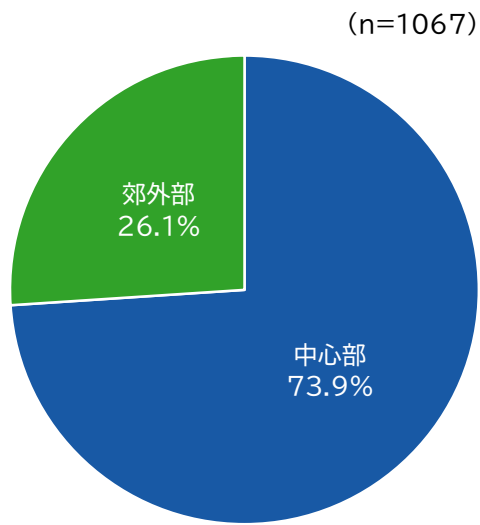
「西一番町～西二十三番町」の割合が最も高く 27.6%である。次いで、「東一番町～東二十四番町」(19.8%)、「三本木」(12.7%)である。

稲生町から三本木までを中心部、その他を郊外部と区分したところ、中心部が 73.9%、郊外部が 26.1%である。

図 1-(1)-4 居住地区

居住地区		回答者数	割合		
中心部	稲生町	14	789	1.3%	73.9%
	穂並町	10		0.9%	
	東一番町～東二十四番町	211		19.8%	
	西一番町～西二十三番町	294		27.6%	
	元町西	39		3.7%	
	元町東	30		2.8%	
	ひがしの	30		2.8%	
	一本木沢	26		2.4%	
	三本木	135		12.7%	
	郊外部	赤沼		9	
切田		23	2.2%		
深持		22	2.1%		
洞内		28	2.6%		
大沢田		8	0.7%		
馬洗場		0	0.0%		
立崎		2	0.2%		
八斗沢		6	0.6%		
豊ヶ岡		2	0.2%		
相坂		62	5.8%		
藤島		7	0.7%		
伝法寺		4	0.4%		
米田		5	0.5%		
大不動		8	0.7%		
滝沢		7	0.7%		
沢田		27	2.5%		
奥瀬		16	1.5%		
十和田湖畔		5	0.5%		
法量		21	2.0%		
その他		16	1.5%		
合計		1067	100.0%		

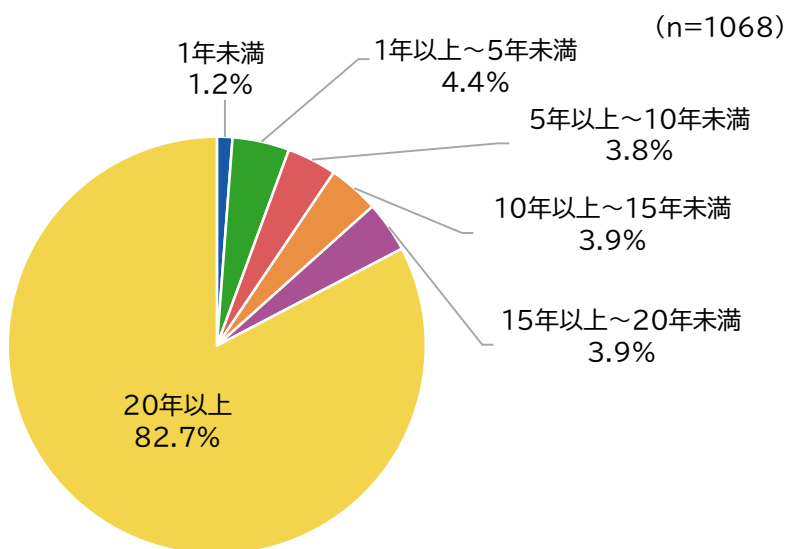
图 1-(1)-5 地域区分



#### ④居住年数

「20年以上」の割合が最も高く82.7%と大半を占める。次いで、「1年以上～5年未満」(4.4%)、「10年以上～15年未満」(3.9%)、「15年以上～20年未満」(3.9%)である。

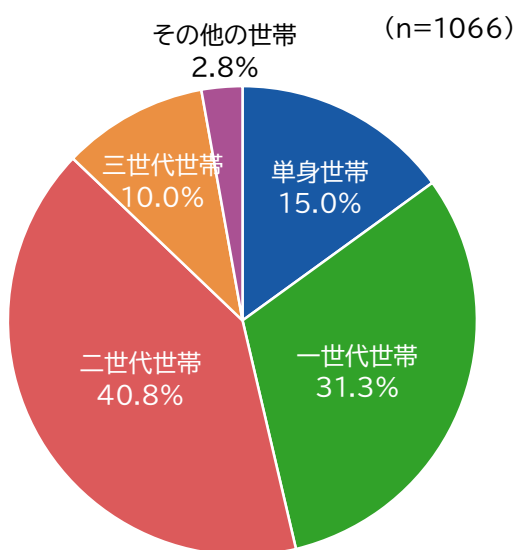
図 1-(1)-6 居住年数



#### ⑤同居家族構成

「二世帯世帯」の割合が最も高く40.8%である。次いで、「一世代世帯」(31.3%)、「単身世帯」(15.0%)である。

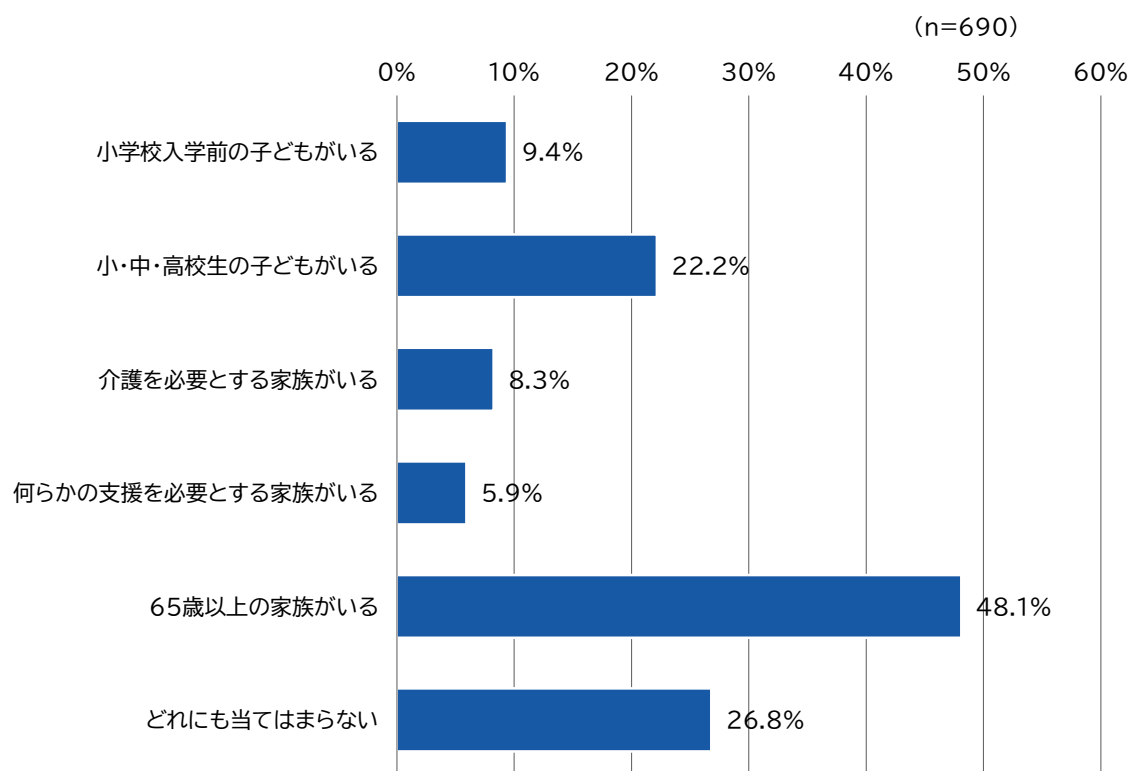
図 1-(1)-7 同居家族構成



### ⑥同居家族について

65歳以上の家族がいる割合が48.1%、小・中・高校生の子どもがいる割合が22.2%、小学校入学前の子ども（未就学児）がいる割合が9.4%、介護を必要とする家族（要介護者）がいる割合が8.3%である。

図 1-（1）-8 同居家族について



## (2) 暮らしについて

### ①十和田市の住みやすさについて

「住みやすい」、「どちらかと言えば住みやすい」が合わせて 71.3%で、「どちらかと言えば住みにくい」、「住みにくい」は合わせて 9.3%である。

年齢階級別に見ると、「住みやすい」、「どちらかと言えば住みやすい」の割合は、20歳代から40歳代にかけて減少し、40歳代が最も低く、40歳代から80歳以上にかけては増加する傾向である。

地域区分別に見ると、「住みやすい」、「どちらかと言えば住みやすい」を合わせて、中心部は 73.5%、郊外部は 65.2%である。

図 1 - (2) -1 十和田市の住みやすさ

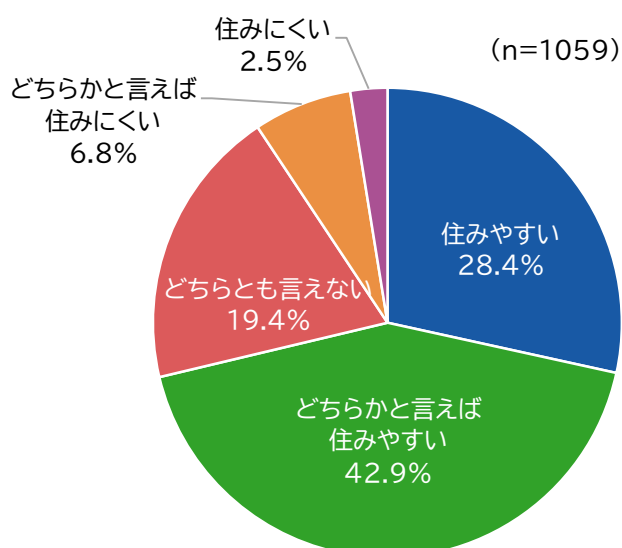


図 1 - ( 2 ) -2 十和田市の住みやすさ (年齢階級別)

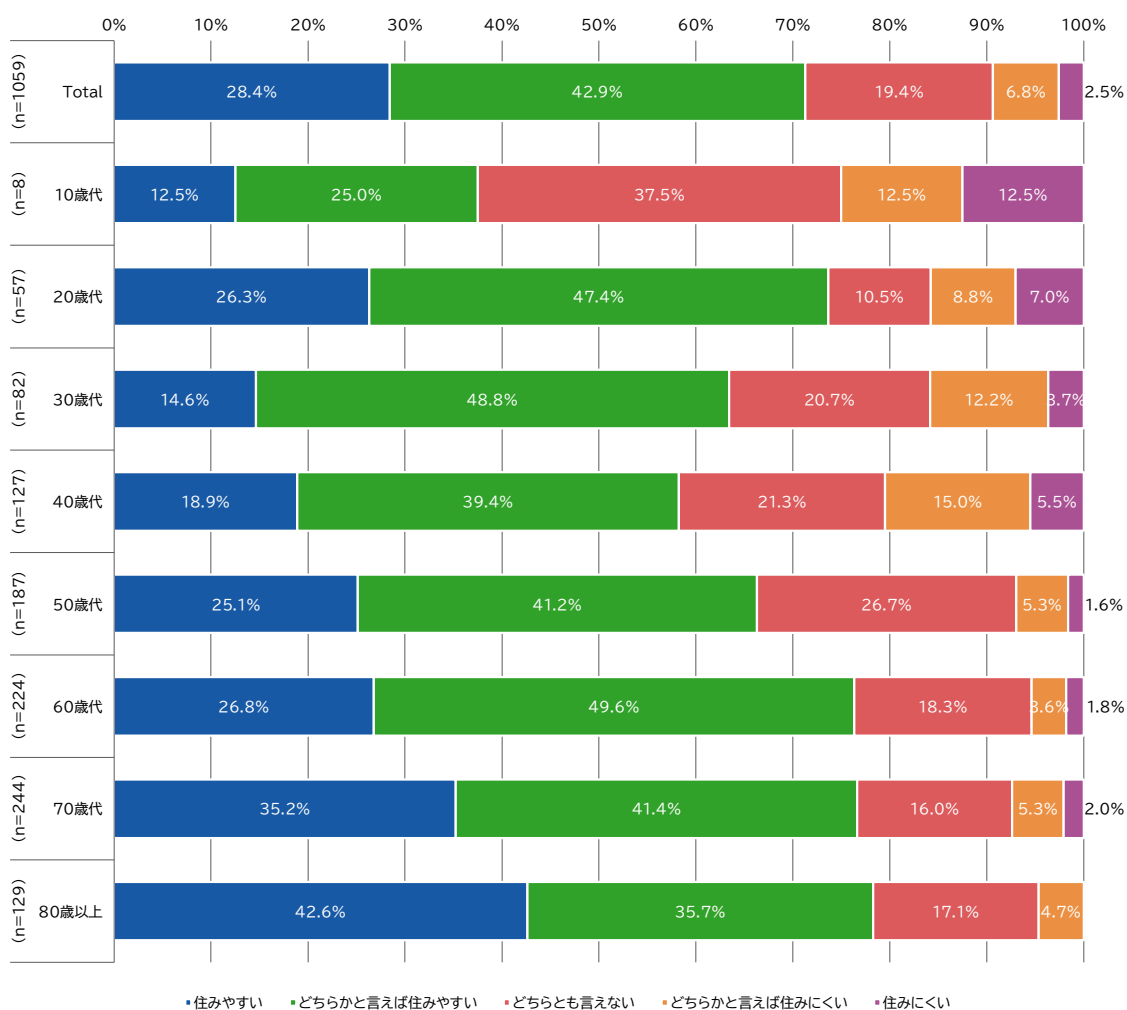
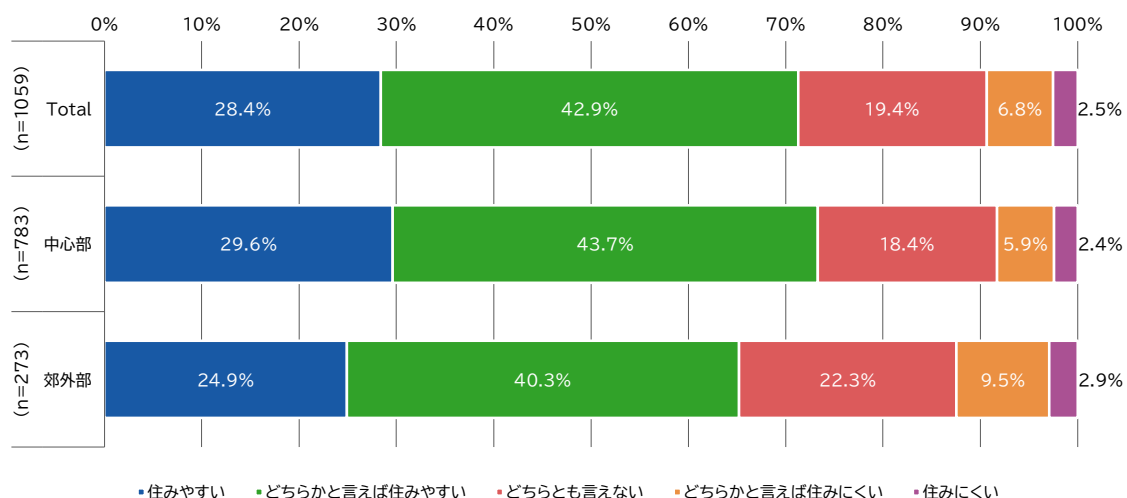


図 1 - ( 2 ) -3 十和田市の住みやすさ (地域区分別)



## ②住みやすさの重要条件

「災害が少ないこと」の割合が最も高く 65.6%である。次いで、「豊かな自然環境」(32.5%)、「犯罪や交通事故が少ないこと」(27.6%)である。

年齢階級別に見ると、「豊かな自然環境」、「災害が少ないこと」の割合は年齢が高いほど高く、「商業施設の充実」、「教育や子育てのしやすさ」、「働きやすさ」は年齢が低いほど割合が高い。

図 1 - (2) -4 住みやすさの重要条件

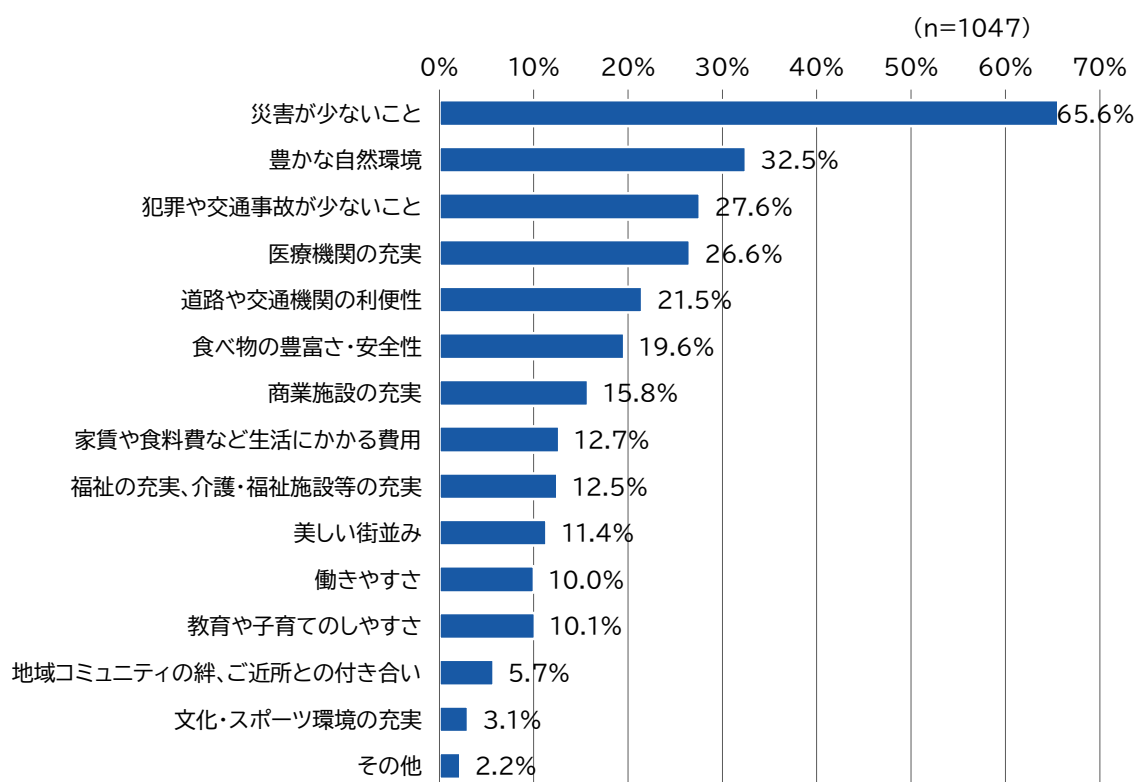
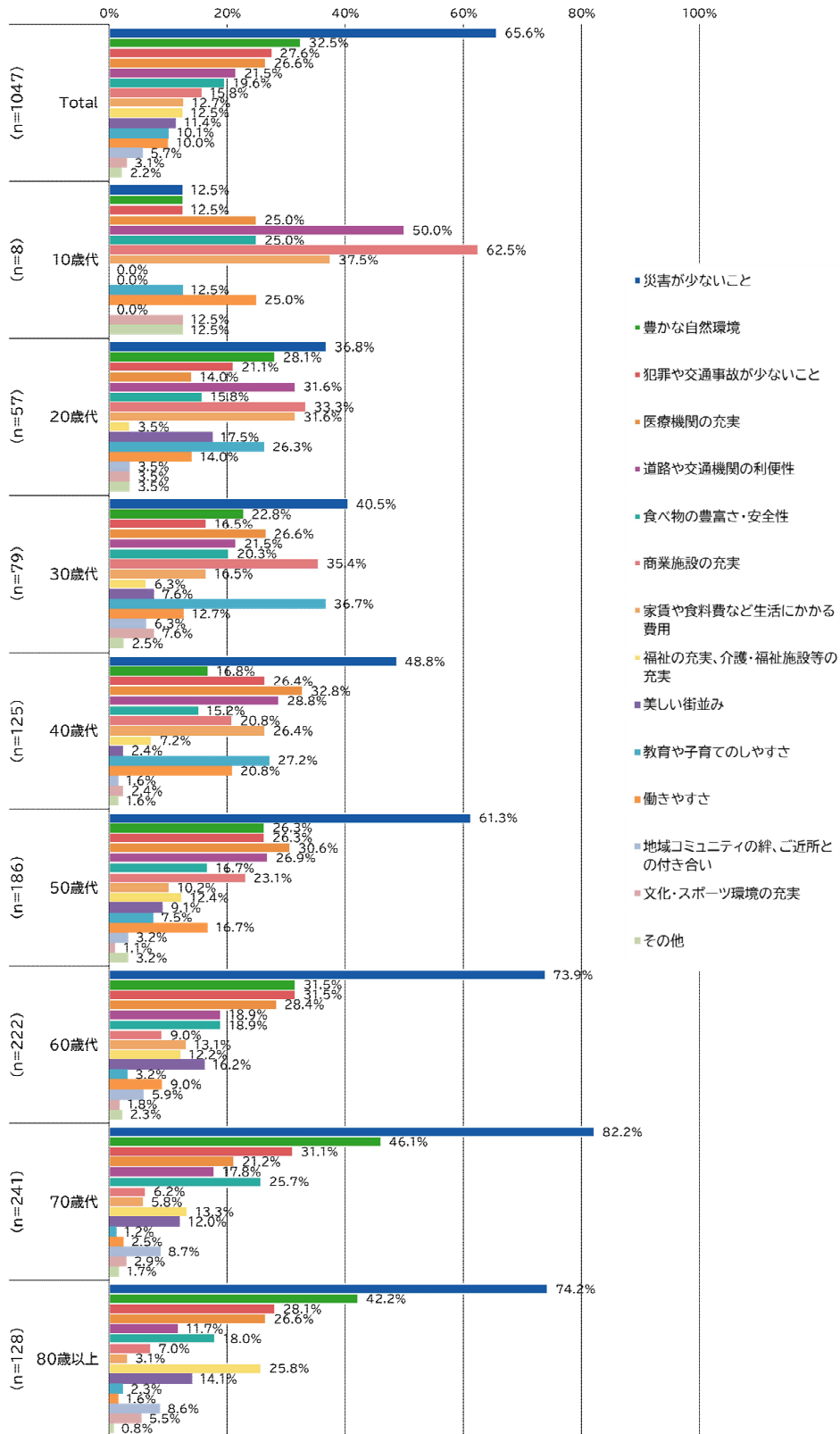


図 1 - (2) -5 住みやすさの重要条件（その他の回答例）

- ミニマムに生活できる、広すぎない
- 水がおいしい、湧水を使っているため
- 長年住んでいるから。静かである。マナーが良い。
- 地元に友人がいる

図 1-(2)-6 住みやすさの重要条件 (年齢階級別)



### ③定住意向

「ずっと住みたい」の割合は71.4%、「できれば転出したい」が8.0%、「一時的には転出するが将来的には戻りたい」が1.4%である。

年齢階級別に見ると、「ずっと住みたい」の割合は年齢が高いほど高い。

地域区分別に見ると、「ずっと住みたい」の割合は郊外部の方が高い。

図 1-(2)-7 定住意向

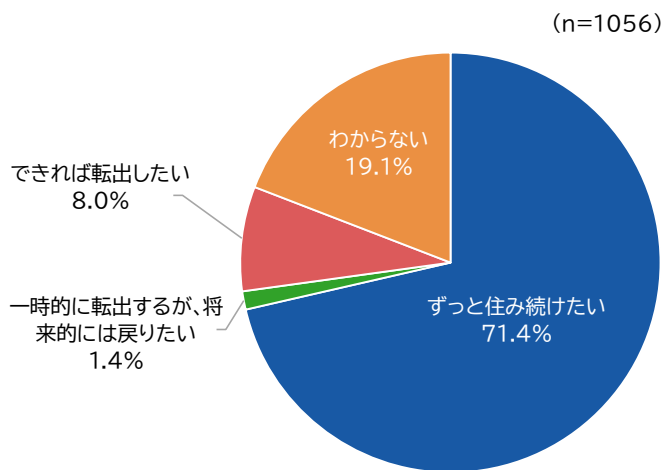


図 1-(2)-8 定住意向（地域区分別）

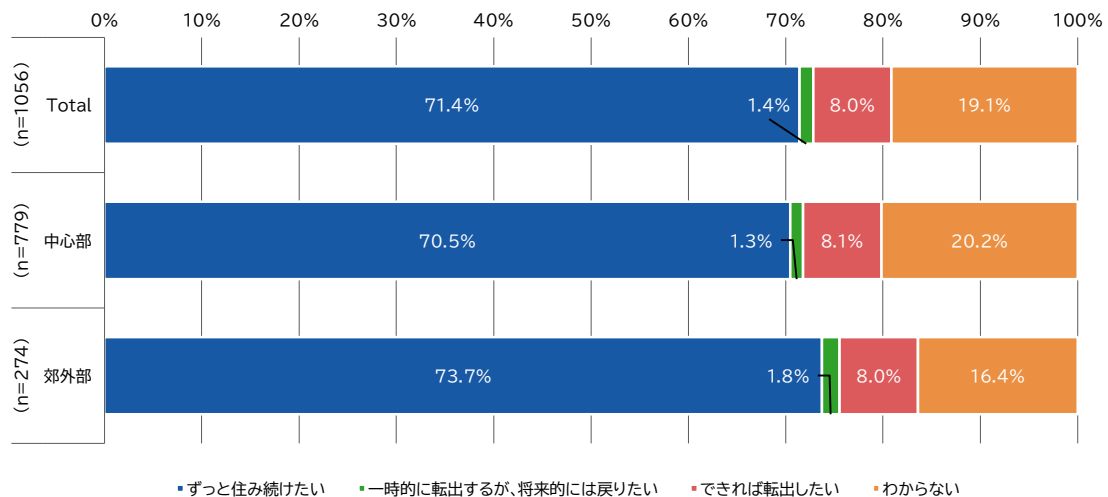
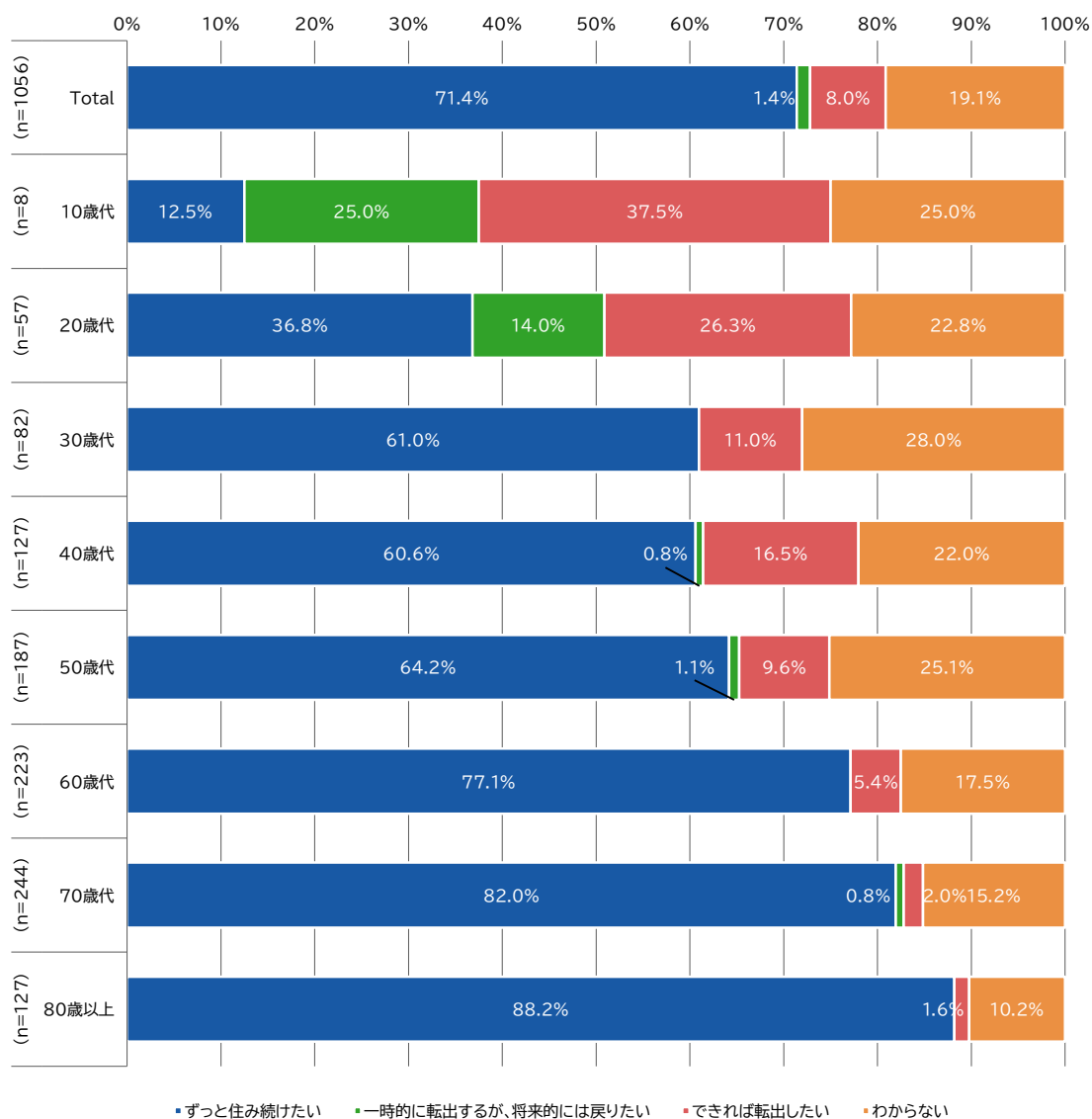


図 1- (2) -9 定住意向 (年齢階級別)



#### ④「住み続けたい」「将来的に戻りたい」理由

定住意向について「住み続けたい」「将来的に戻りたい」と回答したうち、その理由について、「家族と一緒にいたいから」の割合が最も高く47.4%である。次いで、「ふるさとだから」(44.4%)、「安心して生活することができるから」(33.2%)である。

年齢階級別に見ると、30歳代～40歳代は「家族と一緒にいたいから」の割合がより高い。20歳代～50歳代は「仕事があるから」が2～3番目に多い。70歳代以上は「ふるさとだから」が最も多いほか、「住んでいる地域が好きだから」も比較的多く、地域への愛着が大きな理由となっている。

地域区分別に見ると、「ふるさとだから」「豊かな自然に魅力を感じるから」は郊外部の方が多く、「買い物や通勤に便利だから」は中心部の方が多い。

図 1- (2) -10 「住み続けたい」「将来的に戻りたい」理由

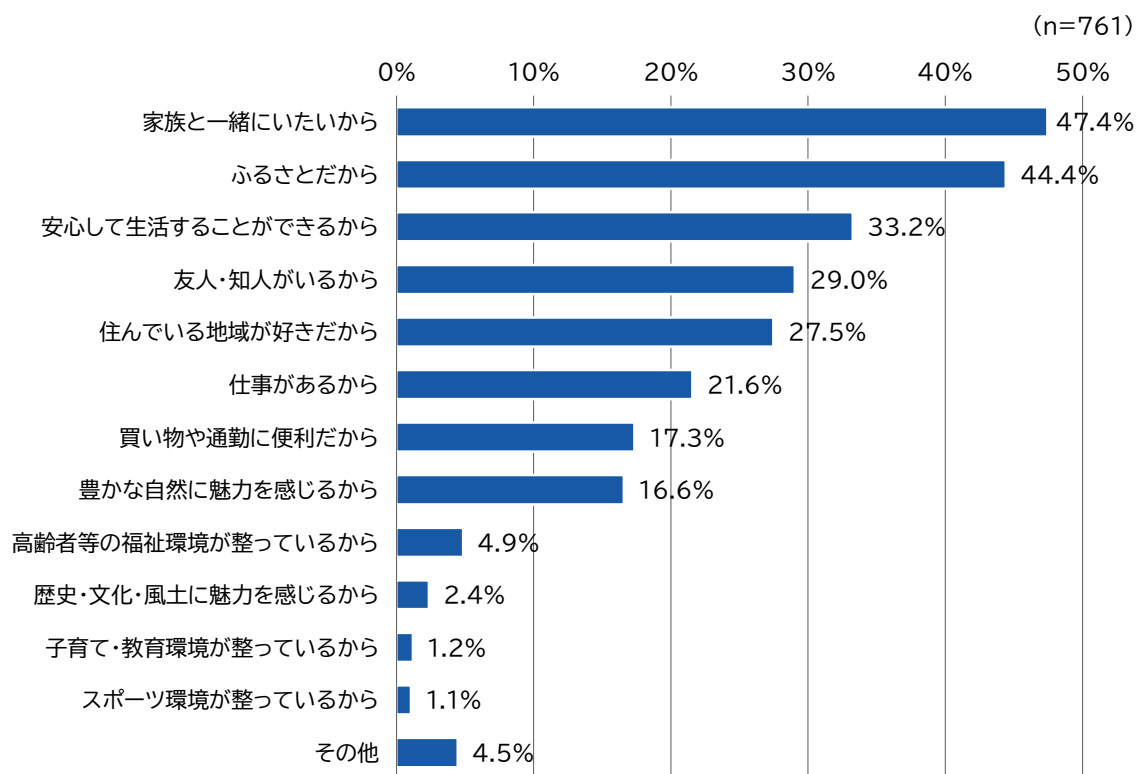


図 1- (2) -11 「住み続けたい」「将来的に戻りたい」理由（その他の回答例）

- 持ち家があるから
- 転居が難しいから

図 1 - (2) -12 「住み続けたい」「将来的に戻りたい」理由（年齢階級別）

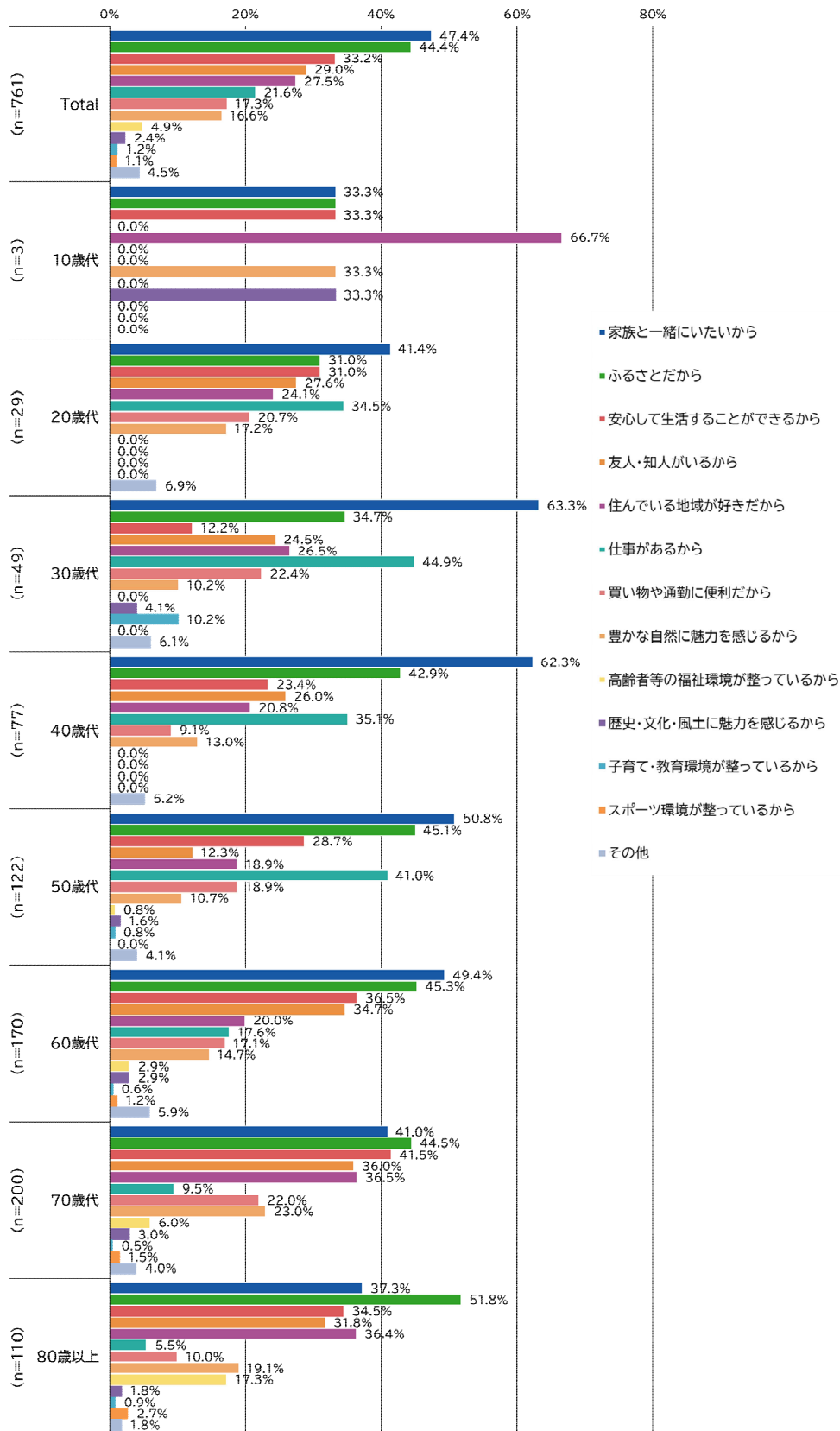
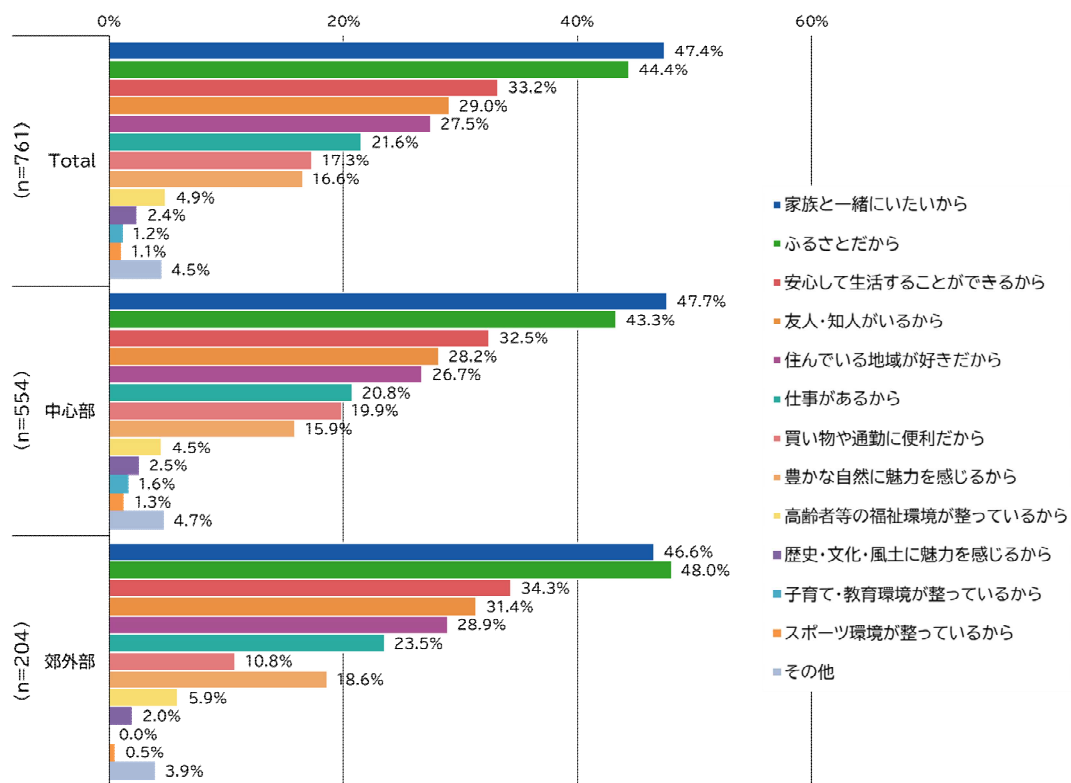


図 1 - (2) -13 「住み続けたい」「将来的に戻りたい」理由（地域区分別）



### ⑤「転出したい」「わからない」理由

定住意向について「転出したい」「わからない」と回答したうち、その理由について、「買い物や通勤が不便だから」の割合が最も高く 35.1%である。次いで、「高齢者等の福祉環境が整っていないから (24.2%)」、「安心して生活することができないから (23.0%)」、である。その他が 37.4%で、交通手段に乏しいから、医療環境が良くないから、冬季の気温や除雪が負担だから、子ども・親が市外で暮らしているから、娯楽施設が少ないから、などの理由が挙げられている。

年齢階級別に見ると、30 歳代～40 歳代は「子育て・教育環境が整っていないから」が2番目に多く、「転勤等の仕事の都合があるから」、「市内に働きたい場がないから」、「都会的な生活環境にあこがれるから」も比較的多い。70 歳代は「買い物や通勤が不便だから」が5割を超え、「高齢者等の福祉環境が整っていないから」「安心して生活することができないから」の割合も高い。

地域区分別に見ると、郊外部では「買い物や通勤が不便だから」が5割を超え、「安心して生活することができないから」の割合も高い。

図 1 - (2) -14 「転出したい」「わからない」理由

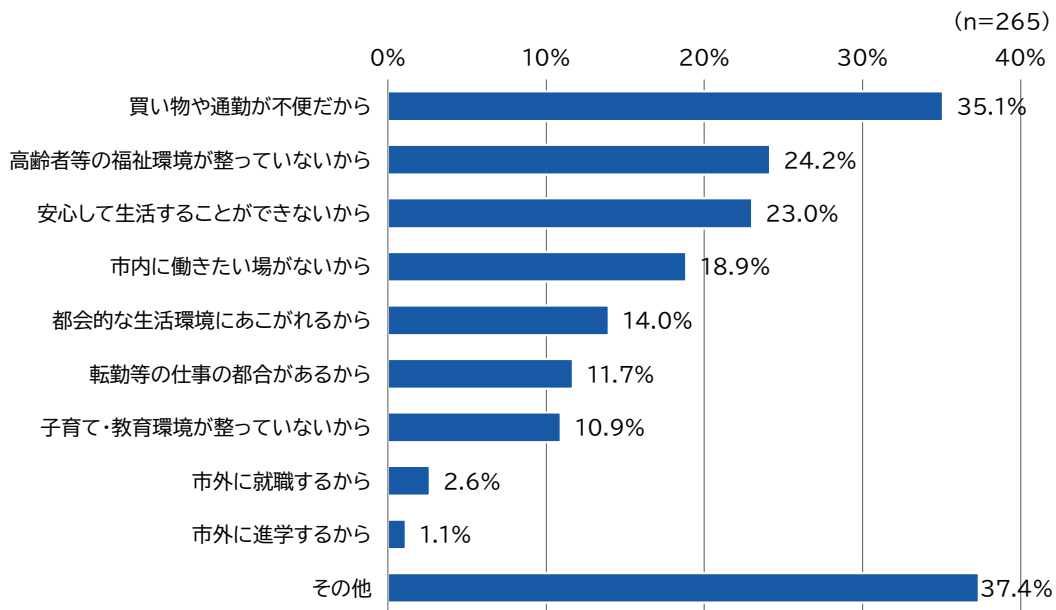


図 1 - (2) -15 「転出したい」「わからない」理由（その他の回答例）

- 交通手段に乏しいから
- 医療環境が良くないから
- 冬季の気温や除雪が負担だから
- 子ども・親が市外で暮らしているから
- 娯楽施設が少ないから

図 1 - (2) -16 「転出したい」「わからない」理由（年齢階級別）

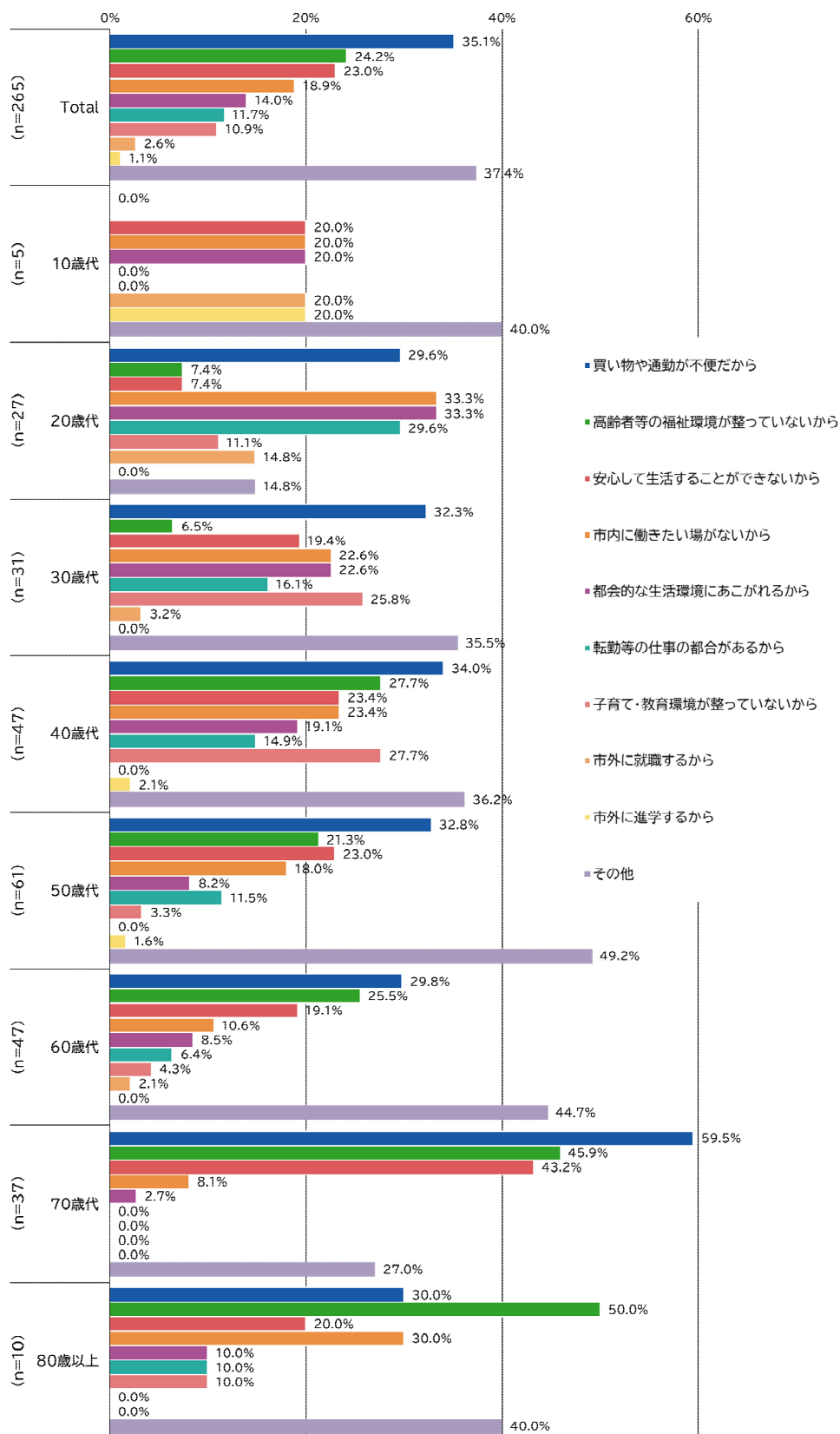
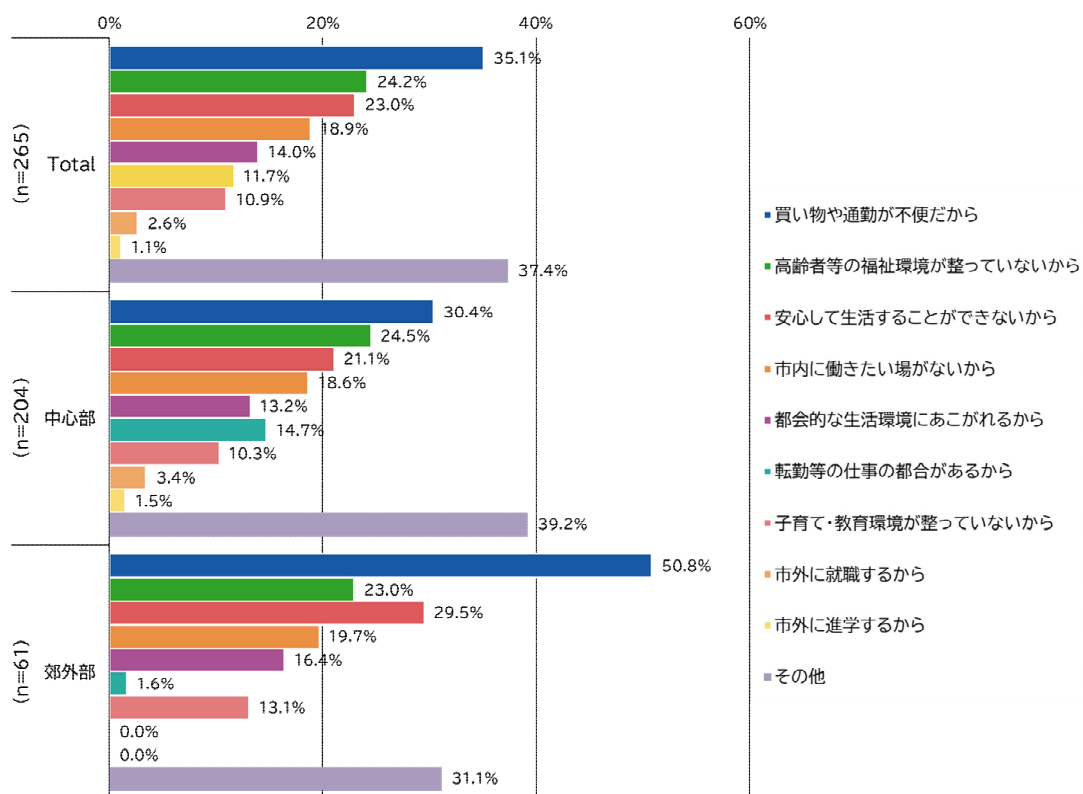


図 1 - (2) -17 「転出したい」「わからない」理由（地域区分別）



### ⑥将来の十和田市に何があれば住みたい、戻ってきたいと思うか

定住意向について「できれば転出したい」「わからない」と回答したうち、将来の十和田市に何があれば住みたい、戻ってきたいと思うかについて、「買い物環境が充実している」の割合が最も高く43.6%である。次いで、「安心して生活することができる(39.8%)」、「高齢者への福祉が充実している(37.7%)」である。

年齢階級別に見ると、20～40歳代は「魅力的な就職先・勤務先がある」の割合が高く、約5割を超える。「子育て・教育環境が整っている」「休日に遊ぶ施設が充実している」の割合も高い。50歳代以上は、「安心して生活することができる」の割合が高くなり、60歳代以上は「高齢者への福祉が充実している」の割合が5割を超える。70歳代以上は「買い物環境が充実している」の割合も約6割と高い。

地区別にみると、郊外部は「安心して生活することができる」「高齢者への福祉が充実している」の割合がやや高い。

図 1-(2)-18 将来の十和田市に何があれば住みたい、戻ってきたいと思うか

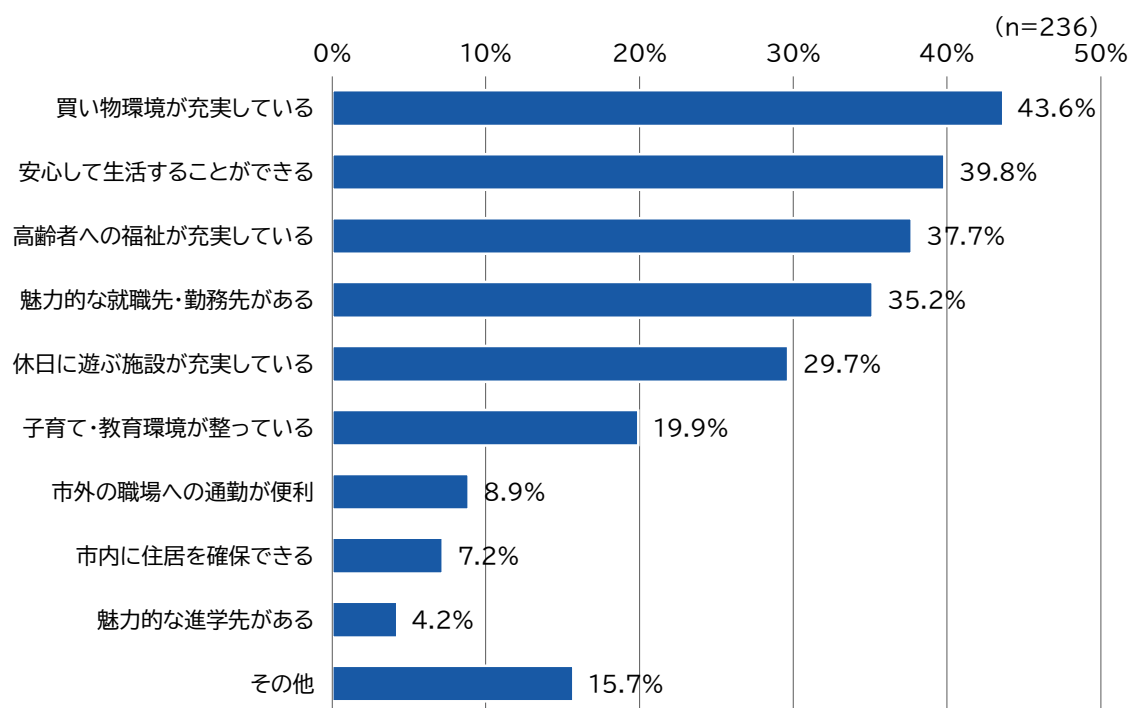


図 1-(2)-19 将来の十和田市に何があれば住みたい、戻ってきたいと思うか  
(その他の回答例)

- 交通機関の充実
- 医療機関の充実

図 1 - (2) -20 将来の十和田市に何があれば住み続けたい、戻ってきたいと思うか  
(年齢階級別)

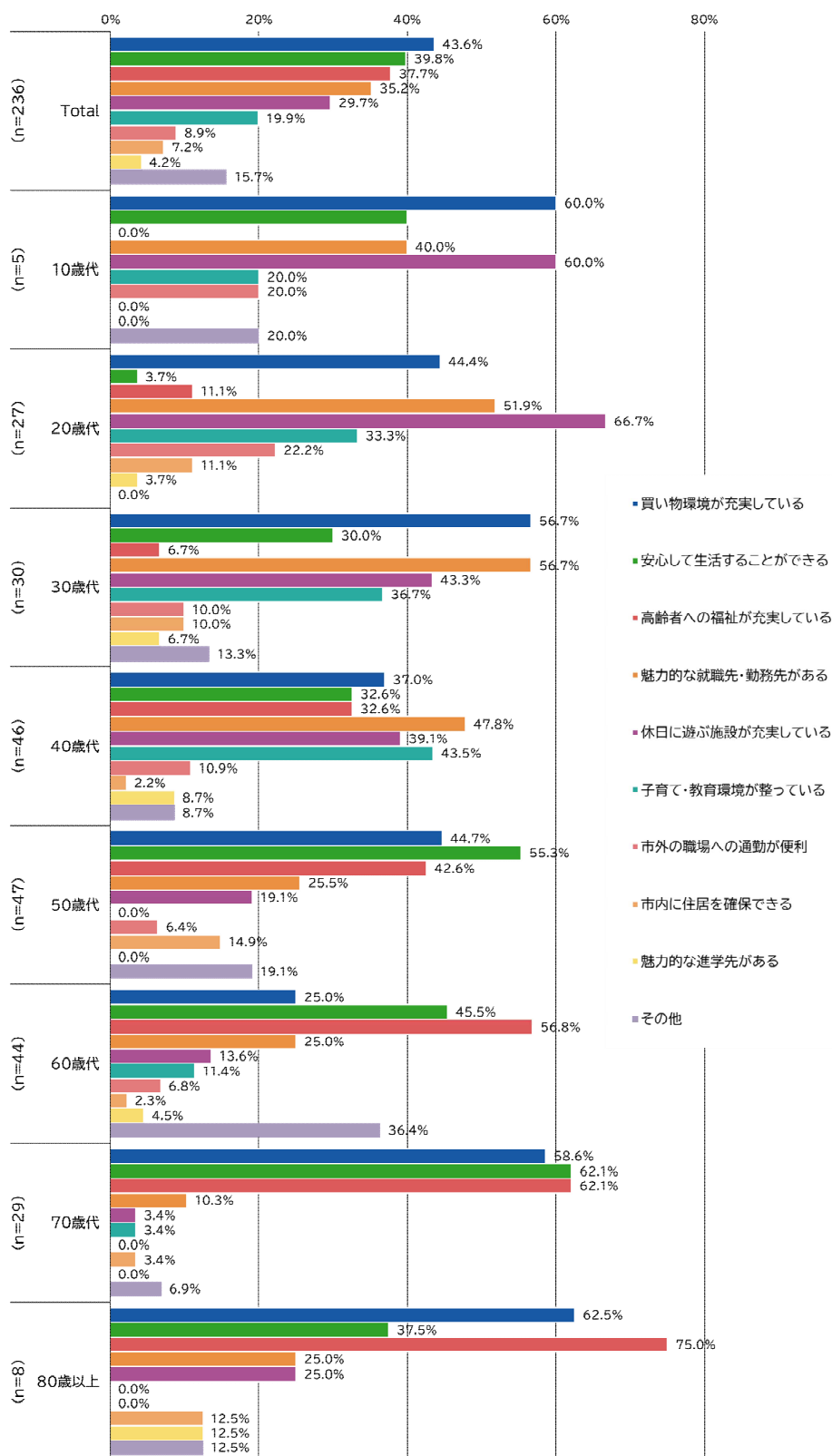
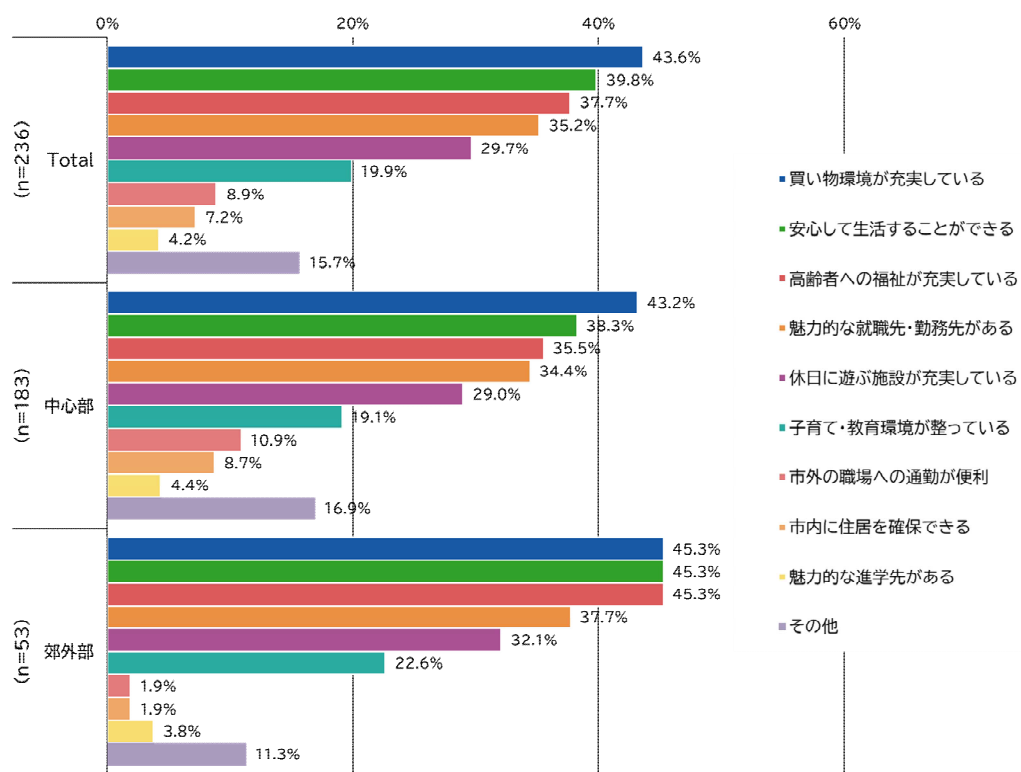


図 1-(2)-21 将来の十和田市に何があれば住み続けたい、戻ってきたいと思うか  
(地域区分別)



### (3) 幸福度について

#### ①幸福度

幸福度を0～10点の間で聞いたところ、平均は6.38点であり、幸福度は中間よりもやや高いと感じられている。内訳を見ると、5点と回答した割合が最も高く25.4%であり、平均的だと捉えている市民が比較的多いが、次いで8点、7点と高い幸福度を示した市民が多く、一方で0～2点といった極端に低い得点を回答した市民はほとんどいなかった。

性別に見ると、幸福度の平均点は男性（6.46点）の方が女性（6.33点）よりやや高い。年齢階級別に見ると、60歳代（6.62点）が最も高く、70歳代・80歳以上も平均を上回っている。一方で10～20歳代（6.46点）も平均を上回っており、30～50歳代の中間年齢層が平均を下回る緩やかなV字型になっている。

図 1- (3) -1 幸福度の点数別回答割合

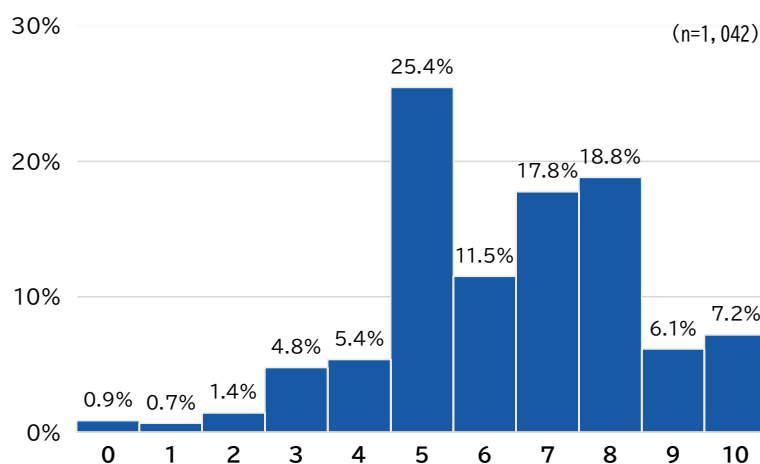
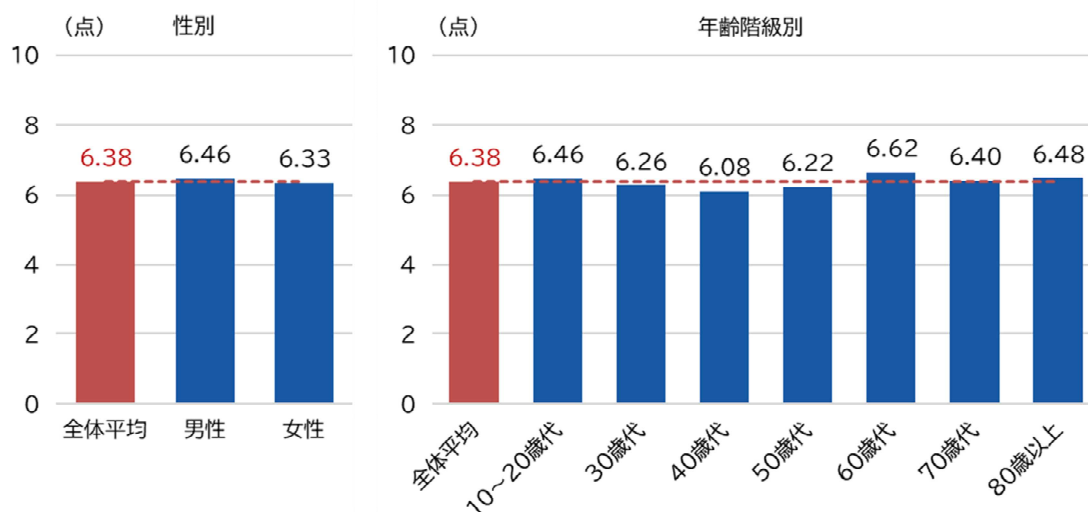


図 1- (3) -2 幸福度の平均点（性別・年齢階級別）



## ②幸福の実感を判断する上で重視したこと

幸福の実感を判断する上で重視したことについては、「健康状態」(64.5%)と「家族・友人関係」(64.4%)の割合が特に高く、約3分の2の市民が回答している。ついで「所得・収入」(39.5%)、「良好な生活環境」(38.7%)と続く。

性別に見ると、全体的な傾向はほぼ同様であるが、男性は「趣味などの生きがい」「就業状況」の割合がやや高く、女性は「健康状態」「家族・友人関係」の割合がやや高い。

年齢階級別に見ると、「健康状態」は年齢が高いほど回答割合が高く、「家族・友人関係」「所得・収入」は年齢が低いほど回答割合が高い傾向が見られる。10～20歳代は、「趣味などの生きがい」が他の年齢階級より際立って高く、一方で「良好な生活環境」の割合が低くあまり重視されていない。

なお、「趣味などの生きがい」については、10～20歳代は約半数が回答するなど高い割合となっているが、30歳代になるとそのさらに約半数に減少している。

図 1-(3)-3 幸福の実感を判断する上で重視したこと

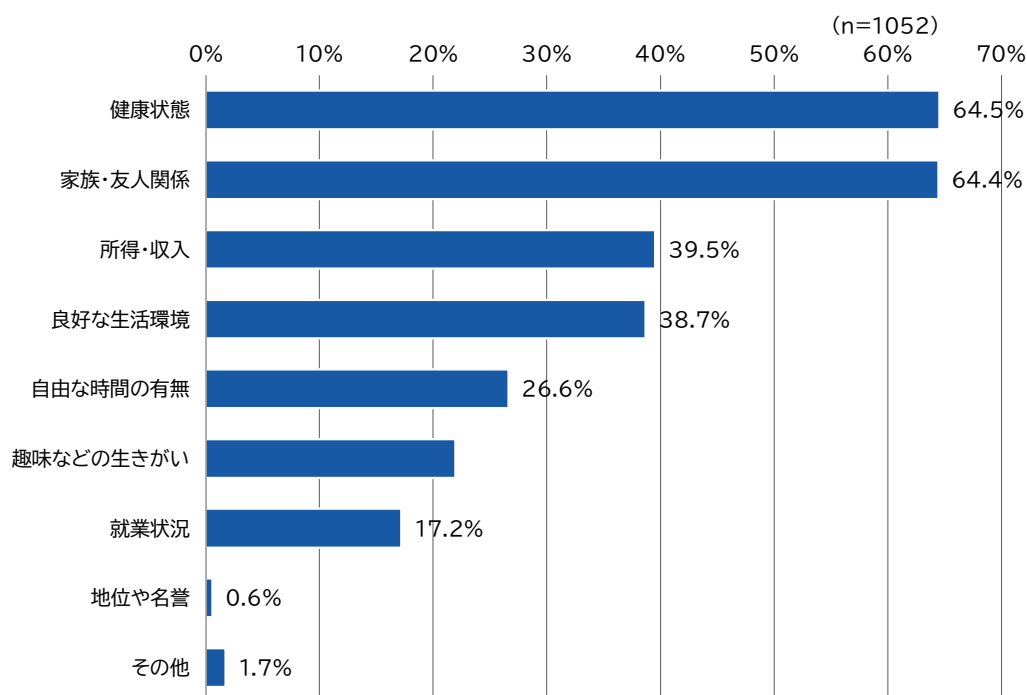


図 1-(3)-4 幸福の実感を判断する上で重視したこと（その他の回答例）

- 子ども・孫に会えるから。子どもの生活が安定しているから。
- 子どもが大人になっても暮らせる環境があるかないか
- 災害が少ないこと
- 主体的活動の場がある。自己研鑽・学習と仲間との実践・活動。

図 1-(3)-5 幸福の実感を判断する上で重視したこと（性別）

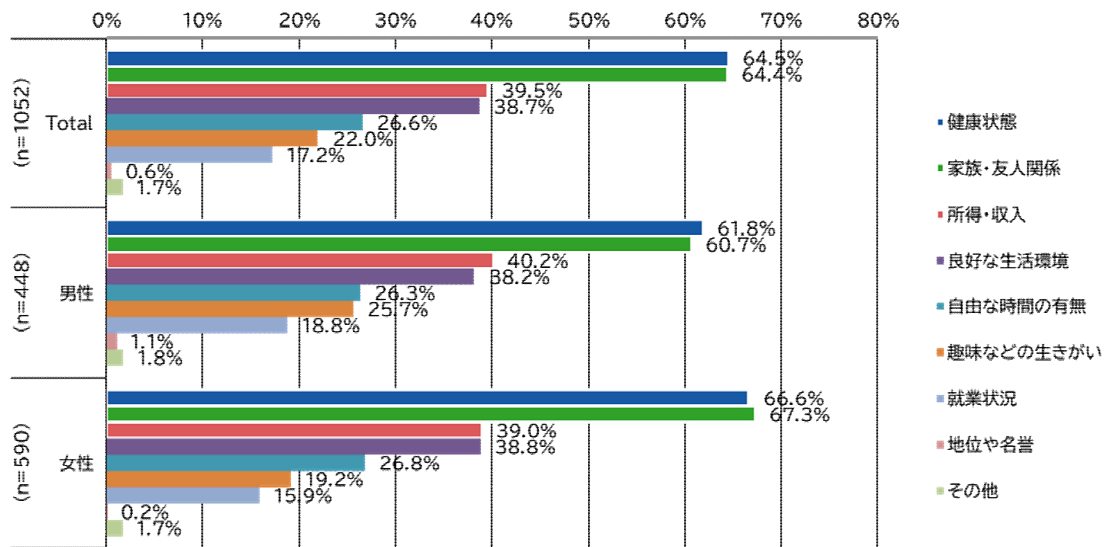
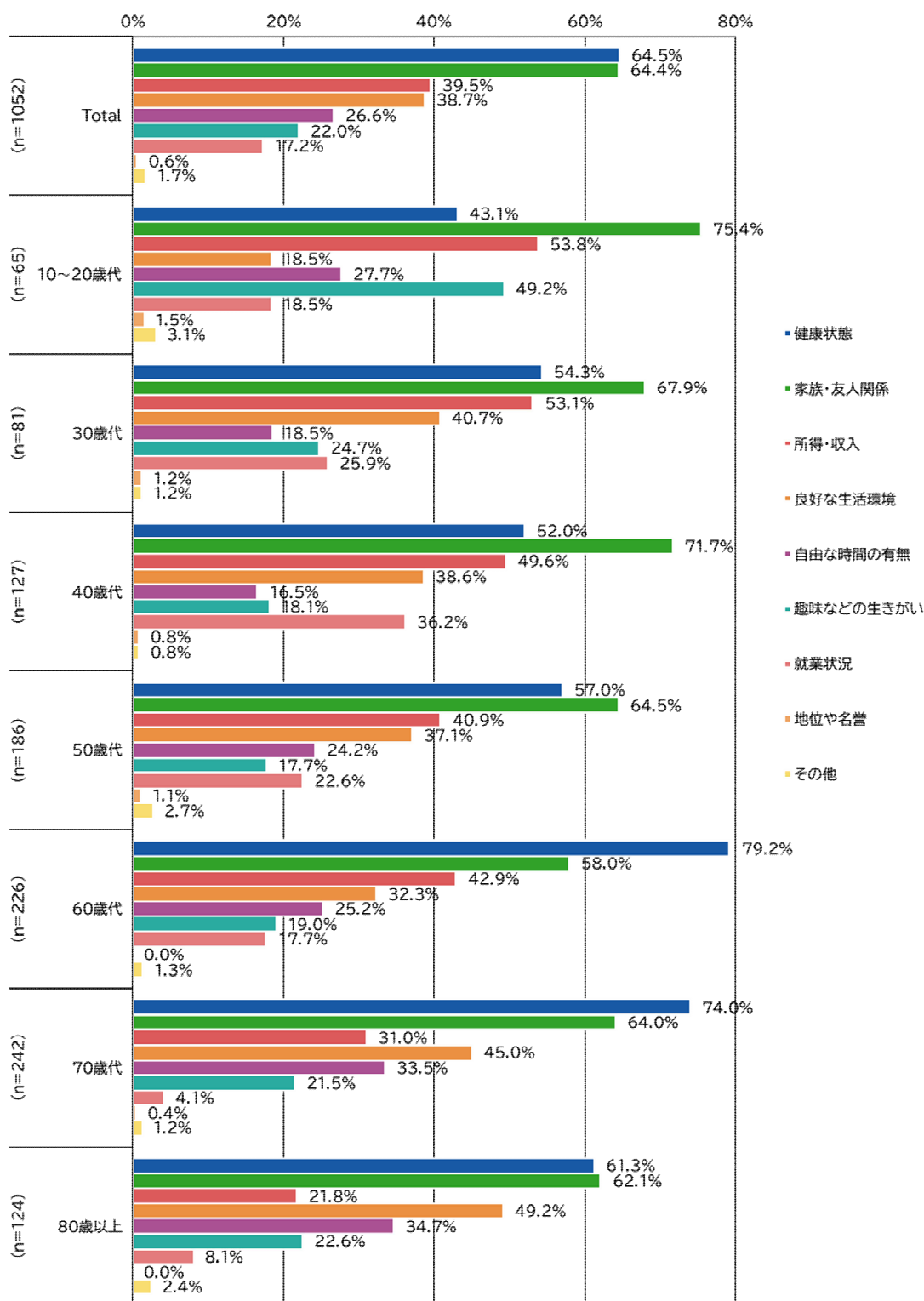


図 1 - (3) -6 幸福の実感を判断する上で重視したこと（年齢階級別）



### ③十和田市に住んでいることで幸せを感じること

「災害が少なく安心して暮らせること」「豊かな自然環境」「家族や友人とのつながり」「日常生活の安定と利便性」「趣味や余暇の充実」等に関する意見が多く見られた。

一方で、幸せを感じない・実感がないという声もあり、今後のまちづくりの課題も示唆されている。

図 1-(3)-7 十和田市に住んでいることで幸せを感じること（主な意見）

#### ■ 災害が少ない・安心して暮らせる

- ・ 地震や台風などの自然災害が少なく、安心して生活できることに幸せを感じるという声が圧倒的に多い

#### ■ 自然環境の豊かさ

- ・ 奥入瀬溪流、十和田湖、八甲田山などの美しい自然や四季の変化、空気や水のおいしさ、静かな環境に癒やしや誇りを感じる
- ・ 桜並木や街路樹、田園風景、星空など、身近な自然に触れる時に幸せを感じる

#### ■ 家族・友人・知人とのつながり

- ・ 家族や親戚、友人が近くに住んでいて、すぐ会える安心感や団らんの時間、交流の機会が幸せの源
- ・ 地域の人との交流やイベント、祭りなどで人とつながることに喜びを感じる

#### ■ 日常生活の安定・利便性

- ・ 普通に平穩に暮らせること、健康で過ごせること、生活に必要な施設（病院、スーパー、公共施設など）が身近にあること
- ・ 買い物や通院が便利、交通の利便性が良いと感じる人もいる

#### ■ 趣味・余暇の充実

- ・ 散歩、スポーツ、家庭菜園、温泉、釣り、カラオケなど、趣味や余暇を楽しめる環境があること

#### ■ その他

- ・ 十和田市の美しい街並みや文化施設（美術館、図書館など）に誇りを感じる人もいる
- ・ 一方で「特に幸せを感じない」「何もない」「不便」といった否定的な意見も一定数あり、個人差が見られる / 等

テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、十和田市に住んでいることで幸せを感じることで多く挙げられたキーワードは、「災害が少ないこと」「自然が豊か」「家族や友人が近くにいる」「静かで落ち着いた環境」「四季や景観の美しさ」「生活利便性」などであった。災害が少なく自然が豊かで静かさや景観の美しさがあるという環境のよさが十和田市における幸せの大きな要素となっており、さらに家族や友人が近くにいることも重要な幸せの要素となっている。また、買い物や交通等の生活利便性、健康や趣味の充実、文化・教育等に関する意見も見られた。

一方で、「特に幸せを感じない」「不便」「魅力がない」といった否定的な意見も一定数見られた。

図 1 - (3) -8 十和田市に住んでいることで幸せを感じること  
(テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)

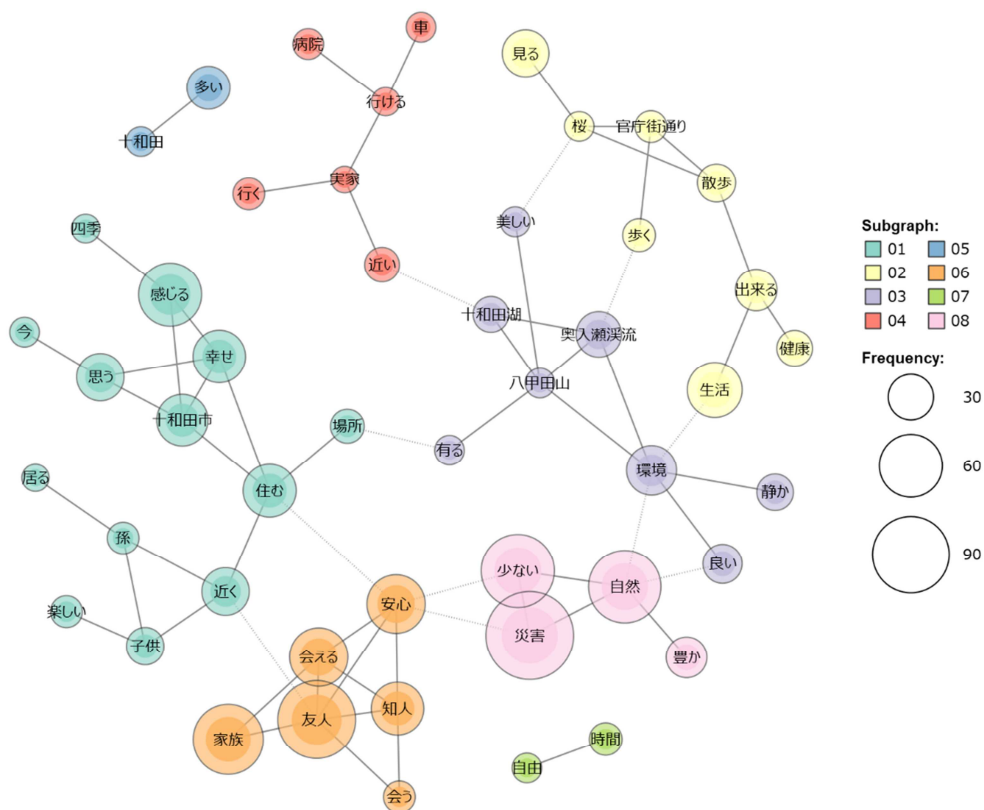
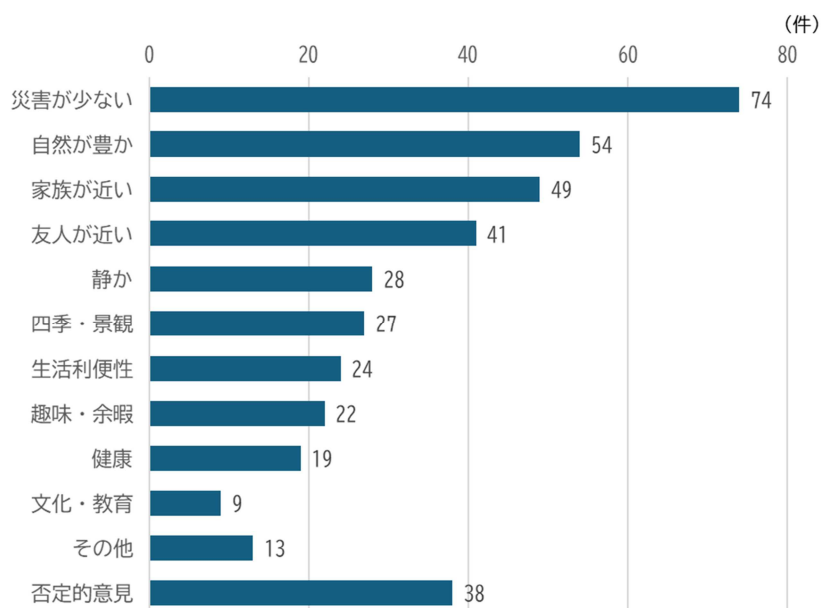


図 1 - (3) -9 十和田市に住んでいることで幸せを感じる事（キーワード別件数）



キーワード（カテゴリ）	キーワード（カテゴリ）ごとの主な特徴
災害が少ない	最も多い。安全・安心・災害が少ないことへの満足感
自然が豊か	山・湖・溪流・空気・水・田園など自然環境への満足
家族が近い	家族・親戚・孫が近くにいることの安心感
友人が近い	友人・知人が近くにいることの安心感
静か	騒音が少ない、人が少ない、のんびりできる
四季・景観	桜、紅葉、八甲田山、奥入瀬溪流などの景観や四季
生活利便性	買い物・病院・交通・施設が便利
趣味・余暇	趣味、ドライブ、カラオケ、温泉、家庭菜園など
健康	健康でいられる、散歩、運動
文化・教育	美術館、図書館、イベント、子育て
その他	ふるさと、普通に暮らせる、自由、安心感など
否定的意見	特になし、感じない、不便、魅力がない

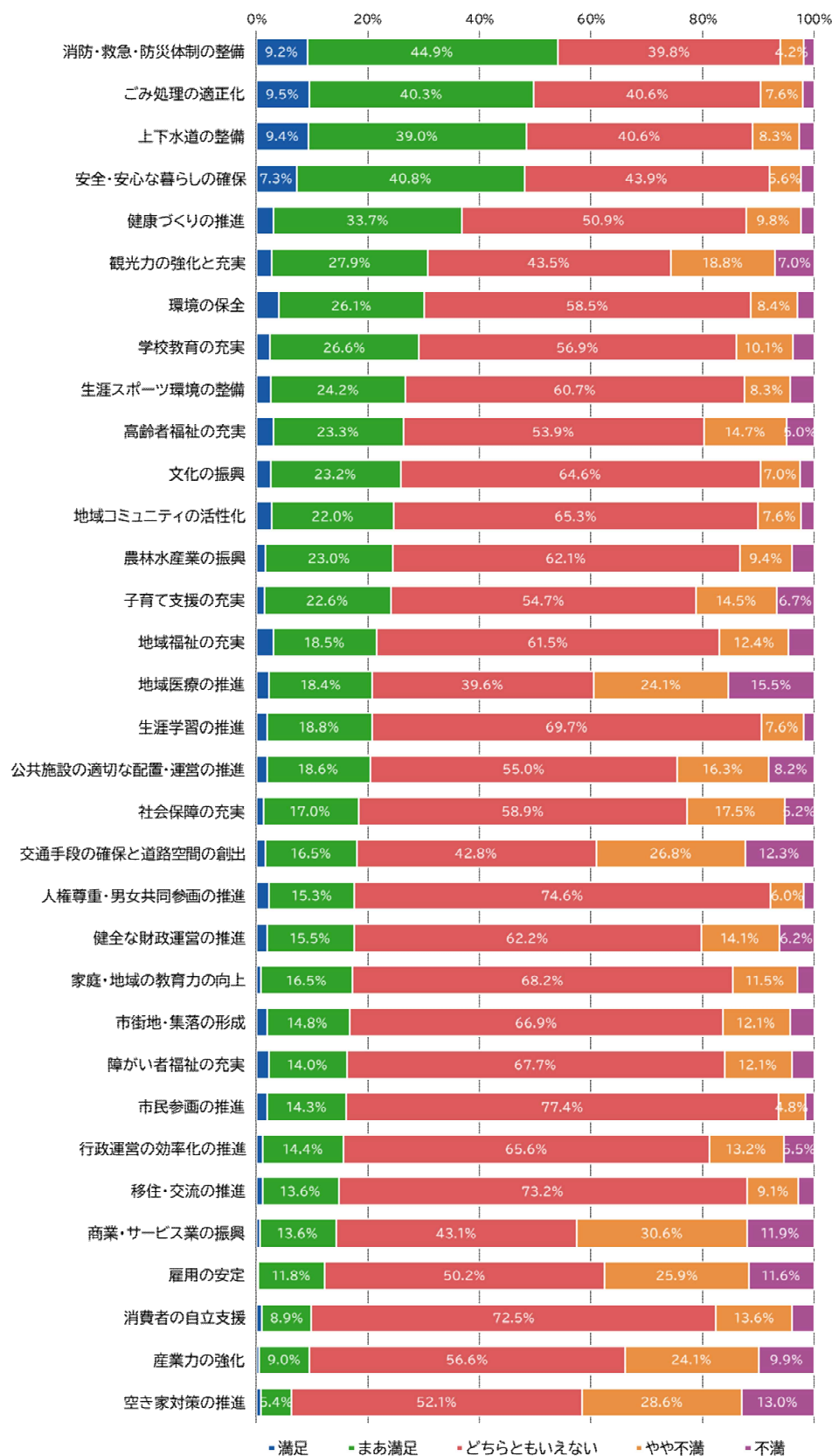
## (4) 施策の満足度・重要度

### ①施策の満足度

「満足」、「やや満足」の割合の合計は、「消防・救急・防災体制の整備」が最も高く 54.1% である。次いで、「ごみ処理の適正化」(49.3%)、「安全・安心な暮らしの確保」(48.1%) である。

「不満」と「やや不満」の割合の合計は、「商業・サービス業の振興」が最も高く 42.5% である。次いで、「空き家対策の推進」(41.6%)、「地域医療の推進」(39.5%) である。

図 1-(4)-1 施策の満足度（「重要」+「まあ重要」の多い順）

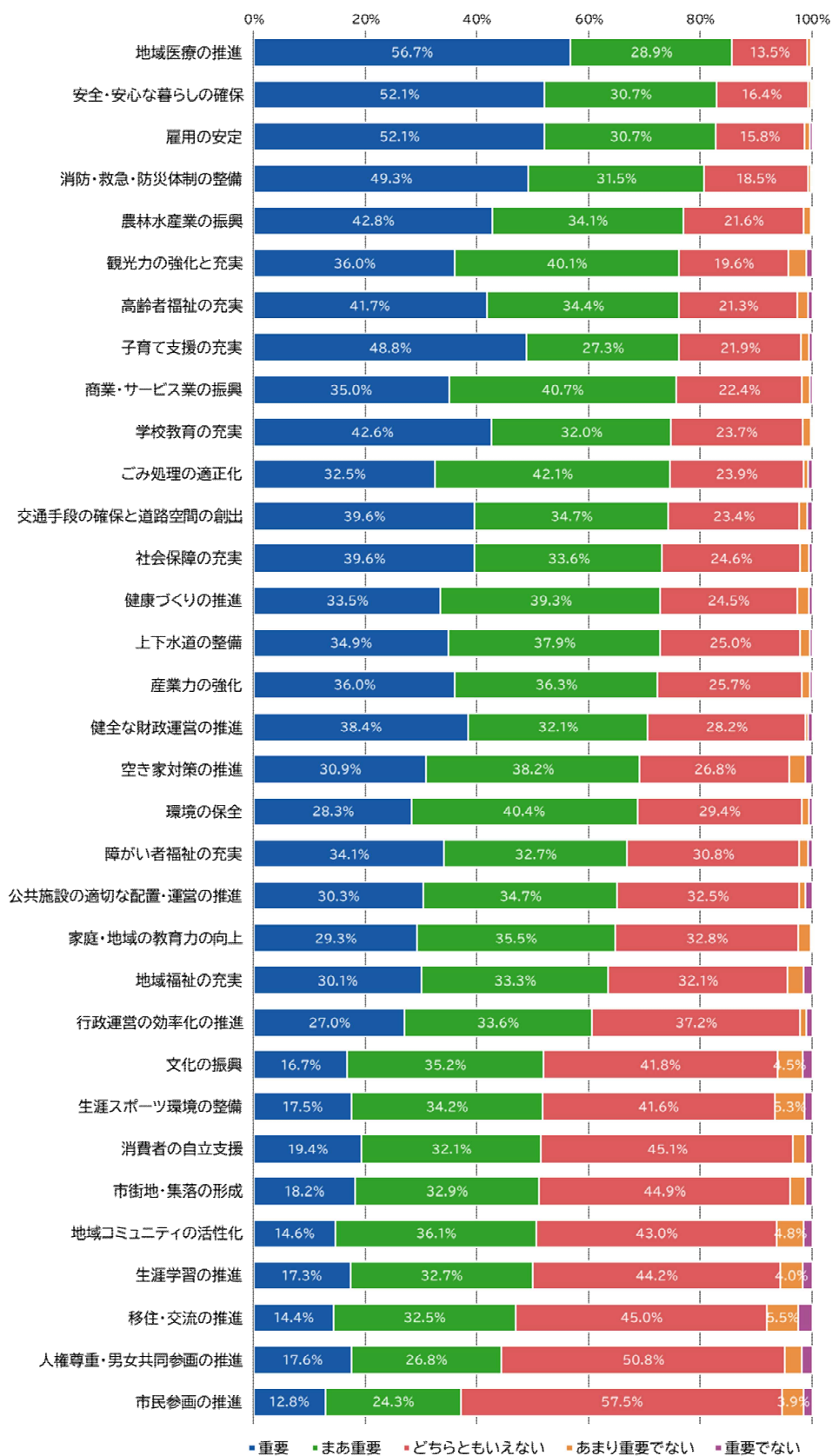


## ②施策の重要度

「重要」、「まあ重要」の割合の合計は、「地域医療の推進」が最も高く 85.6%である。次いで、「安全・安心な暮らしの確保」(82.8%)、「雇用の安定」(82.8%)である。

「重要でない」、「あまり重要でない」の割合の合計は、「移住・交流の推進」が最も高く 8.1%である。次いで、「生涯スポーツ環境の整備」(6.7%)、「文化の振興」(6.3%)、「地域コミュニティの活性化」(6.4%)、「生涯学習の推進」(5.7%)である。

図 1-(4)-2 施策の重要度（「重要」+「まあ重要」の多い順）



### ③満足度×重要度の分析

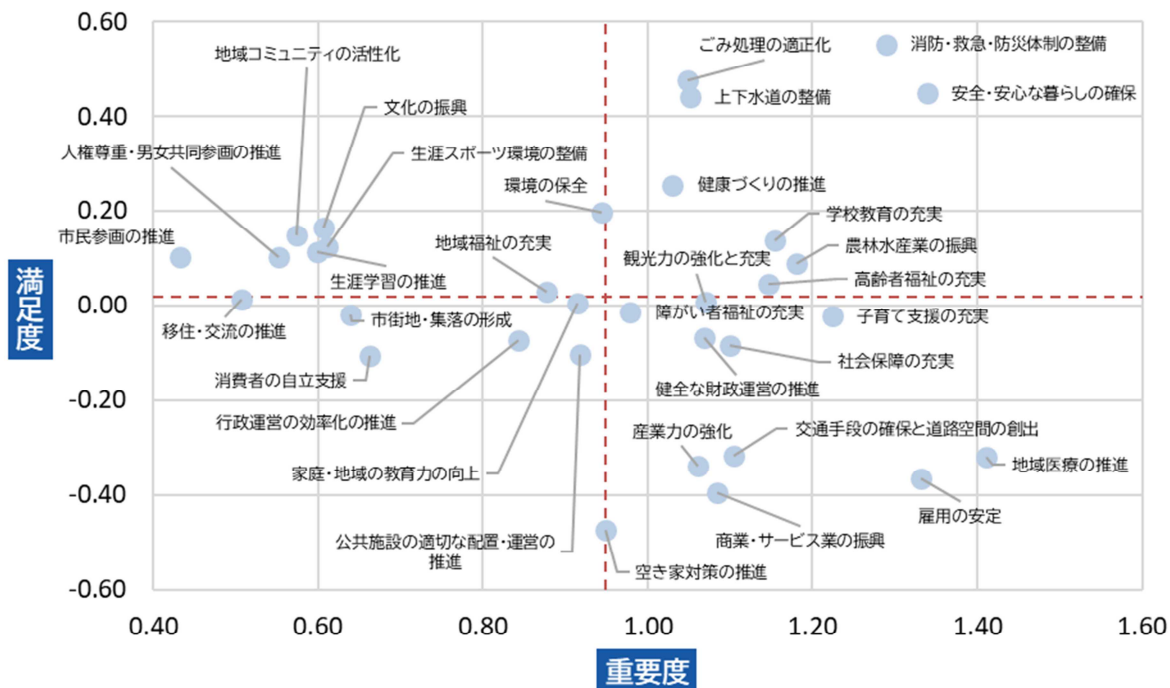
施策の満足度と重要度の関係は以下の通りである。

満足度・重要度ともに高いのは、「消防・救急・防災体制の整備」「安全・安心な暮らしの確保」「学校教育の充実」「農林水産業の振興」などであり、これらは本市の強みとなっているといえる。

一方、満足度・重要度ともに低い左下の象限に位置する施策は少ないが、「行政運営の効率化の推進」「公共施設の適切な配置・運営の推進」「消費者の自立支援」などは比較的低い値となっている。

最も重視すべきである重要度が高いが満足度が低いものは、「地域医療の推進」「雇用の安定」「子育て支援の充実」などであり、重点的な課題と捉えられる。

図 1 - (4) -3 施策の満足度・重要度（関係図）



注) 回答のうち以下の通りの点数を付与し、回答者の平均値をプロットした。

満足度：「満足」= 5点、「まあ満足」= 4点、「どちらともいえない」= 3点、「やや不満」= 2点、「不満」= 1点

重要度：「重要」= 5点、「まあ重要」= 4点、「どちらともいえない」= 3点、「あまり重要でない」= 2点、「重要でない」= 1点

図 1 - (4) -4 施策の満足度・重要度（数値）

番号	施策	満足度	重要度
1	農林水産業の振興	0.09	1.18
2	観光力の強化と充実	0.01	1.07
3	商業・サービス業の振興	-0.39	1.08
4	産業力の強化	-0.34	1.06
5	雇用の安定	-0.37	1.33
6	子育て支援の充実	-0.02	1.22
7	学校教育の充実	0.14	1.15
8	家庭・地域の教育力の向上	0.01	0.91
9	健康づくりの推進	0.26	1.03
10	地域医療の推進	-0.32	1.41
11	高齢者福祉の充実	0.05	1.15
12	障がい者福祉の充実	-0.01	0.98
13	地域福祉の充実	0.03	0.88
14	社会保障の充実	-0.08	1.10
15	生涯学習の推進	0.11	0.60
16	文化の振興	0.16	0.61
17	生涯スポーツ環境の整備	0.13	0.61
18	消防・救急・防災体制の整備	0.55	1.29
19	安全・安心な暮らしの確保	0.45	1.34
20	地域コミュニティの活性化	0.15	0.57
21	移住・交流の推進	0.01	0.51
22	空き家対策の推進	-0.47	0.95
23	消費者の自立支援	-0.11	0.66
24	環境の保全	0.20	0.94
25	ごみ処理の適正化	0.48	1.05
26	市街地・集落の形成	-0.02	0.64
27	交通手段の確保と道路空間の創出	-0.32	1.10
28	上下水道の整備	0.44	1.05
29	市民参画の推進	0.10	0.43
30	人権尊重・男女共同参画の推進	0.10	0.55
31	行政運営の効率化の推進	-0.07	0.84
32	健全な財政運営の推進	-0.07	1.07
33	公共施設の適切な配置・運営の推進	-0.10	0.92
	平均値	0.02	0.95

※平均より高い項目は赤字、低い項目は青字

年齢階級別で特に「重要度が高く、満足度が低い」項目に着目すると、「雇用の安定」「商業・サービスの振興」はほぼ全世代にわたって多くあげられている。若い世代では、「商業・サービスの振興」が多く、30歳代では「子育ての充実」も多い。50歳代以上は「地域医療の推進」が多い。

図 1-(4)-5 施策の満足度・重要度（関係図：年齢階級別：10～20歳代）

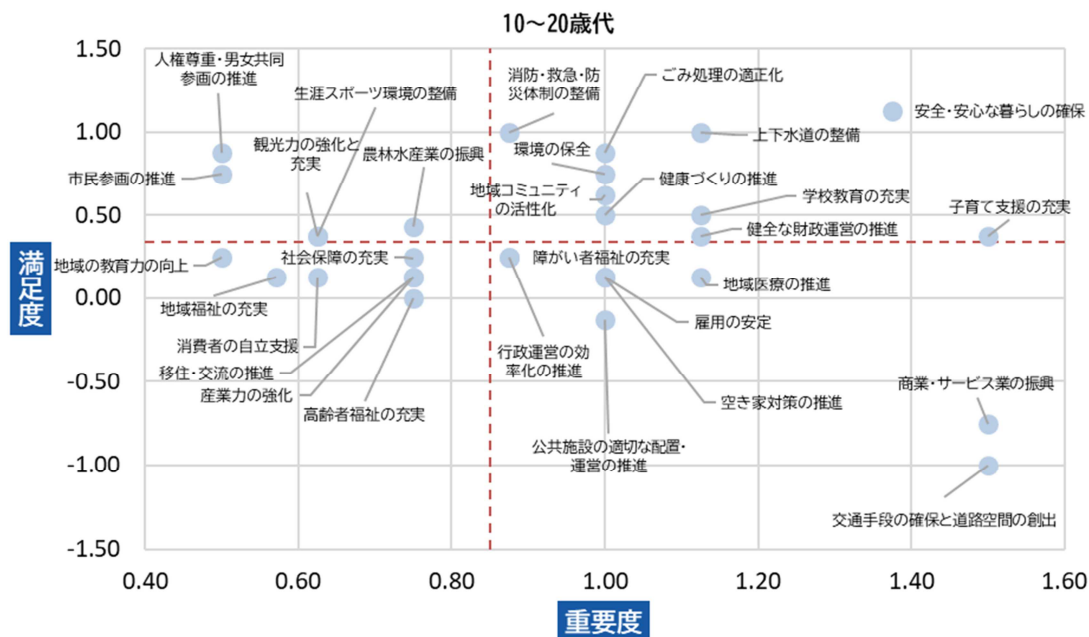


図 1-(4)-6 施策の満足度・重要度（関係図：年齢階級別：30歳代）

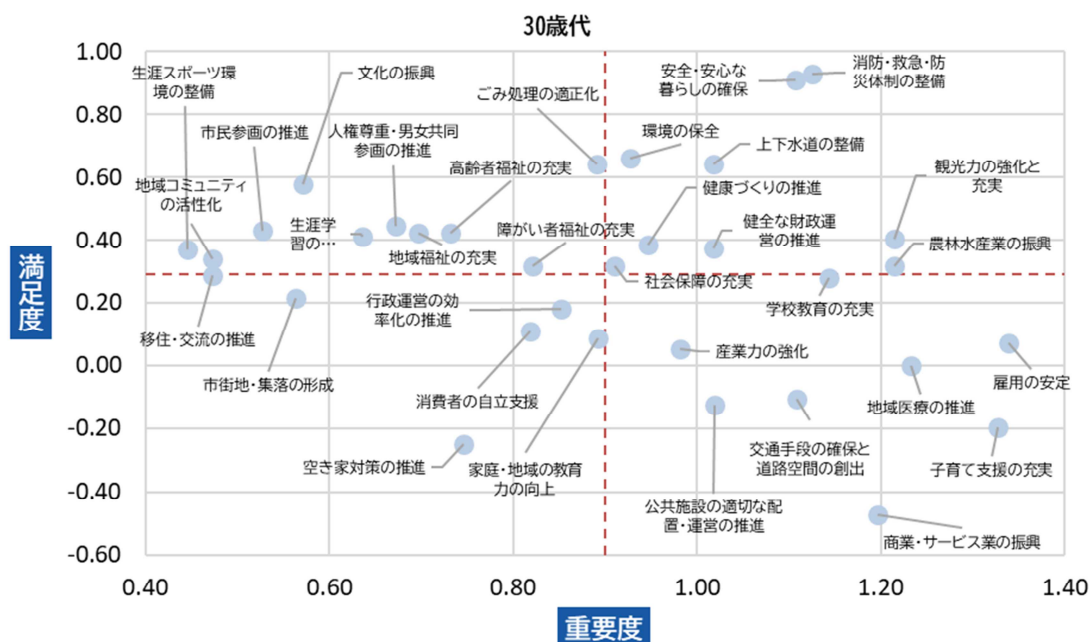


図 1 - (4) -7 施策の満足度・重要度（関係図：年齢階級別：40 歳代）

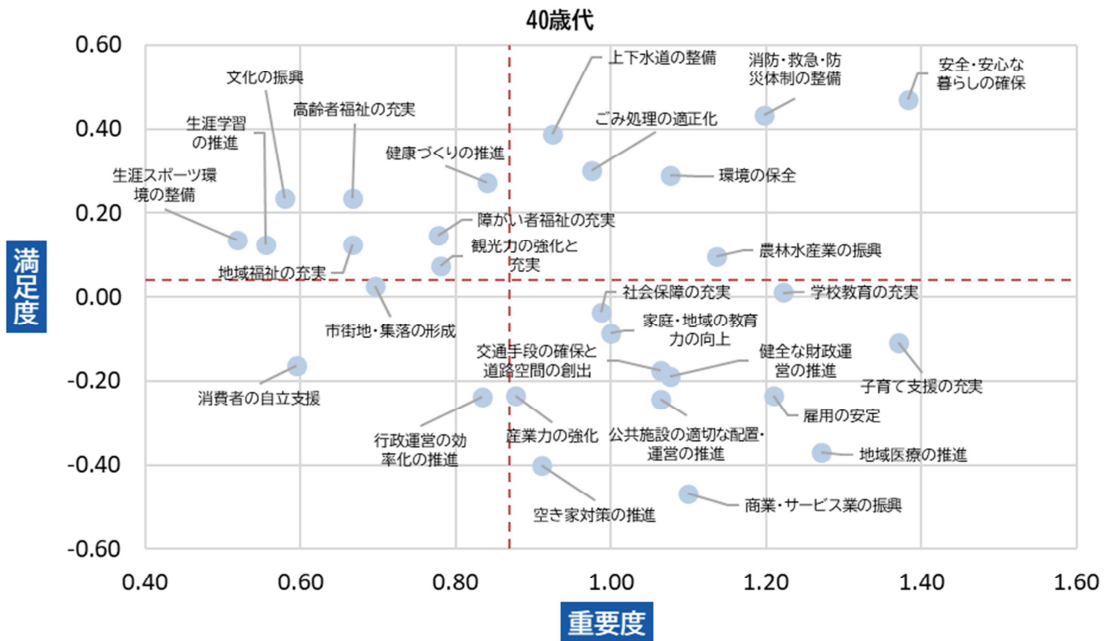


図 1 - (4) -8 施策の満足度・重要度（関係図：年齢階級別：50 歳代）

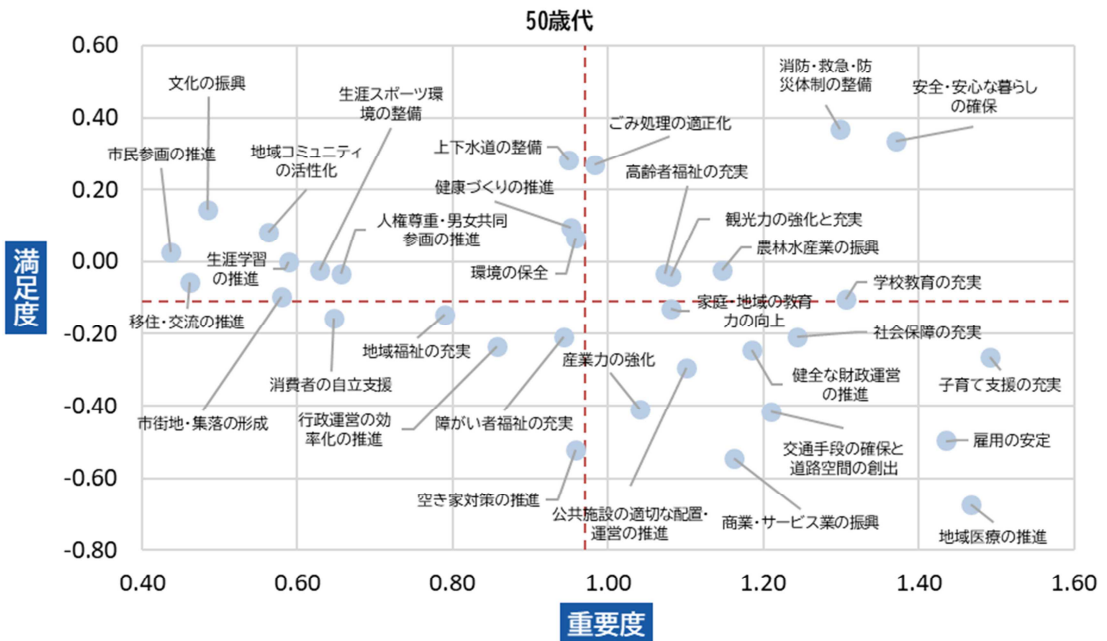


図 1 - (4) -9 施策の満足度・重要度（関係図：年齢階級別：60 歳代）

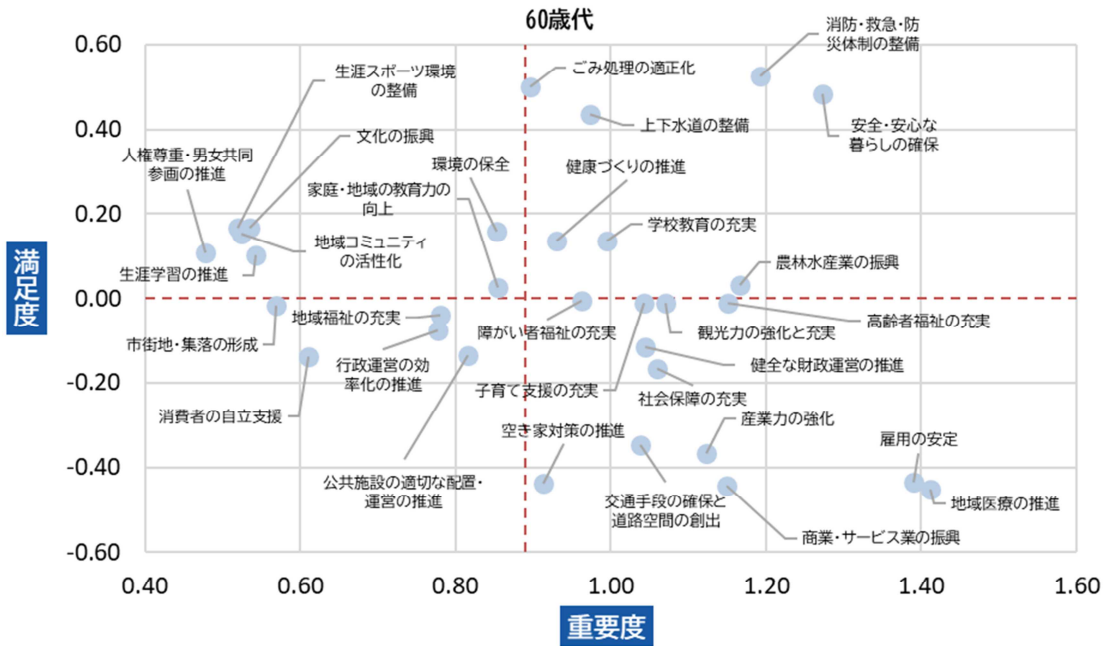


図 1 - (4) -10 施策の満足度・重要度（関係図：年齢階級別：70 歳代）

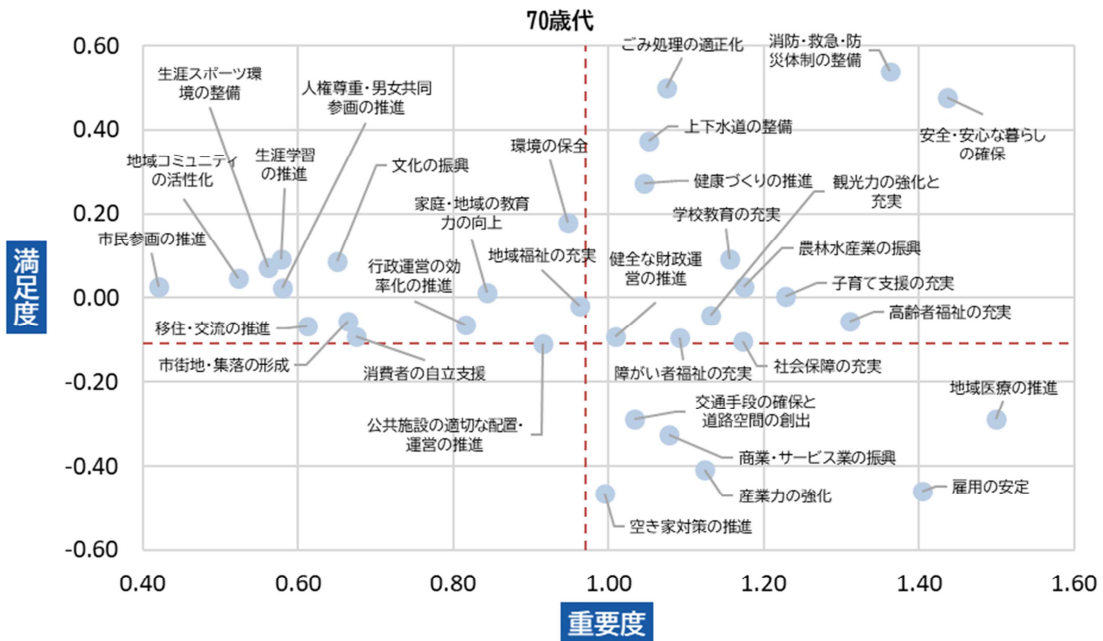
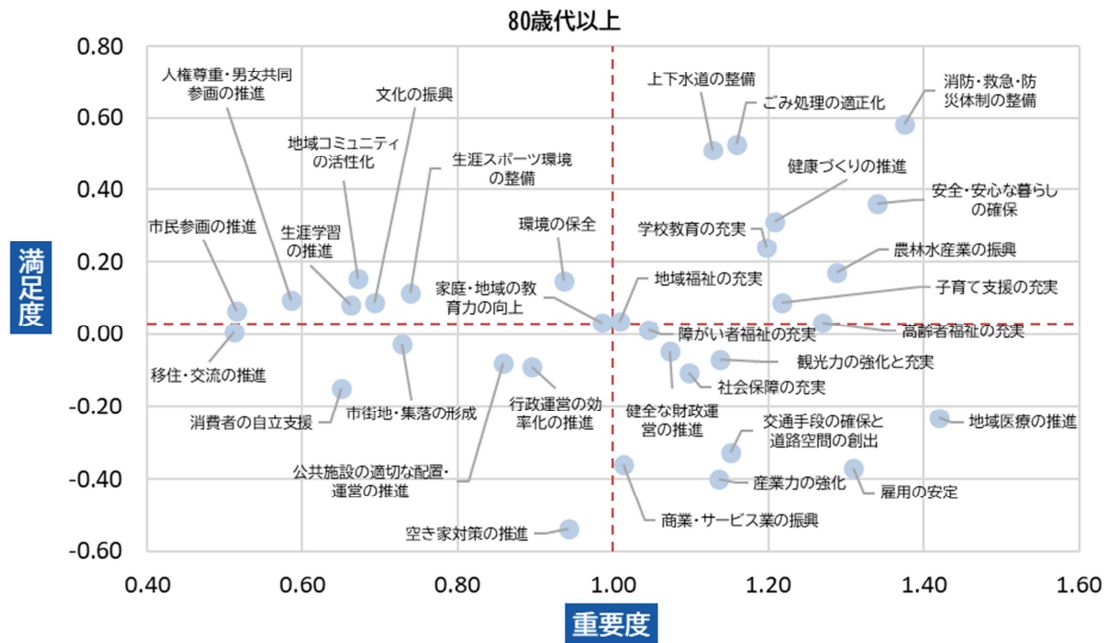


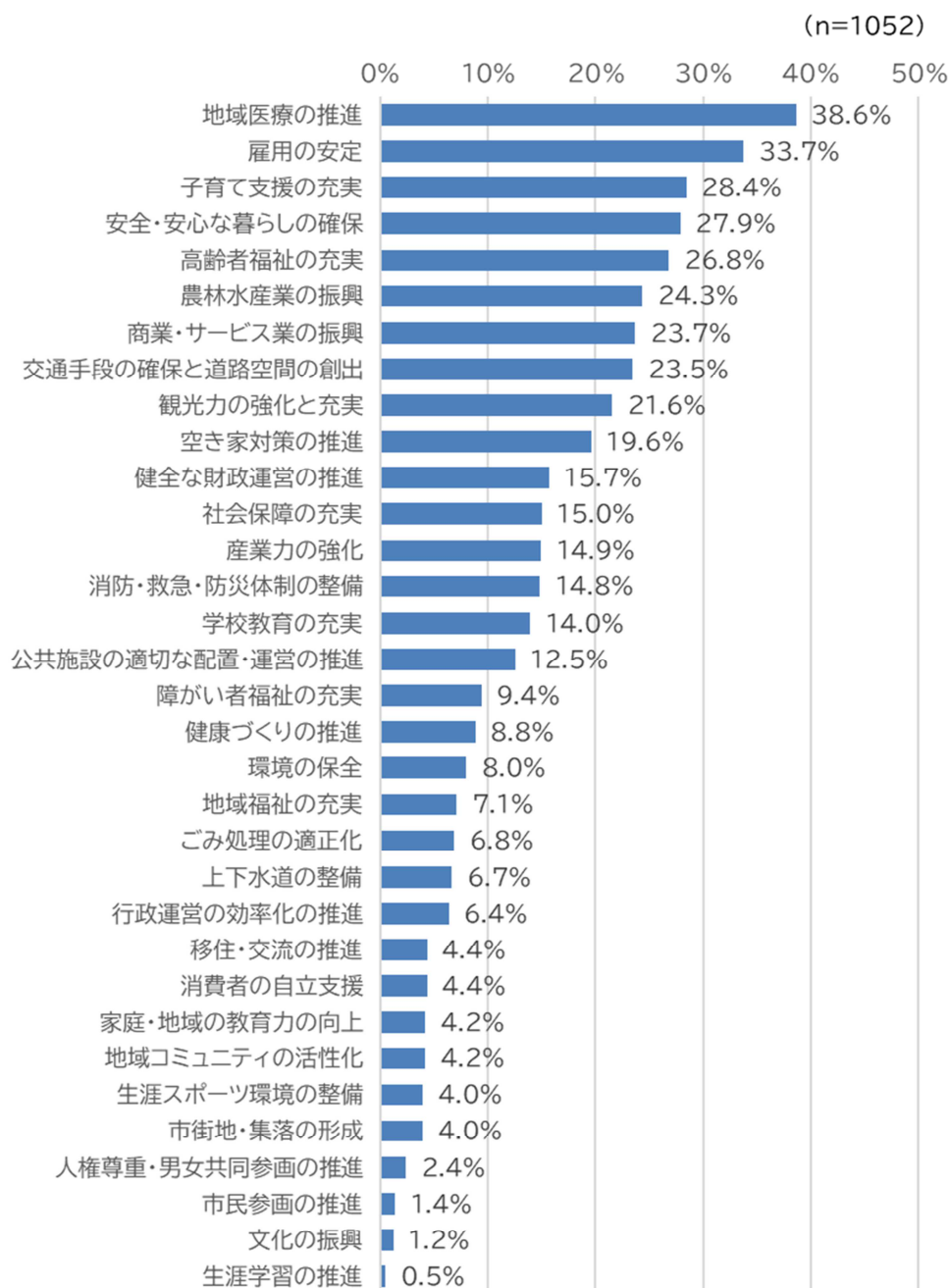
図 1 - (4) -11 施策の満足度・重要度（関係図：年齢階級別：80歳以上）



#### ④最も優先すべき施策

最も優先すべき施策としては、「地域医療の推進」(38.6%)、「雇用の安定」(33.7%)が多く、3割を超えている。次いで、「子育て支援の充実」(28.4%)、「安全・安心な暮らしの確保」(27.9%)、「高齢者福祉の充実」(26.8%)、「農林水産業の振興」(24.3%)と続く。

図 1 - (4) -12 最も優先すべき施策



### ⑤十和田市市全体がめざすべきまちの姿

「医療、救急体制や防災体制の整ったまち」の割合が最も高く 61.4%である。次いで、「健康と福祉の充実したまち」(37.6%)、「十和田湖や奥入瀬溪流、現代アートを活かした観光のまち」(35.9%)である。

年齢階級別に見ると、若い世代では「充実した子ども時代を過ごせるまち」が多くなっており、特に 20 歳代～30 歳代では最も多い回答となっている。「健康と福祉の充実したまち」「医療、救急体制や防災体制の整ったまち」は年齢が高い世代ではより高い回答割合となっている。「十和田湖や奥入瀬溪流、現代アートを活かした観光のまち」についてはほぼ全世代にわたって多くあげられている。

図 1-(4)-13 十和田市市全体がめざすべきまちの姿

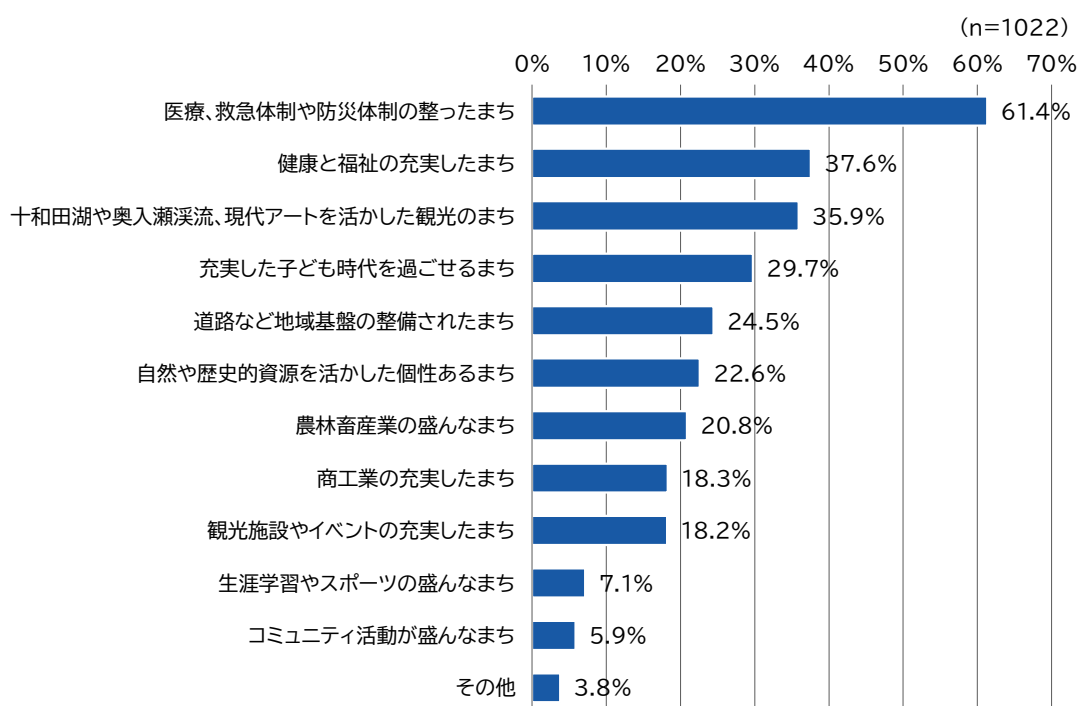
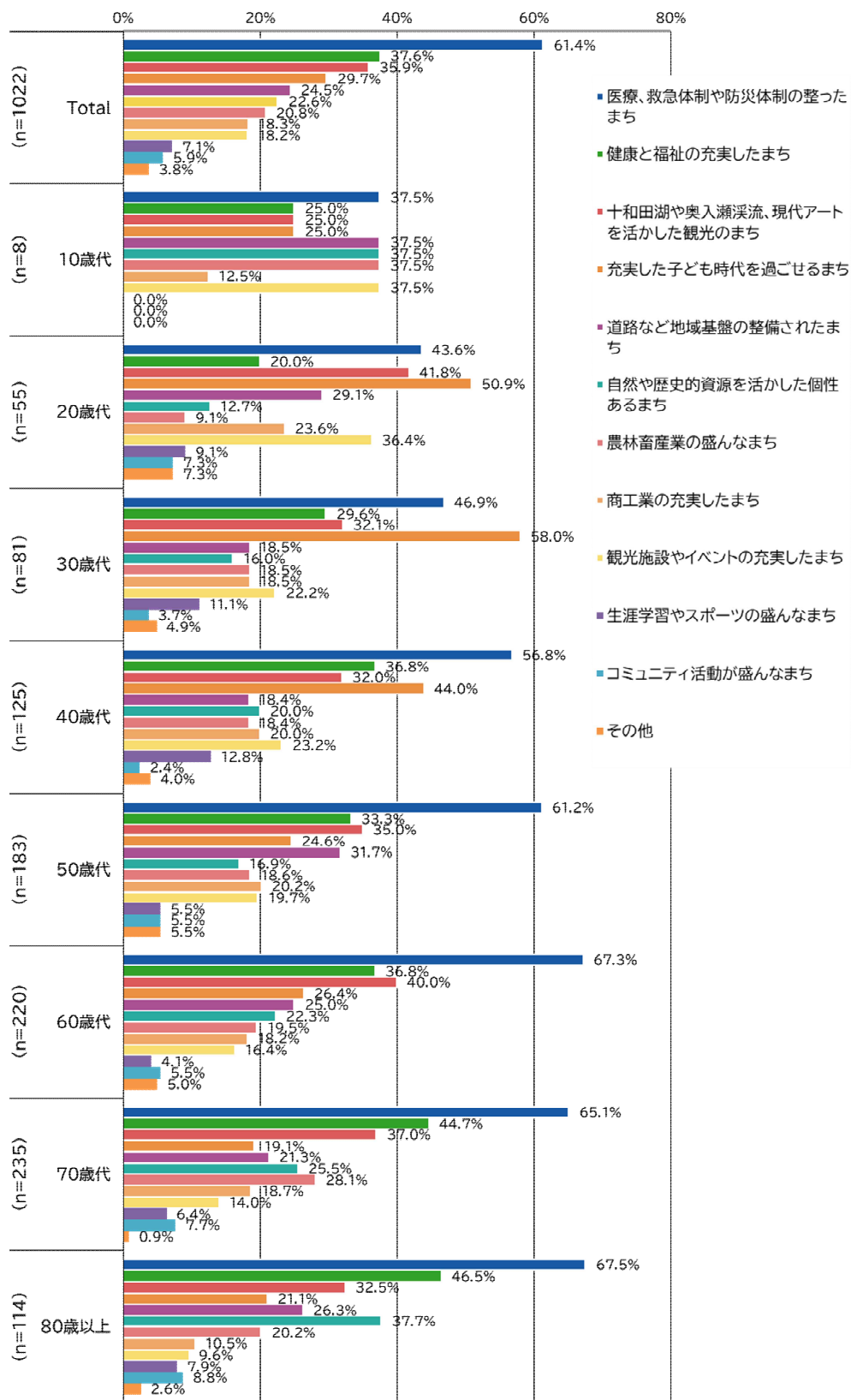


図 1-(4)-14 十和田市市全体がめざすべきまちの姿（その他の回答例）

- 若い人たちが希望をもって仕事に力を注げるまち作り
- 市外から若者を中心に移住・転入したいと思えるまち
- 子どもの居場所、子ども・若者の遊び場・娯楽が充実したまち
- 誰もが子育てしやすいまち、産婦人科の設置
- 人口減少対策に取り組むまち
- 増加傾向にある高齢者も活躍できるまち
- 外国人向けも含めた観光の発信力強化・PR
- 大学・企業の誘致

図 1 - (4) -15 十和田市市全体がめざすべきまちの姿（年齢階級別）



## (5) 結婚について

### ①結婚の状況

結婚している割合が 67.6%、結婚していない割合が 15.8%、結婚したことはあるが、離(死)別したが 16.6%である。

図 1-(5)-1 結婚の状況

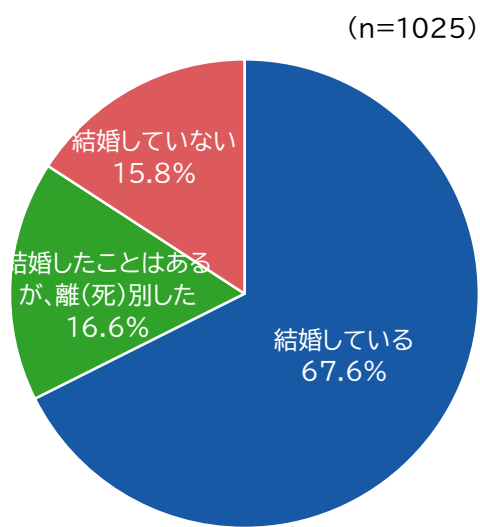
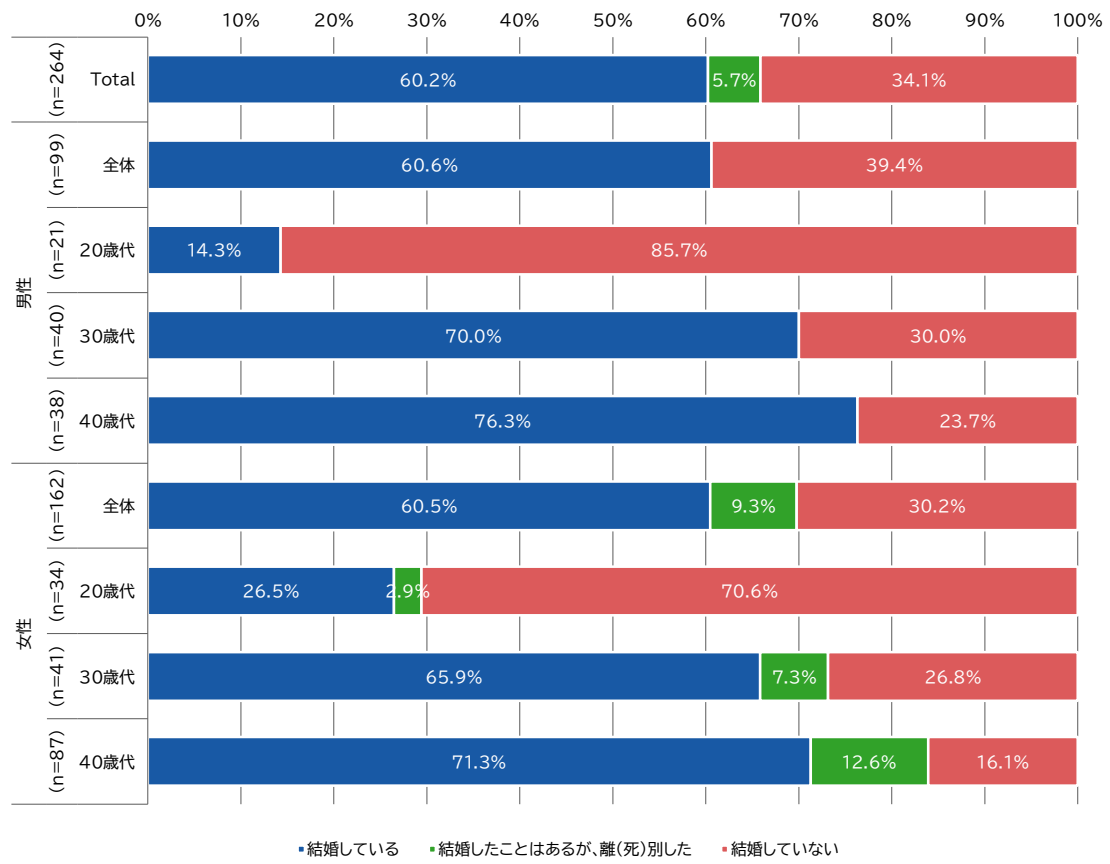


図 1 - ( 5 ) - 2 結婚の状況 ( 20-40 歳代、性年齢階級別 )



## ②結婚の意向

20～40 歳代の未婚または離別・死別のうち、「すぐにでも結婚したい」は 9.9%、「いずれは結婚したい」は 55.4%、「結婚したくない」は 34.7%である。

図 1 - (5) -3 結婚の意向 (20-40 歳代)

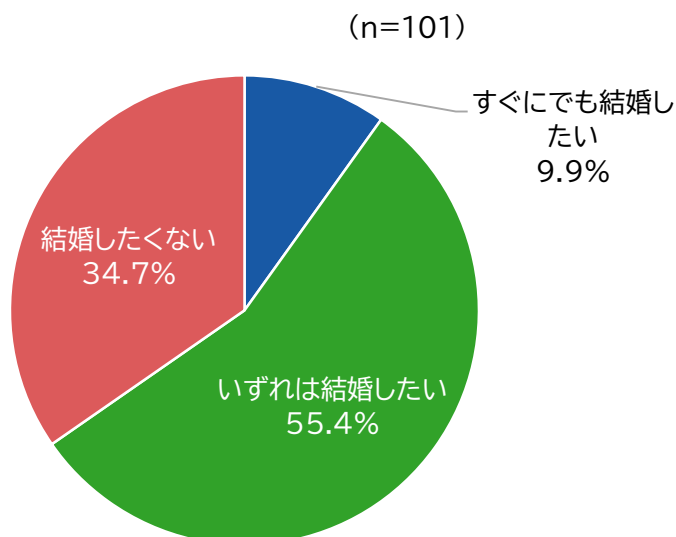


図 1 - (5) -4 結婚の意向 (20-40 歳代、未婚または離別・死別 別)

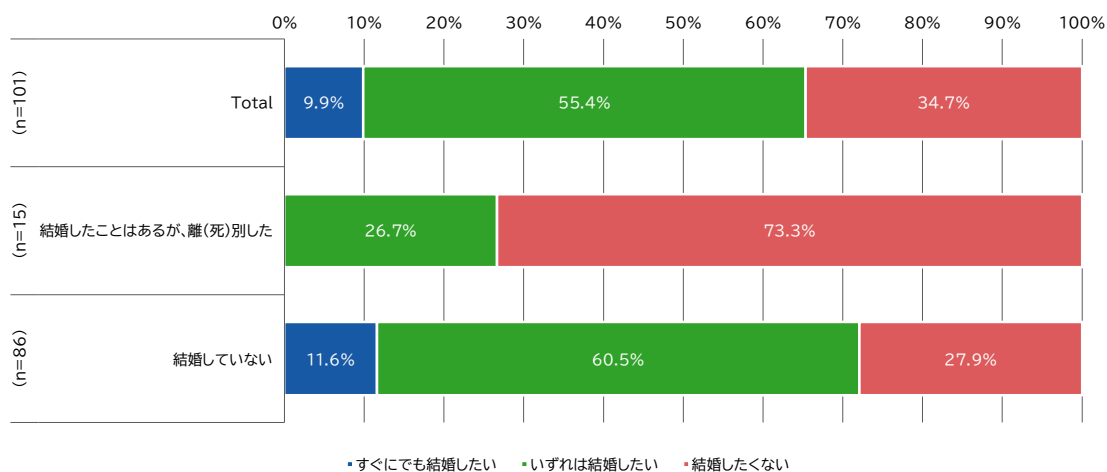
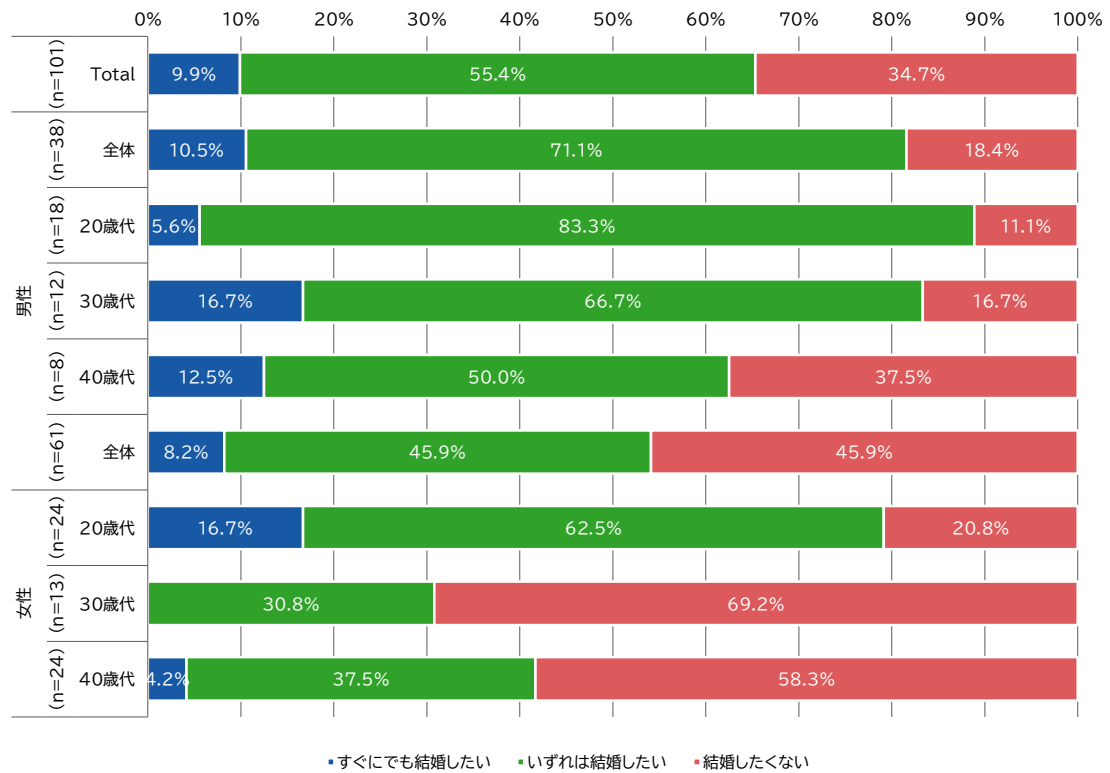


図 1 - ( 5 ) - 5 結婚の意向 ( 20-40 歳代、性年齢階級別 )



### ③結婚したいと思う年齢

「25～29歳」が最も多く23.7%である。一方、「結婚したくない・わからない」は34.0%である。

性別に見ると、男性では「30～34歳」、女性では「25～29歳」が最も多い。また、「結婚したくない・わからない」は男性で21.6%、女性で43.1%である。

図 1 - (5) -6 結婚したいと思う年齢 (20-40 歳代)

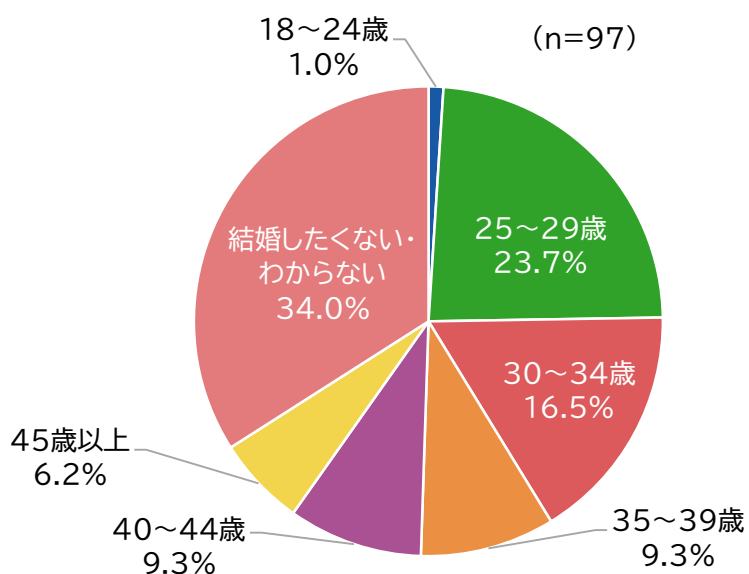
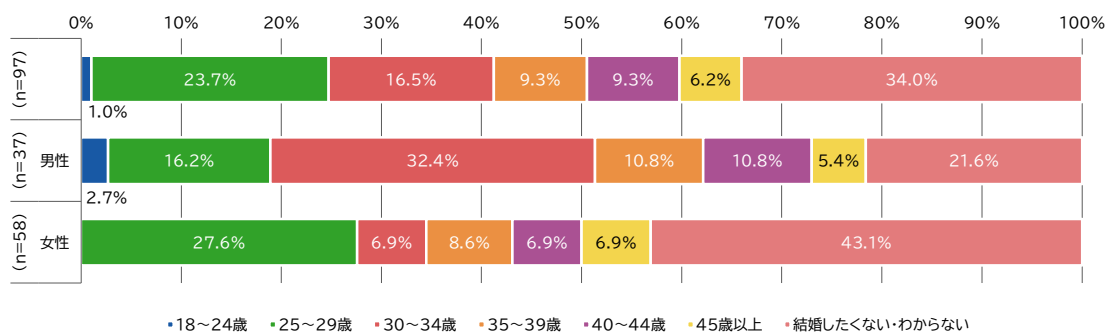


図 1 - (5) -7 結婚したいと思う年齢 (20-40 歳代、性別)



#### ④結婚していない・したくない理由

第一の理由では「結婚する必要性を感じないから」(33.1%)が最も多く、次いで「適当な相手にめぐり会わないから」(19.0%)、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(10.7%)である。

第二の理由では、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(29.4%)が最も多く、次いで「適当な相手にめぐり会わないから」(16.2%)、「趣味や娯楽を楽しみたいから」(14.2%)である。

第三の理由では、「適当な相手にめぐり会わないから」(19.5%)が最も多く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(14.8%)、「趣味や娯楽を楽しみたいから」(11.8%)である。

第一の理由を性別にみると、男性では「適当な相手にめぐり会わないから」(22.2%)が最も多く、女性では「結婚する必要性を感じないから」(26.2%)が最も多い。

図 1 - (5) -8 結婚していない・したくない理由

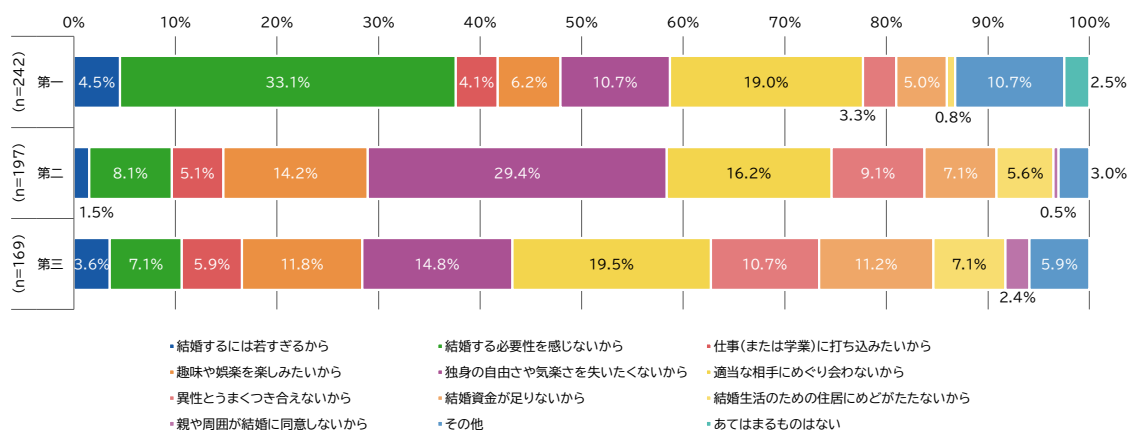
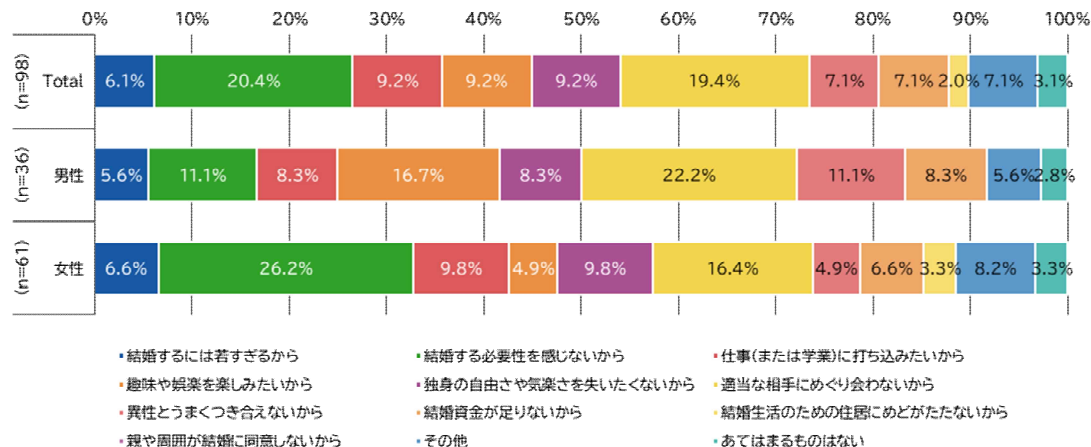


図 1 - (5) -9 結婚していない・したくない理由 (20-40 歳代、第一の理由、性別)



### ⑤結婚する機会を増やすための十和田市の支援策の実施について

「結婚は個人の問題であるものの、十和田市が行政として支援策を実施しても構わない」の割合が最も高く 40.7%である。次いで、「結婚しない人が増えれば、少子化が進み、まちの活力が低下するので、十和田市が行政として積極的に支援策を実施すべきである」(24.3%)、「結婚は個人の問題なので、十和田市が行政として支援策を実施するのはおかしい」(16.3%)である。

十和田市が実施すべき具体的な施策としては、市民の多くは「出会いの場の提供（イベント開催）」を求めており、婚活イベントだけでなく、友人づくりや趣味・サークル活動など、自然な交流の場を望む声が強。相談窓口やマッチングアプリの活用、参加しやすい工夫、結婚後の経済的支援も重要視されている。安定した雇用や生活環境の整備も、結婚支援策として不可欠との意見が多い。

図 1 - (5) -10 結婚する機会を増やすための十和田市の支援策の実施について

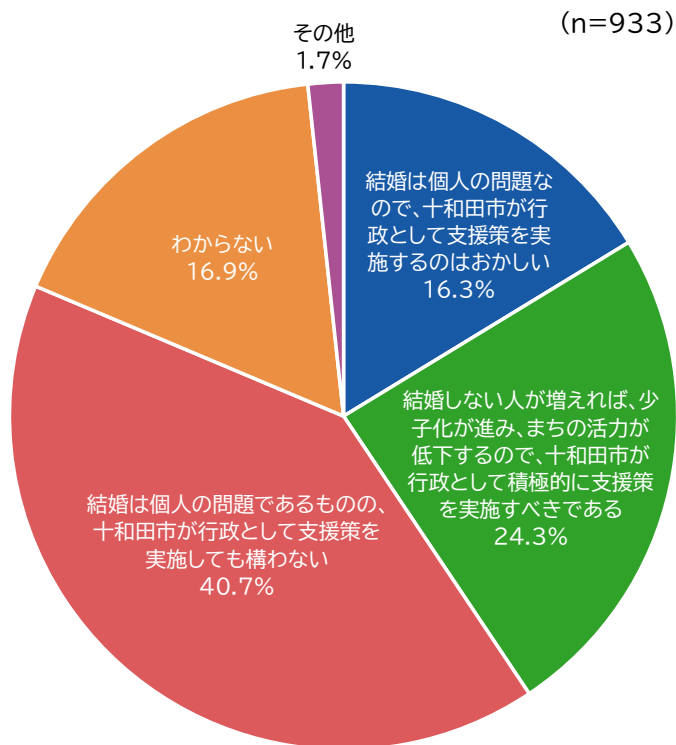


図 1 - (5) -11 結婚する機会を増やすための十和田市の支援策の実施について  
(主な意見)

■ 出会いの場の提供・イベント開催

- ・ 「イベントを開催し、結婚したい男女に出会いの場を提供する」という意見が圧倒的多数
- ・ 婚活パーティー、街コン、バスツアー、BBQ、スポーツ大会、趣味のサークルなど、気軽に参加できる交流イベントの開催を求める声が多い
- ・ 既婚者も参加できるようなサークル活動や、友人づくりを目的としたイベントも希望されている

■ 相談・アドバイス体制の充実

- ・ 結婚希望者の悩みや相談を受け付け、必要なアドバイスを行う窓口や結婚相談所の設置・周知
- ・ 仲人や世話人、地域婚活推進員など、個別にサポートする人材の育成・組織化

■ マッチングアプリ・オンライン活用

- ・ 市が運営する安心・安全なマッチングアプリやオンライン交流の場の提供
- ・ 個人情報管理や身元確認をしっかりと行うことで、参加者が安心できる仕組みを求める声

■ 参加しやすい工夫・雰囲気づくり

- ・ 参加費の男女格差の解消、無料や低額でのイベント開催
- ・ 「婚活」色を強く出さず、自然な交流や友人づくりを目的としたイベントの方が参加しやすいという意見
- ・ 年齢制限や既婚・未婚の枠にとらわれず、幅広い世代が参加できる場の提供

■ 結婚後の支援・経済的サポート

- ・ 結婚祝い金、住居支援、家賃補助、子育て支援、出産費用の補助など、結婚後の生活や子育てに対する支援策の充実
- ・ 安定した雇用や収入の確保が結婚への意欲につながるとの指摘も多い

■ その他

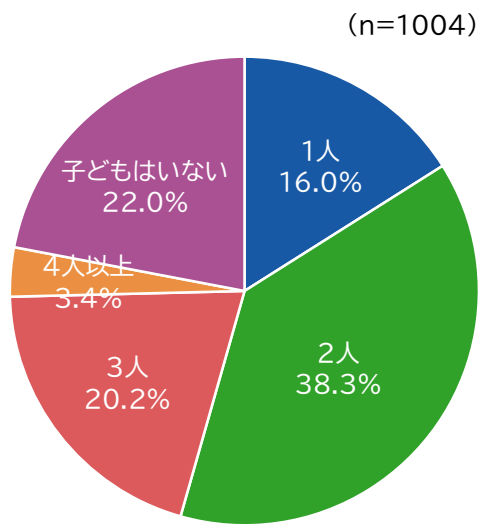
- ・ 県外・市外からの参加者も受け入れる広域イベントの開催
- ・ 企業や職場単位での交流イベント、ボランティア活動や趣味を通じた出会いの場の創出
- ・ 結婚に対する前向きなイメージづくりや、既婚者の体験談を聞く機会の提供 / 等

## (6) 出産について

### ①現在の子ども的人数

「2人」の割合が最も高く 38.3%である。次いで、「子どもはいない」(22.0%)、「3人」(20.2%)である。

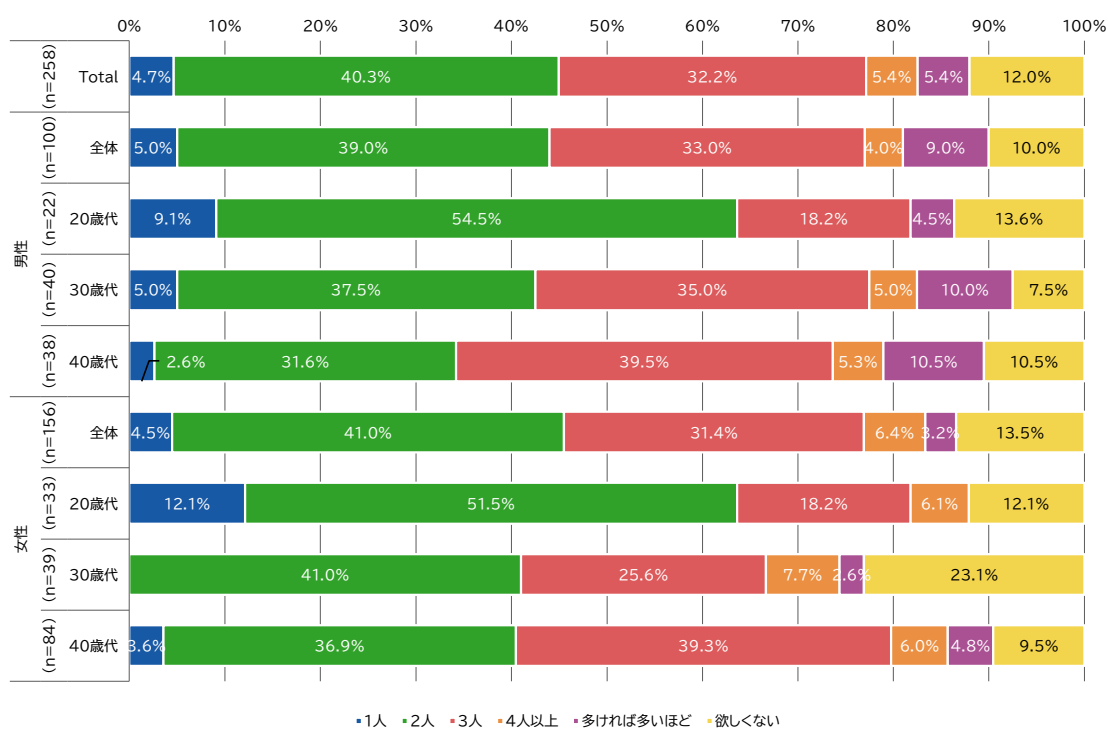
図 1-(6)-1 現在の子ども的人数



## ②理想の子どもの人数

「2人」の割合が最も高く40.3%である。次いで、「3人」(32.2%)、「欲しくない」(12.0%)である。年齢階級別に見ると、年齢が若いほど理想の子どもの人数が少ない傾向が見られ、20歳では男女とも「3人」は2割を下回り、「2人」が5割強と多くを占め、「1人」が約1割となっている。

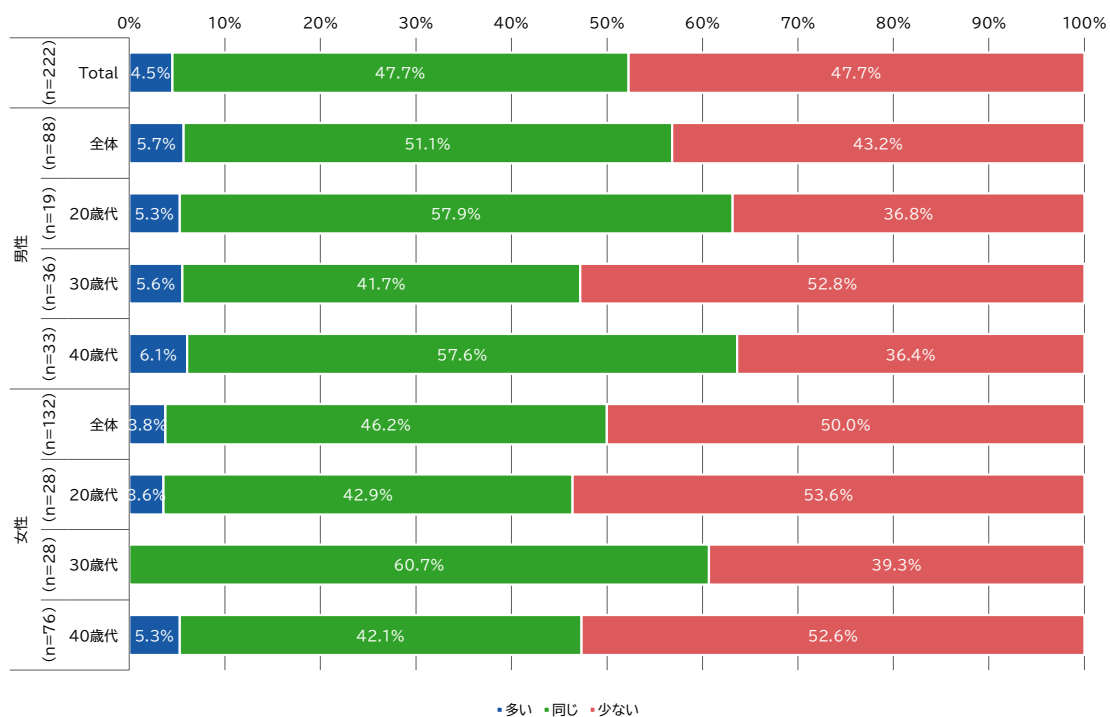
図 1 - (6) -2 理想の子どもの人数 (20-40 歳代、性年齢階級別)



### ③現在の子ども的人数と理想との比較

「同じ」「少ない」の割合が最も高く47.7%である。「多い」は3.8%である。  
性別にみると、男性の方が女性よりも「多い」「同じ」の割合が高い

図 1 - (6) -3 現在の子ども的人数と理想との比較 (20-40 歳代、性年齢階級別)



#### ④現在のこどもの人数と比べ理想の人数が少ないすべての理由

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高く 58.3%である。次いで、「自分の仕事に差し支えるから」(23.0%)、「ほしいけれどもできないから」(22.4%)である。

図 1-(6)-4 現在のこどもの人数と比べ理想の人数が少ないすべての理由

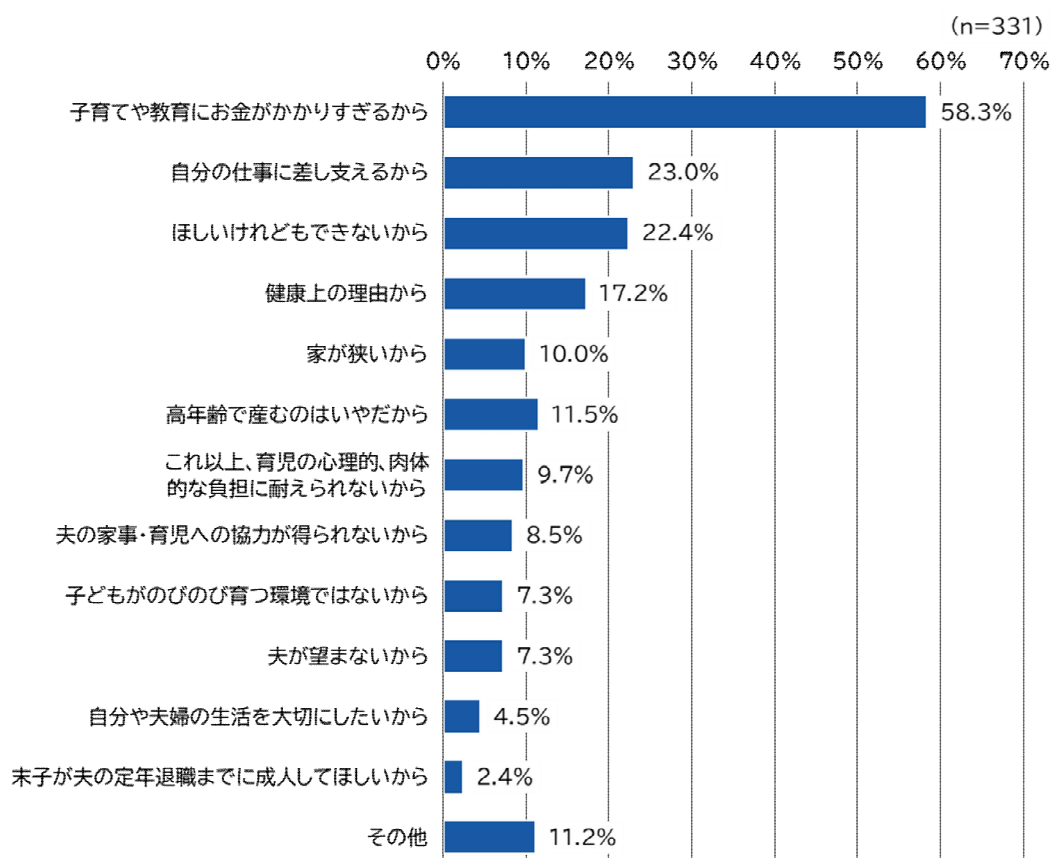


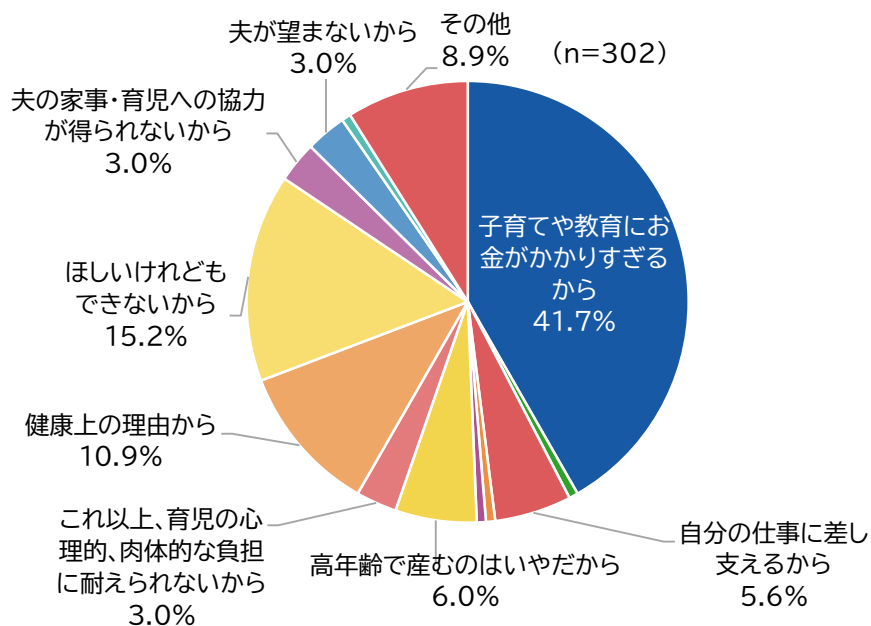
図 1-(6)-5 現在のこどもの人数と比べ理想の人数が少ないすべての理由（その他の回答例）

- 夫婦共働きで、多人数の子どもの子育てができない
- 今は子育てよりも仕事を優先したいから
- 仕事に追われ余裕がないから
- 2人育てる自信がなかったから
- 結婚が遅かったので
- 年子で出産して、大変しんどかったため
- 育児への不安
- 十和田市に産婦人科がないから

⑤現在のこどもの人数と比べ理想の人数が少ない最も重要な理由

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高く 41.7%である。次いで、「ほしいけれどもできないから」(15.2%)、「健康上の理由から」(10.9%)である。

図 1-(6)-6 現在のこどもの人数と比べ理想の人数が少ない最も重要な理由



## ⑥出産について行政として実施する今後の取組

「産婦人科や助産院など出産のための受入れ施設の数」の割合が最も高く 67.6%である。次いで、「妊婦の健康診査費用や分娩費用の負担を軽減するための、助成や貸付などの経済的支援」(38.3%)、「出産祝い金(一時金)の支給」(35.6%)である。

年齢階級別に見ると、20歳代～40歳代では「出産祝い金(一時金)の支給」の割合が高く、特に20歳代では約6割に上っている。30歳代～40歳代は「産前・産後の賃金保証」、40歳代は「不妊治療費用の負担を軽減するための、助成や貸付などの経済的支援」の割合も比較的高い。60歳代以上では「産婦人科や助産院など出産のための受入れ施設の数」の回答の割合が特に高い。

未就学児の有無別に見ると、未就学児がいる家庭では、「妊婦の健康診査費用や分娩費用の負担を軽減するための、助成や貸付などの経済的支援」、「出産祝い金(一時金)の支給」「産前・産後の賃金保証」の割合が高くなっており、経済的な負担が大きくなっている状況がうかがえる。

図 1-(6)-7 出産について行政として実施する今後の取組

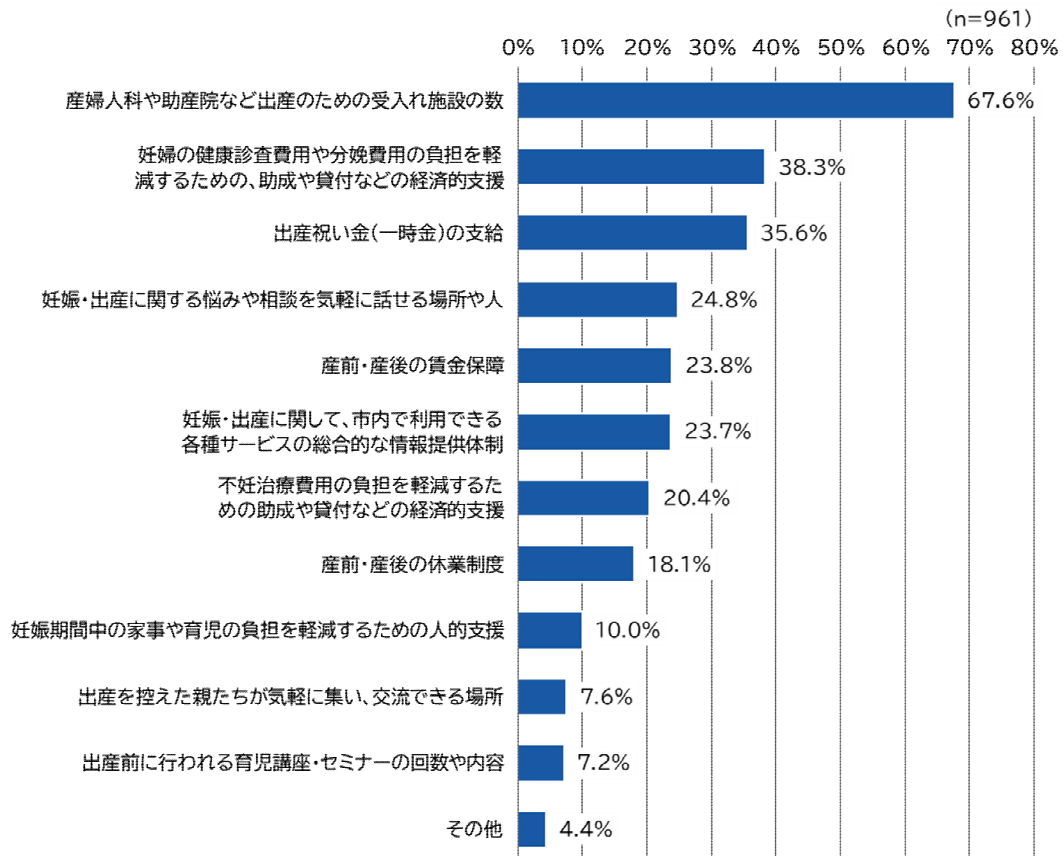


図 1-(6)-8 出産について行政として実施する今後の取組(その他の回答例)

- 産婦人科が少ない問題への対応

図 1 - (6) -9 出産について行政として実施する今後の取組（年齢階級別）

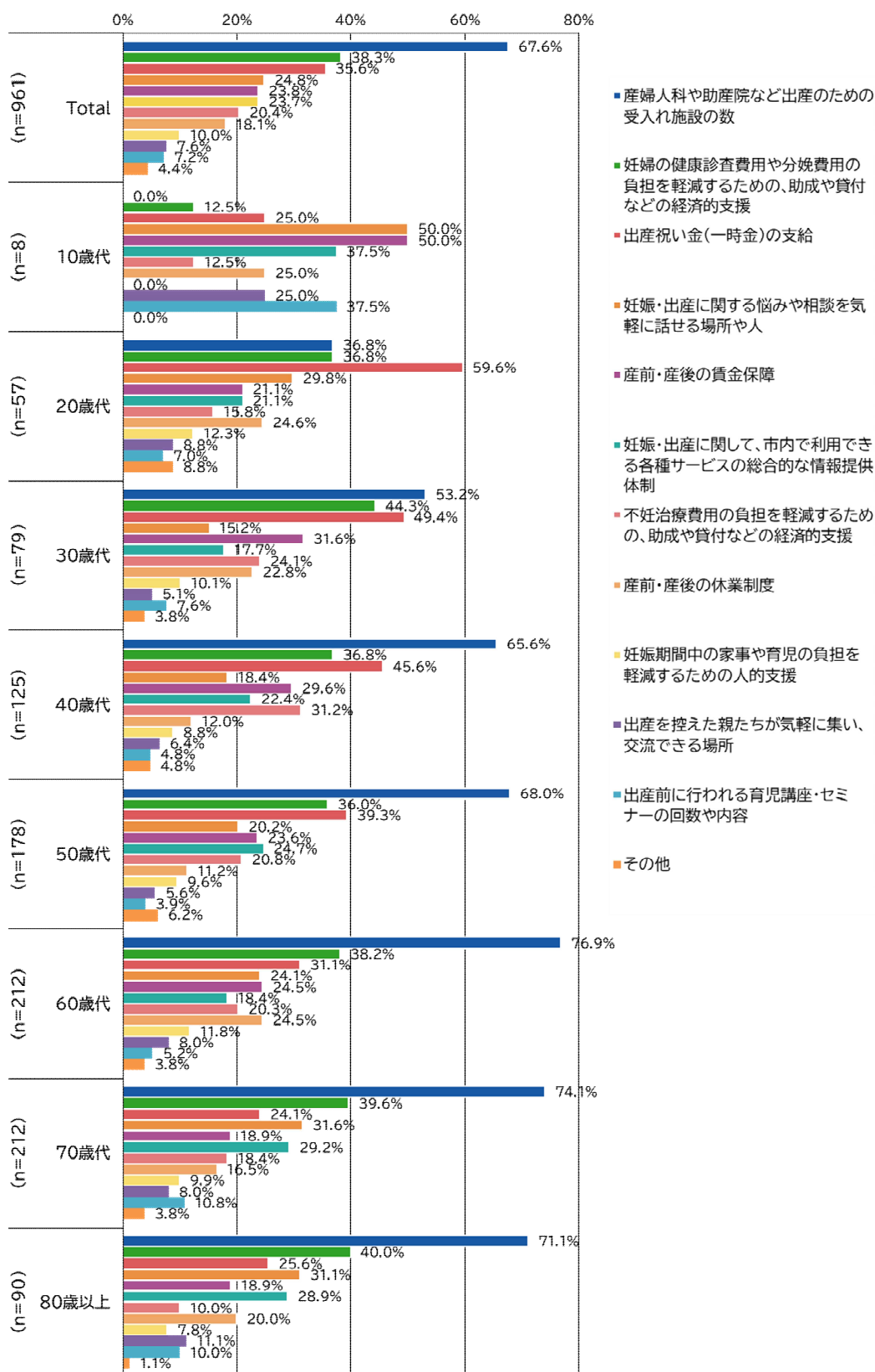
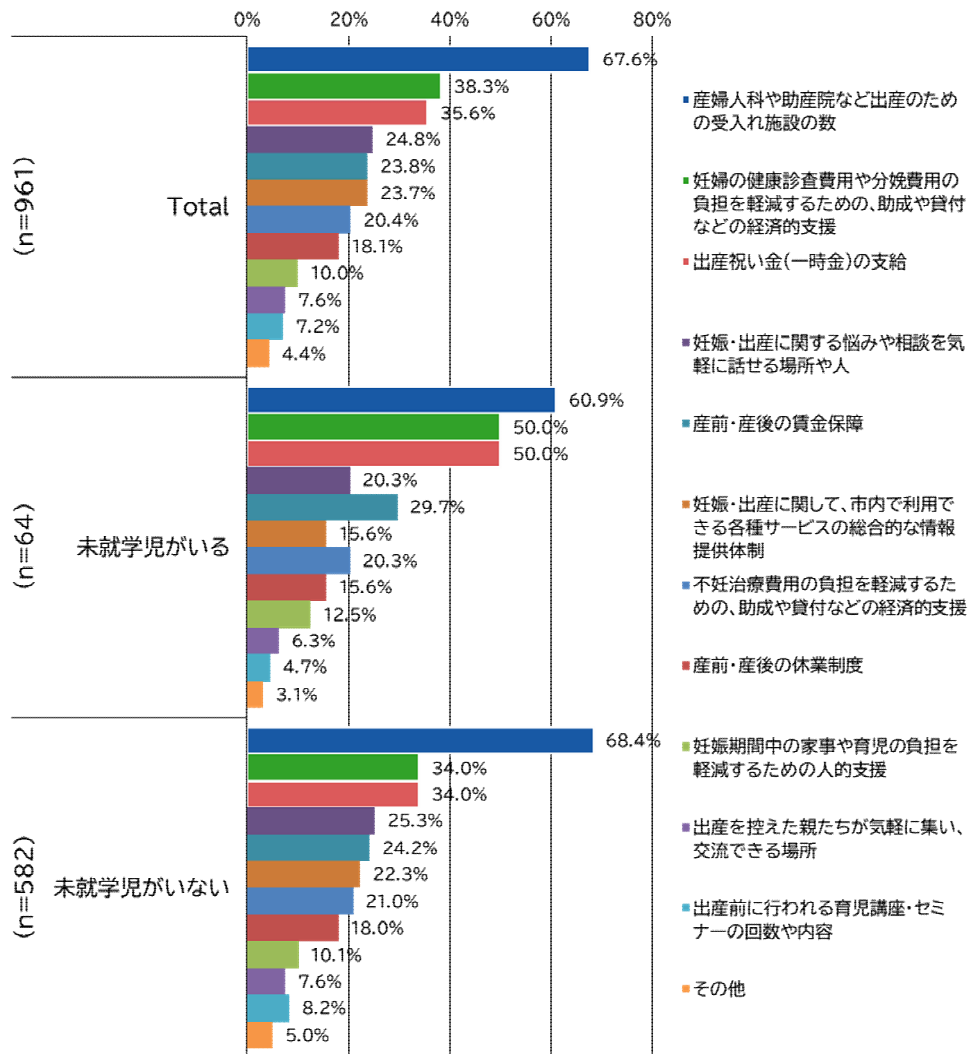


図 1-(6)-10 出産について行政として実施する今後の取組（未就学児有無別）



### ⑦希望出生率

希望出生率について以下の式に基づき算出した。

$$\text{希望出生率} = (\text{①既婚者割合} \times \text{②既婚者の理想の子どもの数} + \text{③未婚者割合} \times \text{④未婚者の結婚希望割合} \times \text{⑤結婚を希望する未婚者の理想の子どもの数}) \times \text{⑥離死別等効果}$$

希望出生率（以下、「今回の希望出生率」とする。）は、現行の希望出生率との比較を可能とするため、活用するデータ及びその収集方法を同じとした。

図 1 - (6) -11 希望出生率の算出のために用いたデータ

項目	活用データ	算出方法
①既婚者割合	総務省統計局「国勢調査（令和2（2020）年）」における十和田市の18歳～49歳の有配偶者の割合（女性）。	(18歳～49歳のうち既婚者の数) ÷ (18歳～49歳の数)
②既婚者の理想の子どもの数	今回のアンケート調査の結果	18～49歳の既婚者の理想とする子どもの数の平均
③未婚者割合	既婚者割合の値より計算	1 - 未婚者割合
④未婚者の結婚希望割合	今回のアンケート調査の結果	(18歳～49歳の未婚者のうち「すぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」と回答した人数) ÷ (18歳～49歳の未婚者の人数)
⑤結婚を希望する未婚者の理想の子どもの数	今回のアンケート調査の結果	18歳～39歳の未婚者のうち「すぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」と回答した者の希望する子どもの数
⑥離死別等効果	国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5（2023）年4月推計）」 <sup>1</sup> における出生中位の家庭に用いられた離死別等の影響。	$\delta = \{P_d R_d + P_o R_o + P_{ff}\}(1 - \gamma)$ δ : 離死別再婚効果係数 P* : 女性の結婚経験の構成 R* : 各結婚経験の完結出生児数の比 d : 離別 o : その他（非初婚同士夫婦、死別） f f : 初婚同士夫婦 γ : 1970年生まれの未婚の女性の割合

<sup>1</sup> 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口－令和3（2021）～令和52（2070）年－」 p.26  
 (https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp2023\_Report2c.pdf)

アンケートの結果等を踏まえ、希望出生率の算出を行った。希望出生率の算出式を構成する各項目の数値は下表の通りで、希望出生率は 1.75 となった。

図 1-(6)-12 希望出生率の算出を構成する各要素の数値<sup>2</sup>

項目	数値
①既婚者割合	58.5%
②既婚者の理想の子どもの数	2.35 人
③未婚者割合	41.5%
④未婚者の結婚希望割合	67.6%
⑤結婚を希望する未婚者の理想の子どもの数	1.58 人
⑥離死別等の影響	0.966
希望出生率	1.75

図 1-(6)-13 希望出生率

$$\begin{aligned}
 \text{希望出生率} &= \{ \text{①既婚者割合} \text{【58.5\%】} \times \text{②既婚者の理想の子どもの数} \text{【2.35】} \\
 &\quad + \text{③未婚者割合} \text{【41.5\%】} \times \text{④未婚者の結婚希望割合} \text{【58.3\%】} \\
 &\quad \times \text{結婚を希望する未婚者の理想のこどもの数} \text{【1.58】} \} \\
 &\quad \times \text{離死別等の影響} \text{【0.966】} \\
 &= 1.75
 \end{aligned}$$

<sup>2</sup> 希望出生率の算出は、図 1-(6)-11 のとおり、項目により集計を行う年齢区分が異なる。そのため図 1-(6)-12 の各項目の数値は、第 2 章 II のアンケート調査の集計結果と異なる場合がある。

## (7) 子育てについて

### ①子育てに関する取組の効果

「効果が高い」、「どちらかという効果が高い」の合計は、「保育所等の時間外保育(延長保育)の拡充」が最も高く76.2%で、次いで「子どもを一時的に預けられる施設の拡充」(74.9%)、「小児科など医療施設の拡充」(74.5%)、「認定子ども園、保育所及び幼稚園の保育料の軽減」(72.4%)である。

未就学児の有無別に見ると、未就学児がいる家庭では、「子どもを安心して遊ばせられる場の拡充」「高校や大学などの進学にかかる費用の軽減」「認定子ども園、保育所及び幼稚園の保育料の軽減」の効果が高いと回答する割合が特に高い。

図 1 - (7) -1 子育てに関する取組の効果  
(「効果が高い+どちらかという効果が高い」が多い順)

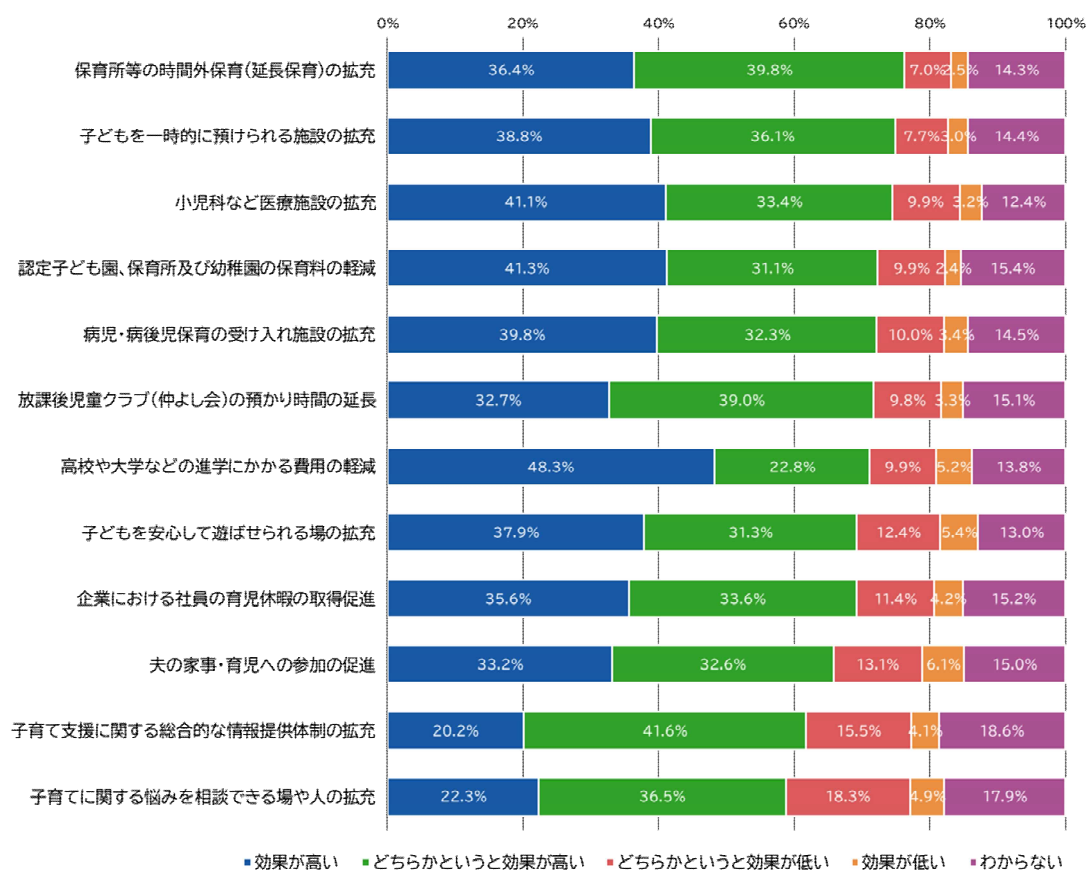
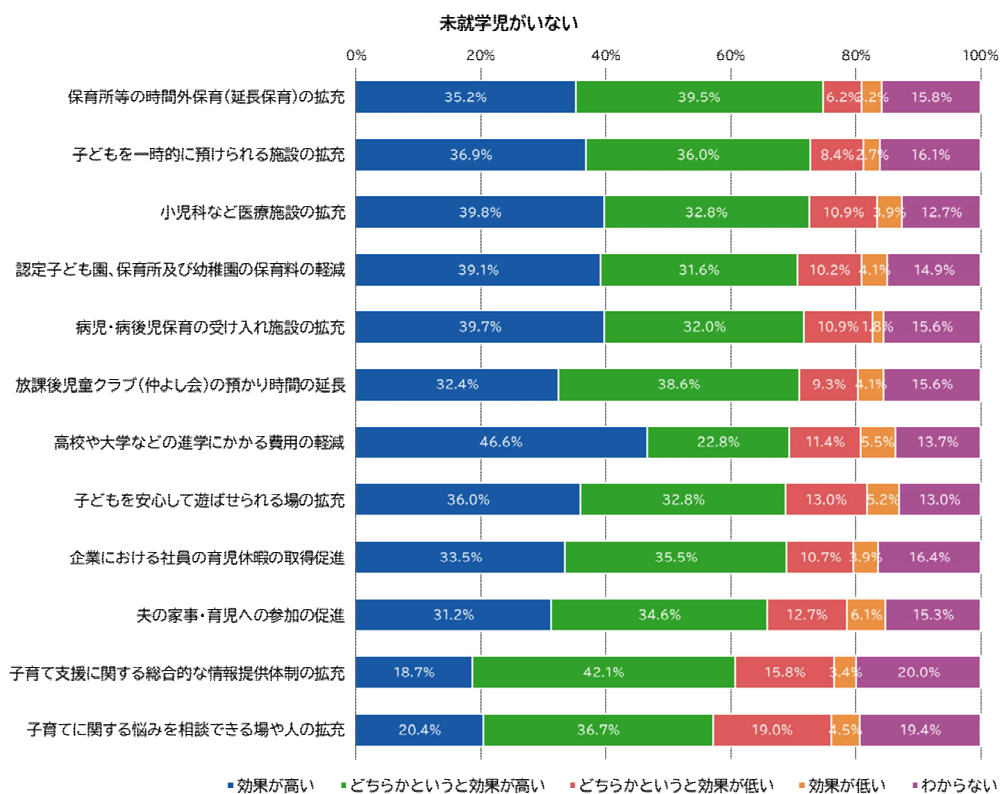
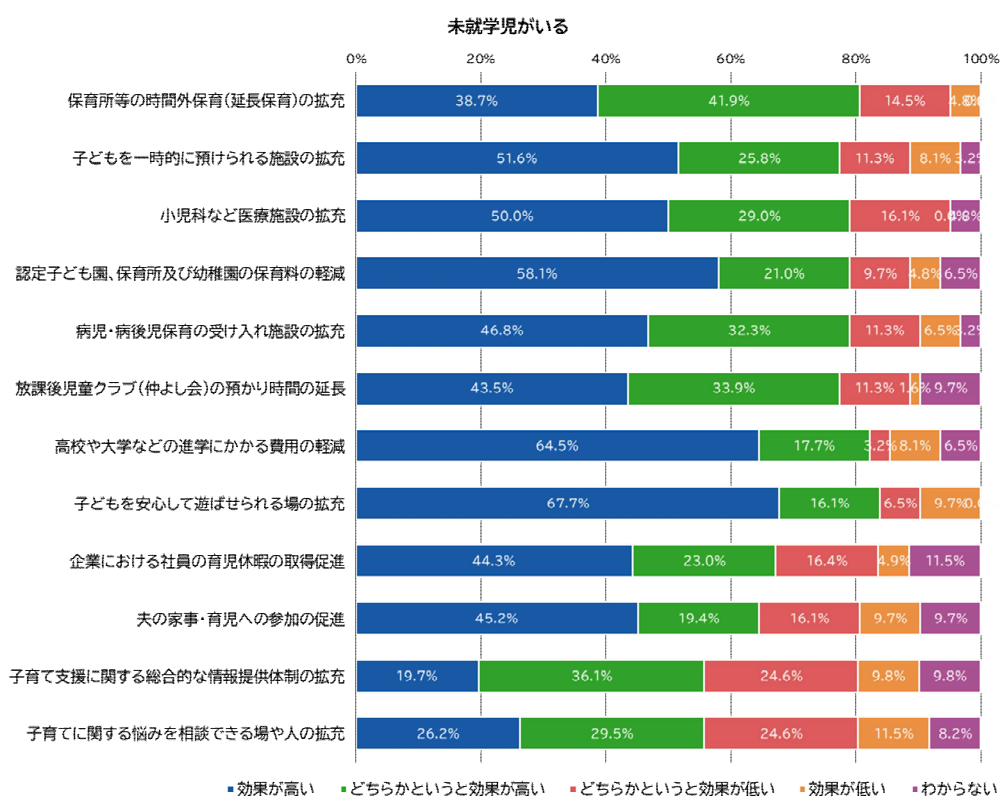


図 1 - (7) -2 子育てに関する取組の効果（未就学児有無別）



## (8) ダイバーシティ (多様性) について

### ①「ダイバーシティ」という言葉の認知度

「知らない」の割合が最も高く 45.0%である。次いで、「見たり聞いたりしたことがあるが、内容はよくわからない」(34.6%)、「知っている」(20.4%)である。

年齢階級別に見ると、年齢が低いほど認知度が高い傾向である。

図 1-(8)-1 「ダイバーシティ」という言葉の認知度

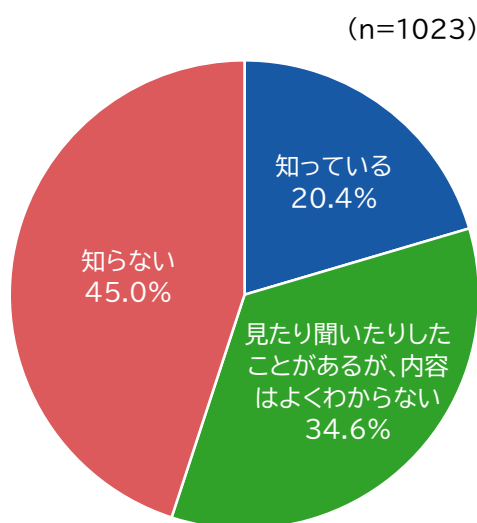
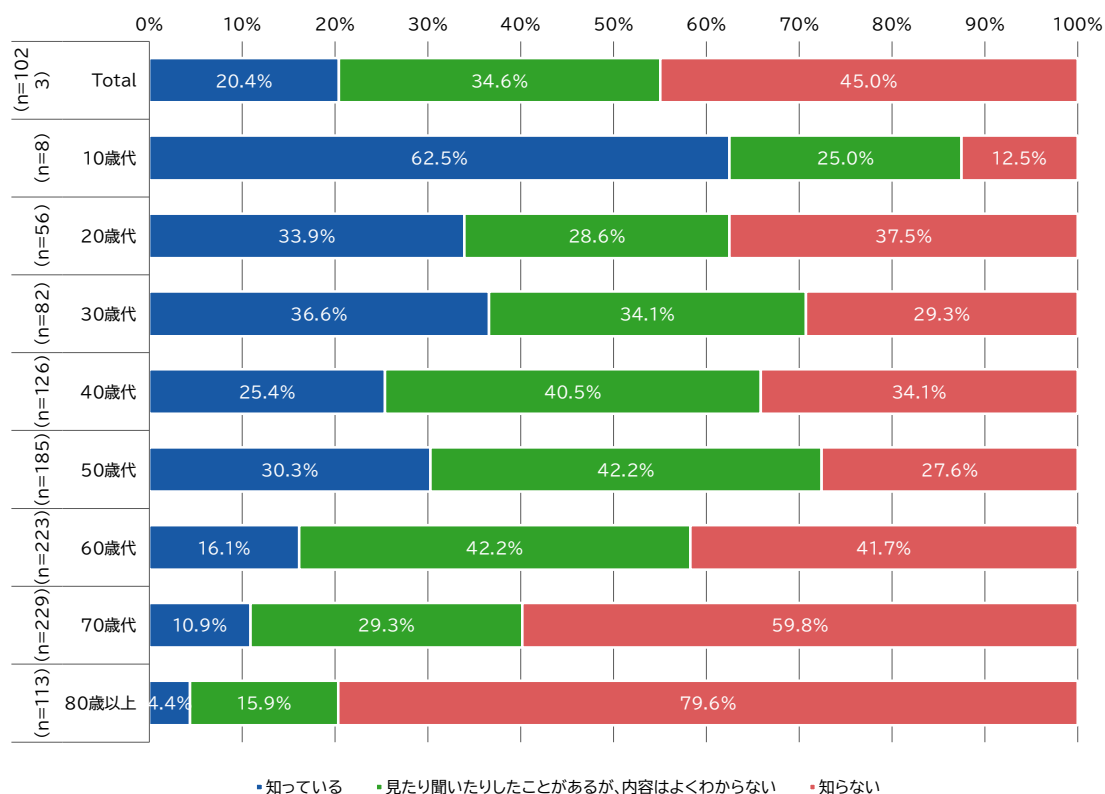


図 1-(8)-2 「ダイバーシティ」という言葉の認知度（年齢階級別）



## ②ダイバーシティについて重要と考えること

「年齢にとらわれず、若者から高齢者までが各々の可能性を最大限に発揮できること」の割合が最も高く 44.2%である。次いで、「性別に関係なく、すべての人に平等な待遇や機会が与えられること」(41.3%)、「障がい者に対する偏見をなくし、活躍できる環境が整備されること」(38.2%)である。

年齢階級別に見ると、20歳代～40歳代は「働く時間や場所を自由に選べる、仕事と生活のバランスを柔軟に調整できること」の割合が高く、4割を超える。30歳代～40歳代は「休職や転職など多様なキャリアパスが認識され、支援されること」も比較的多く、若い世代は仕事や働き方におけるダイバーシティを重視する傾向が見られる。

図 1-(8)-3 ダイバーシティについて重要と考えること

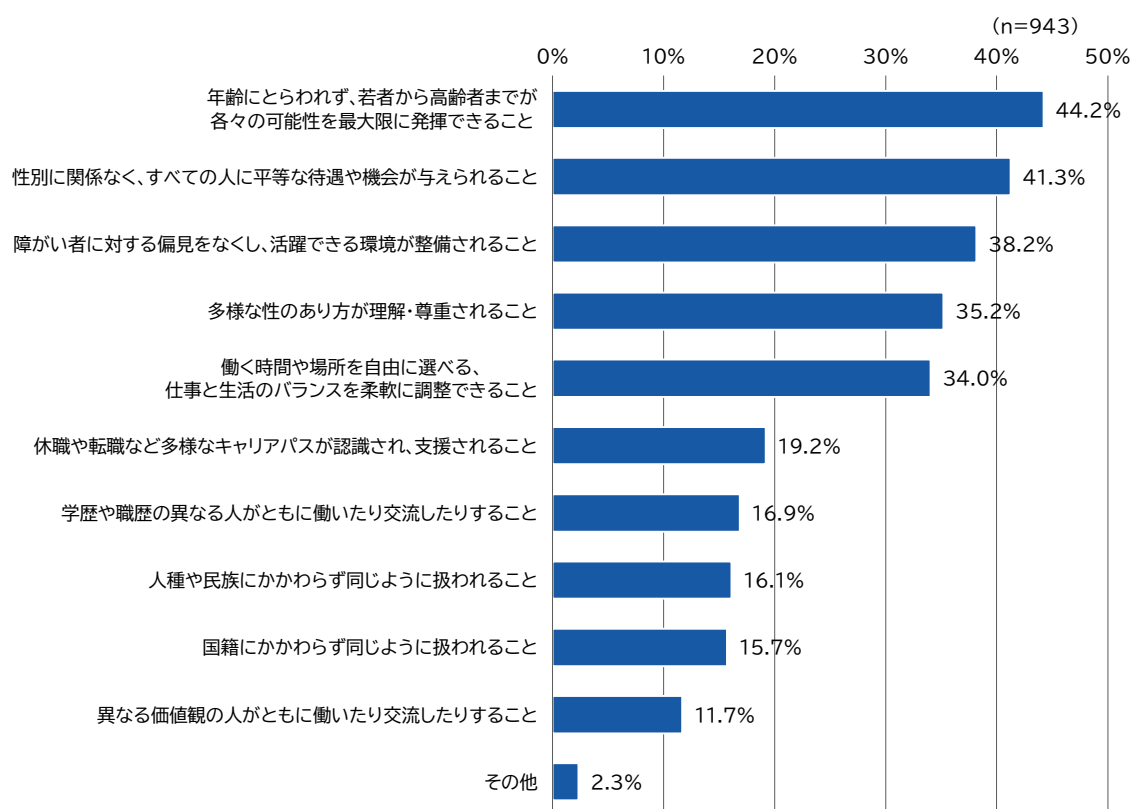
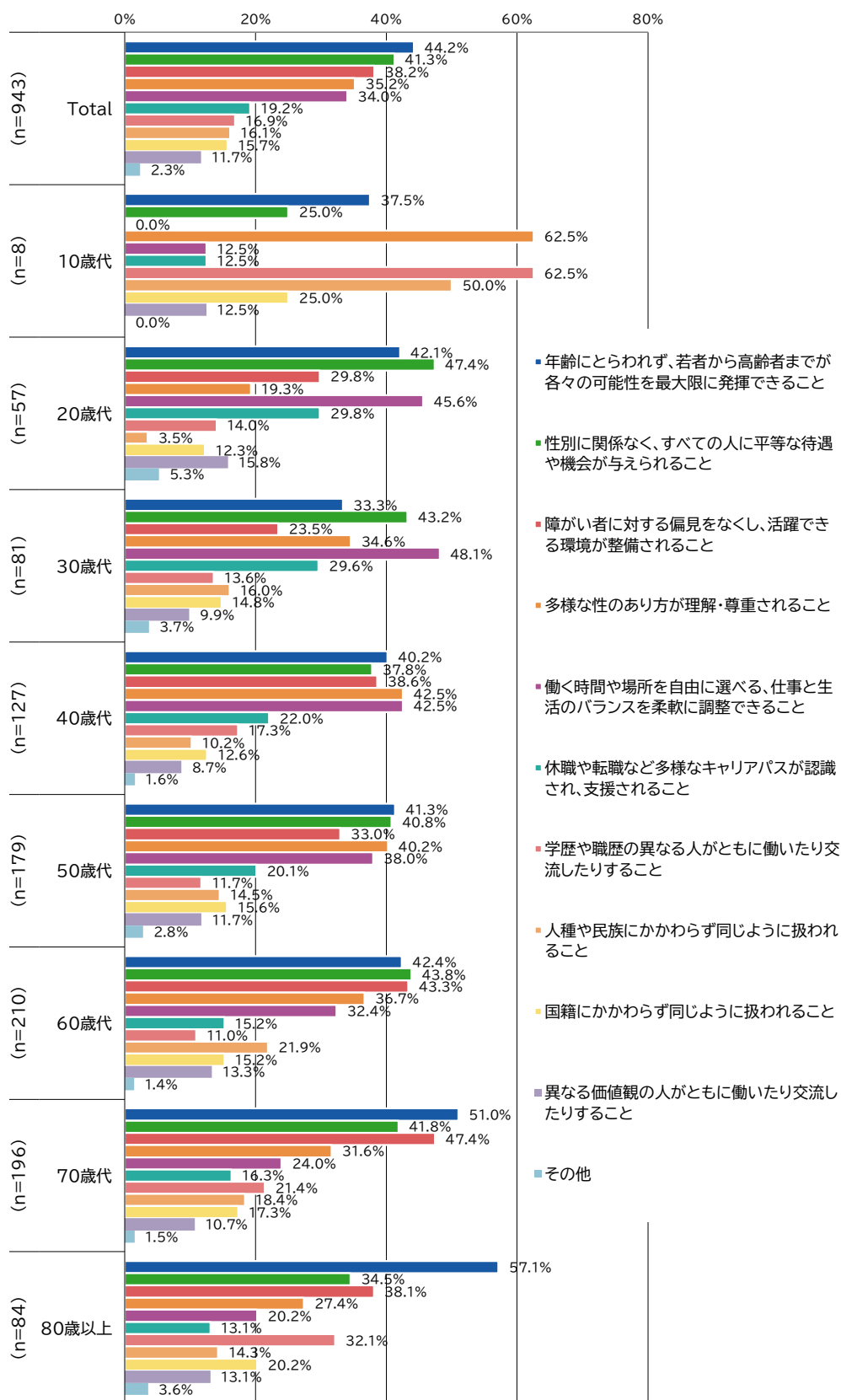


図 1-(8)-4 ダイバーシティについて重要と考えること (その他の回答例)

- 改めてインクルージョンも重要視してもらいたい
- 多様はよいが、責任も伴うことを教える風潮が必要
- ダイバーシティという言葉のもとで全てが正当化されることがあってはならない
- 安全が確保されなければならない

図 1- (8) -5 ダイバーシティについて重要と考えること（年齢階級別）



### ③ダイバーシティについて行政が取り組むべきこと

「学校や公民館での多様性教育プログラムの実施」の割合が最も高く 39.7%である。次いで、「市民向けの啓発パンフレット・ポスター等の作成・配布」(33.4%)、「ダイバーシティに関する市民向け講演会・セミナーの開催」(32.9%)である。

年齢階級別に見ると、20歳代～40歳代は「学校や公民館での多様性教育プログラムの実施」の割合が特に高く、「市民向けの啓発パンフレット・ポスター等の作成・配布」、「ダイバーシティに関する市民向け講演会・セミナーの開催」といった市民向けの啓発活動をあげる割合がやや低い傾向がある。30歳代～40歳代は「ダイバーシティの実現に取り組む企業の表彰・認定」の割合も比較的高い。

図 1 - (8) -6 ダイバーシティについて行政が取り組むべきこと

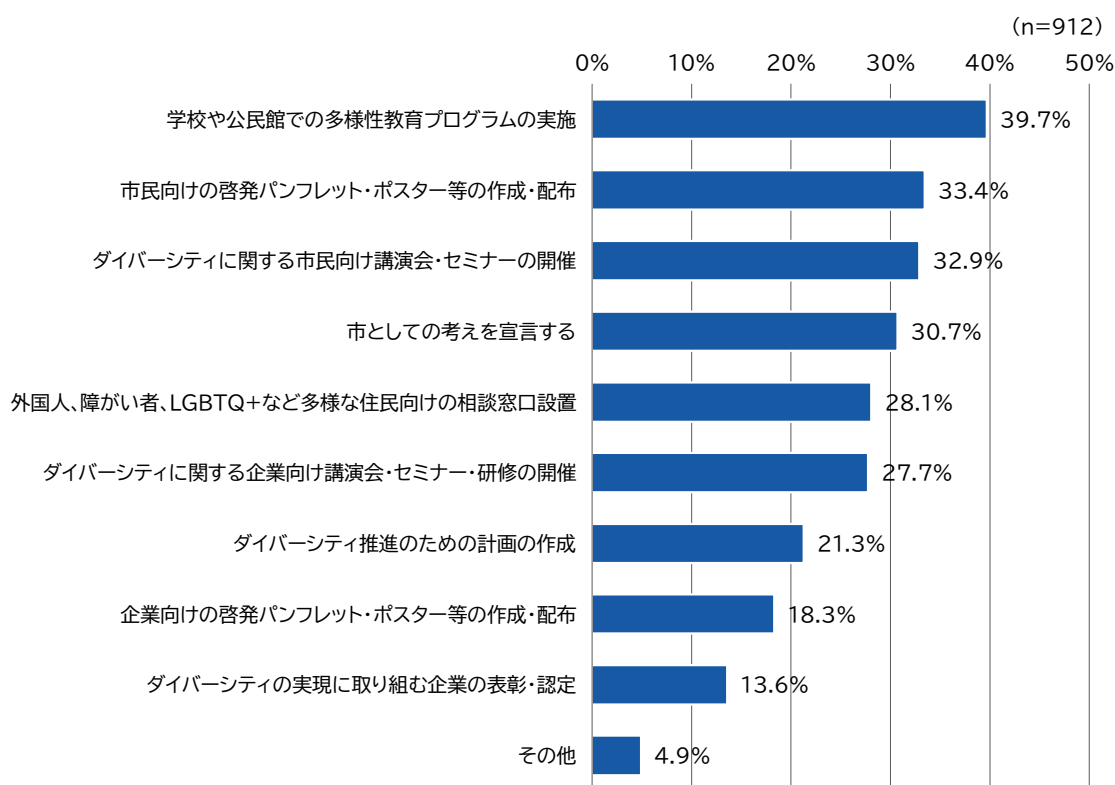
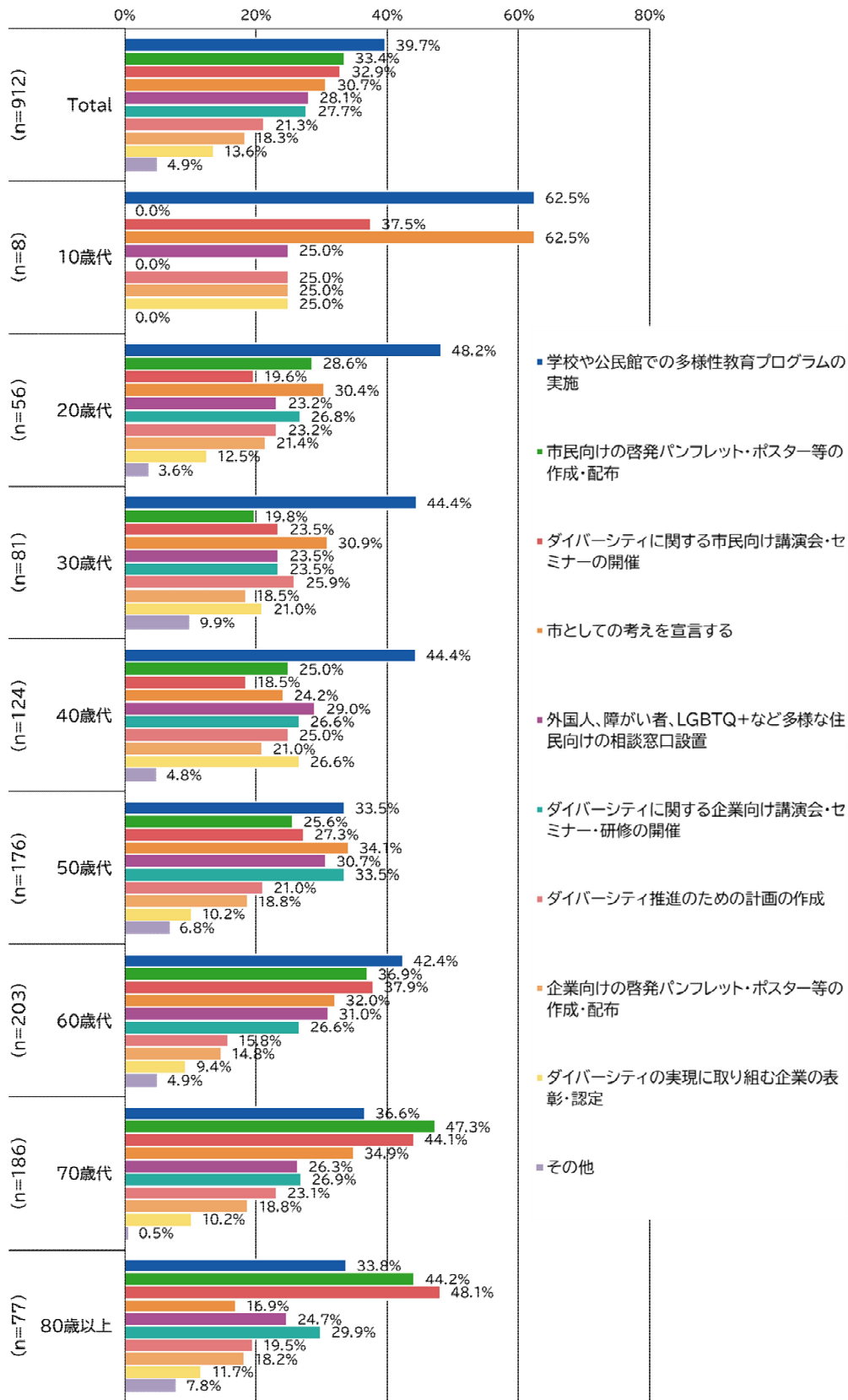


図 1 - (8) -7 ダイバーシティについて行政が取り組むべきこと（その他の回答例）

- 行政がお手本となること
- 同性婚の受入
- 学校教育においての本当の意味での子どもを尊重して指導する在り方
- フレックス勤務や在宅勤務の拡大
- 率先してする必要性は感じない

図 1 - (8) -8 ダイバーシティについて行政が取組むべきこと（年齢階級別）



## (9) デジタル化について

### ①インターネットの利用状況

「毎日少なくとも1回は利用」の割合が最も高く61.9%である。次いで、「利用していない」(28.6%)、「週に少なくとも1回は利用」(5.8%)である。

年齢階級別に見ると、年齢が低いほど利用頻度が高い傾向であり、50歳代以下は約9割以上が毎日少なくとも1回は利用している。60歳以上は「利用していない」の割合が急激に高まり、60歳代は約2割、70歳代は約6割、80歳以上は約8割が「利用していない」と回答している。

図 1-(9)-1 インターネットの利用状況

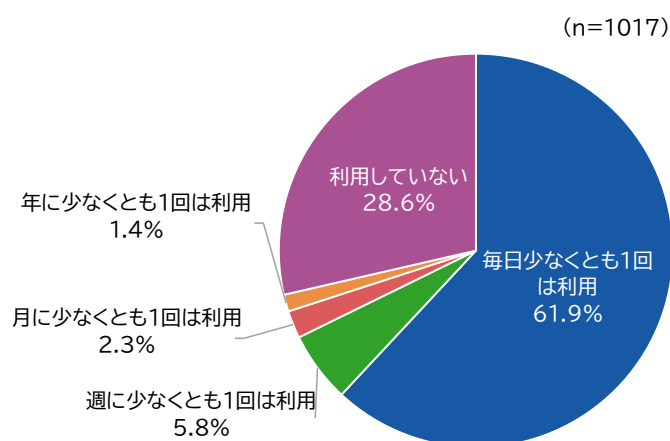
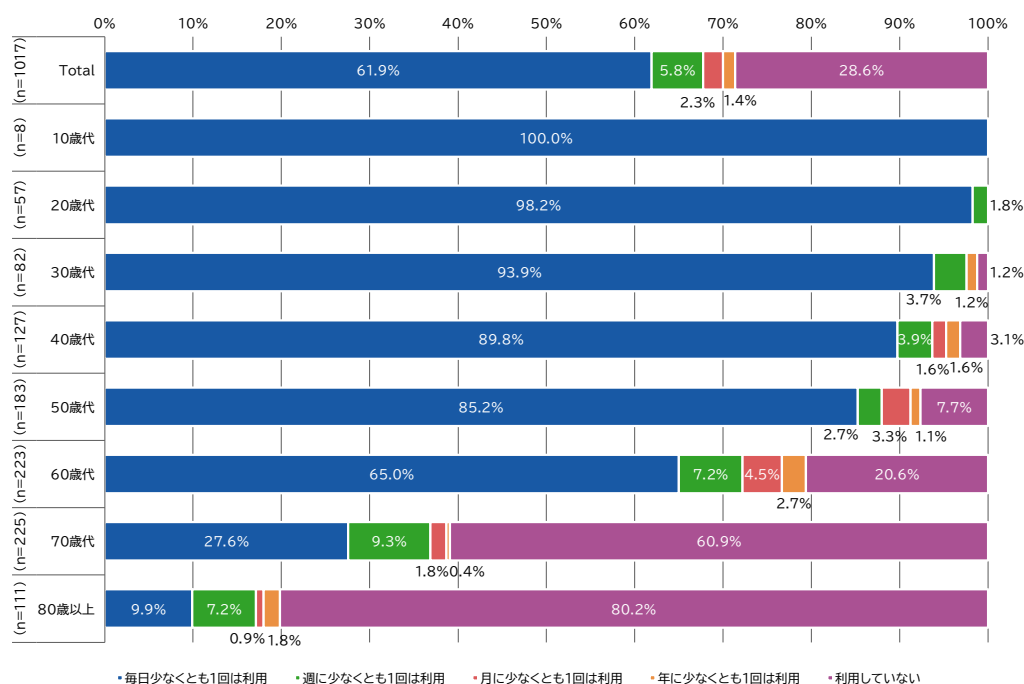


図 1-(9)-2 インターネットの利用状況(年齢階級別)



## ②普段インターネットを利用する情報通信機器

「スマートフォン」の割合が最も高く 87.0%である。次いで、「パソコン」(43.2%)、「テレビ」(26.1%)である。

年齢階級別に見ると、50歳代以下は9割以上が「スマートフォン」を利用している。60歳代～70歳では8割弱、80歳以上は45%と利用割合が下がる。「パソコン」については、20歳代は5割を超えるが、30歳代～40歳代は3割強に下がり、50歳代～60歳代は約5割に上がる。70歳代～80歳以上も約4割となっており、年齢が高い層でも一定割合の「パソコン」の利用者が見られる。80歳以上は「携帯電話」でインターネットを利用する割合も45%と比較的高い。

図 1 - (9) -3 普段インターネットを利用する情報通信機器

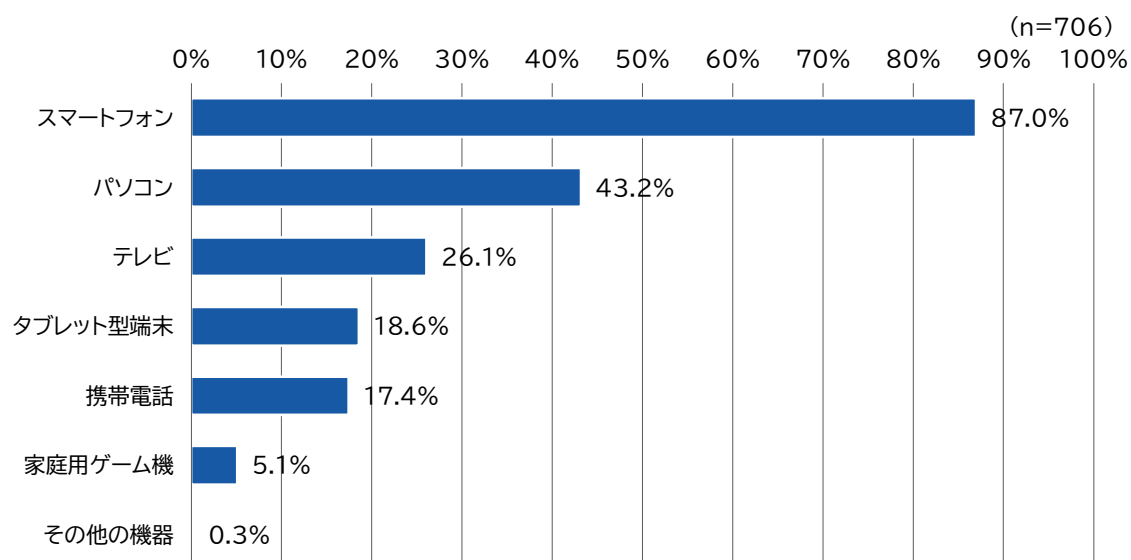
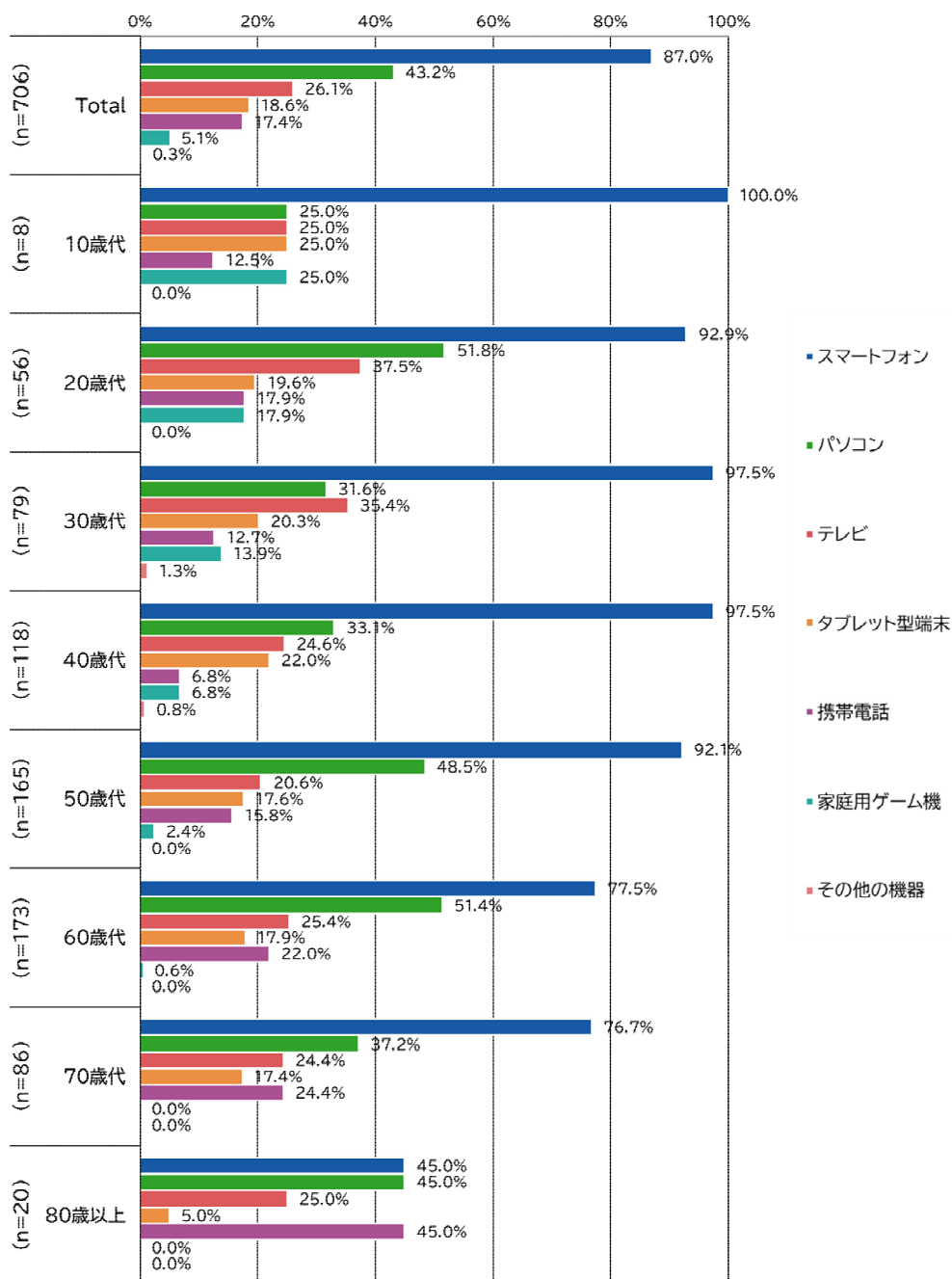


図 1-(9)-4 普段インターネットを利用する情報通信機器（年齢階級別）



### ③普段インターネットを利用する目的

「検索サービスの利用」の割合が最も高く73.9%である。次いで、「SNSの利用」(67.0%)、「電子メールの送受信」(62.1%)である。

年齢階級別に見ると、40歳代以下は「SNSの利用」の割合が最も高く、8割を超えている。「動画投稿・共有サイトの利用」の割合も比較的高く、約6割を超えている。60歳代～70歳代は「電子メールの送受信」の割合が高く、7割を超えている。

図 1-(9)-5 普段インターネットを利用する目的

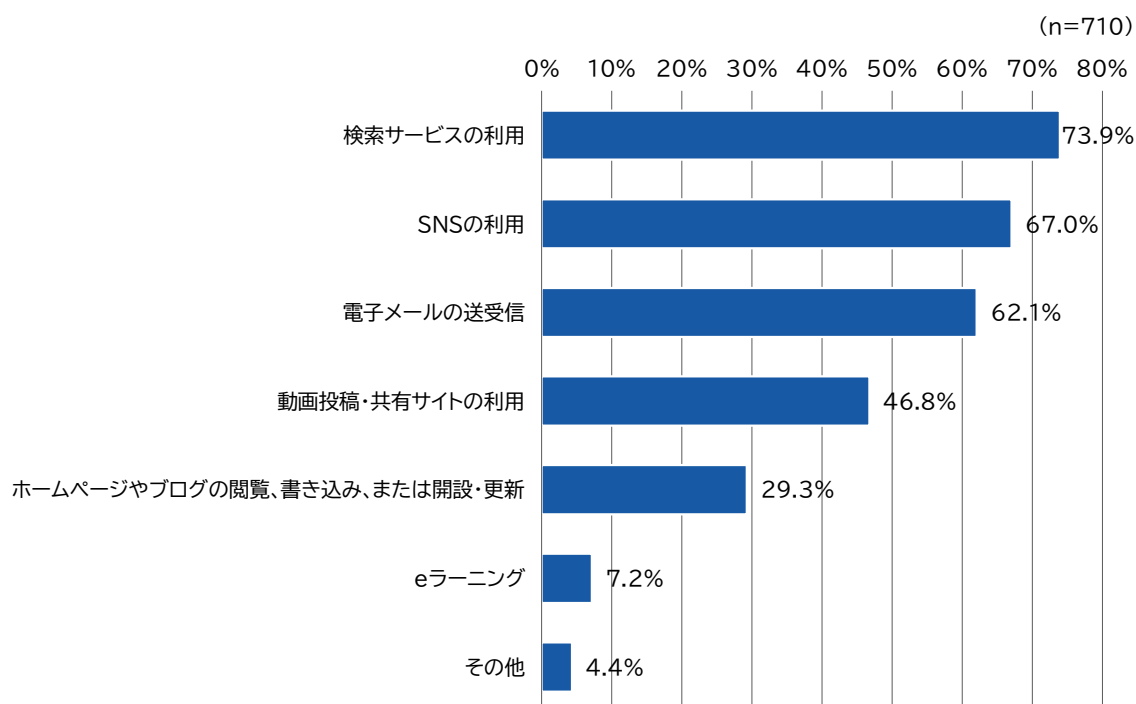
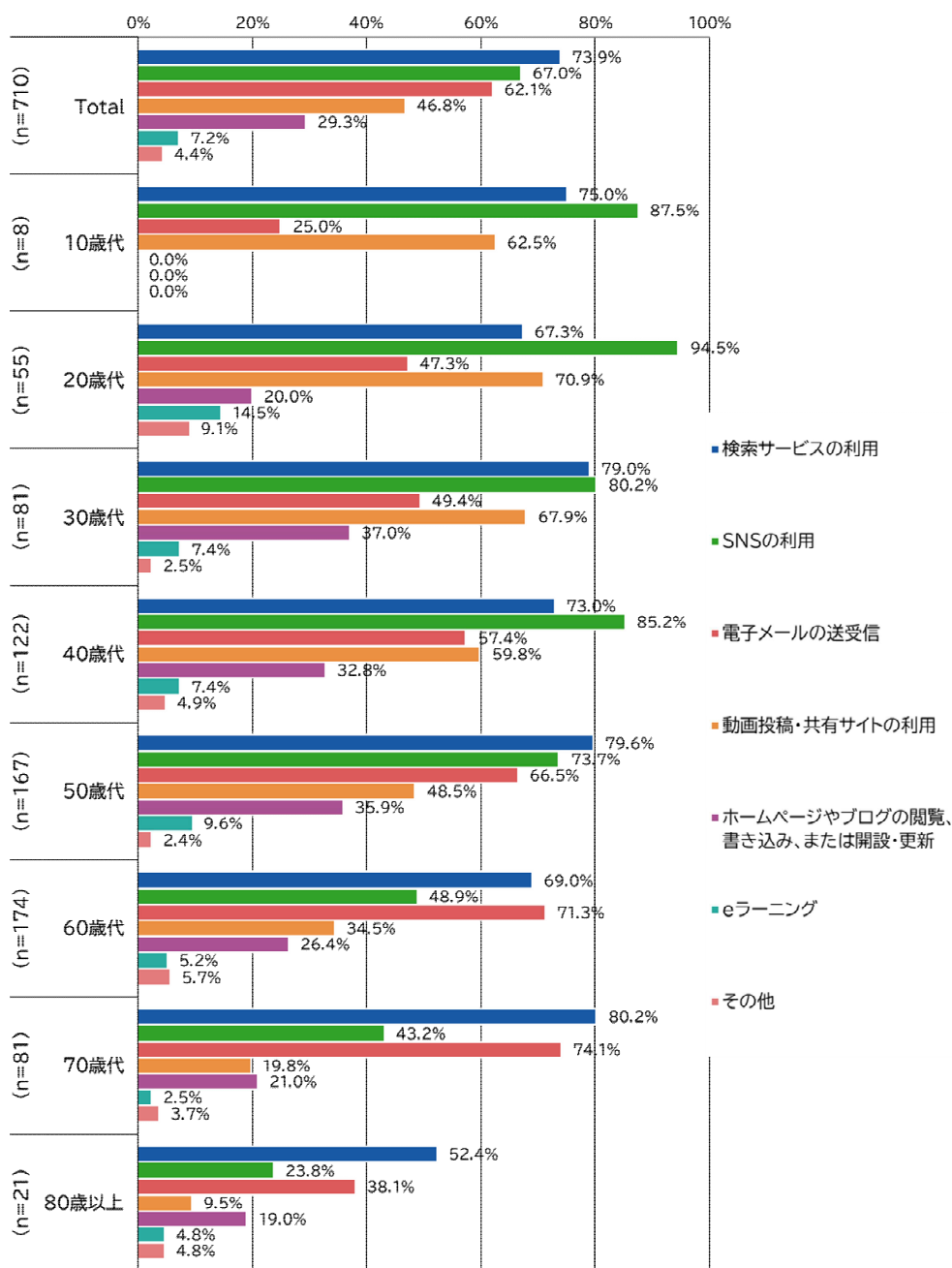


図 1-(9)-6 普段インターネットを利用する目的（その他の回答例）

- ネットショッピング
- オンラインゲーム
- リモートワーク、在宅勤務、オンライン会議
- アニメ視聴
- スポーツ観戦
- オンラインでの勉強会、講習会

図 1 - (9) -7 普段インターネットを利用する目的（年齢階級別）



#### ④市の情報の入手方法

「広報とわだ」の割合が最も高く 93.1%である。次いで、「市ホームページ」(30.6%)、「市公式LINE」(19.4%)である。「市X」「市Facebook」「市ブログ」はいずれも1~2%と低い。

年齢階級別に見ると、30歳代以下は「市ホームページ」の割合が高く、約5割を上回る。10歳代~20歳代は「広報とわだ」の割合が約7割に下がる。「市公式LINE」は30歳代~50歳代で高く、約3割となっている。「市X」は、20歳代~30歳代では3.5%~5.3%とやや高くなっている。

図 1-(9)-8 市の情報の入手方法

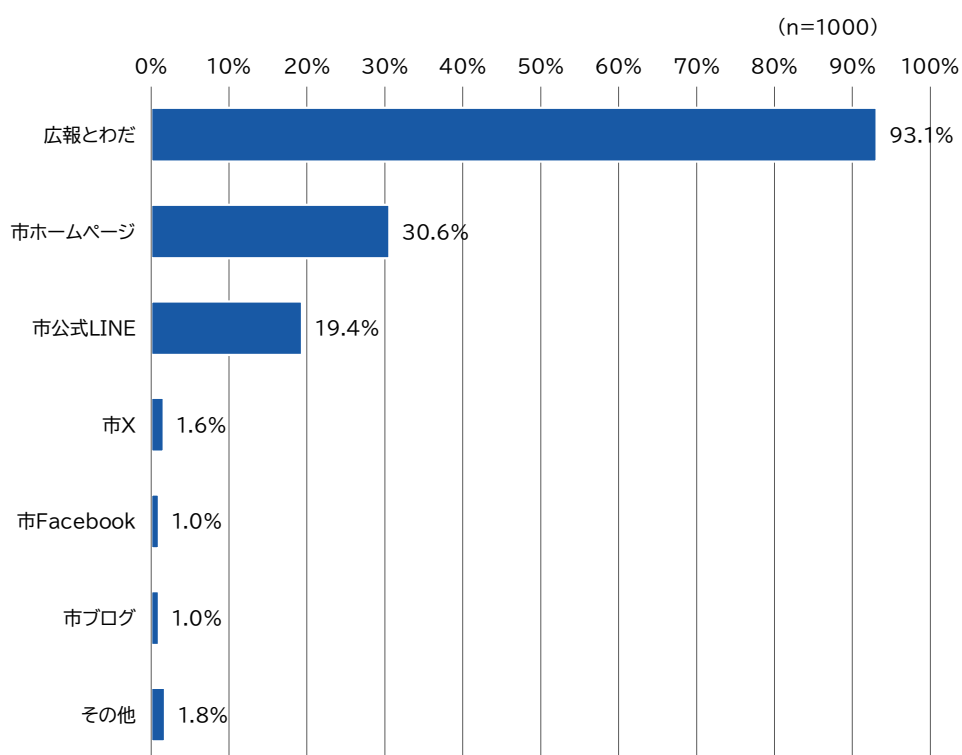
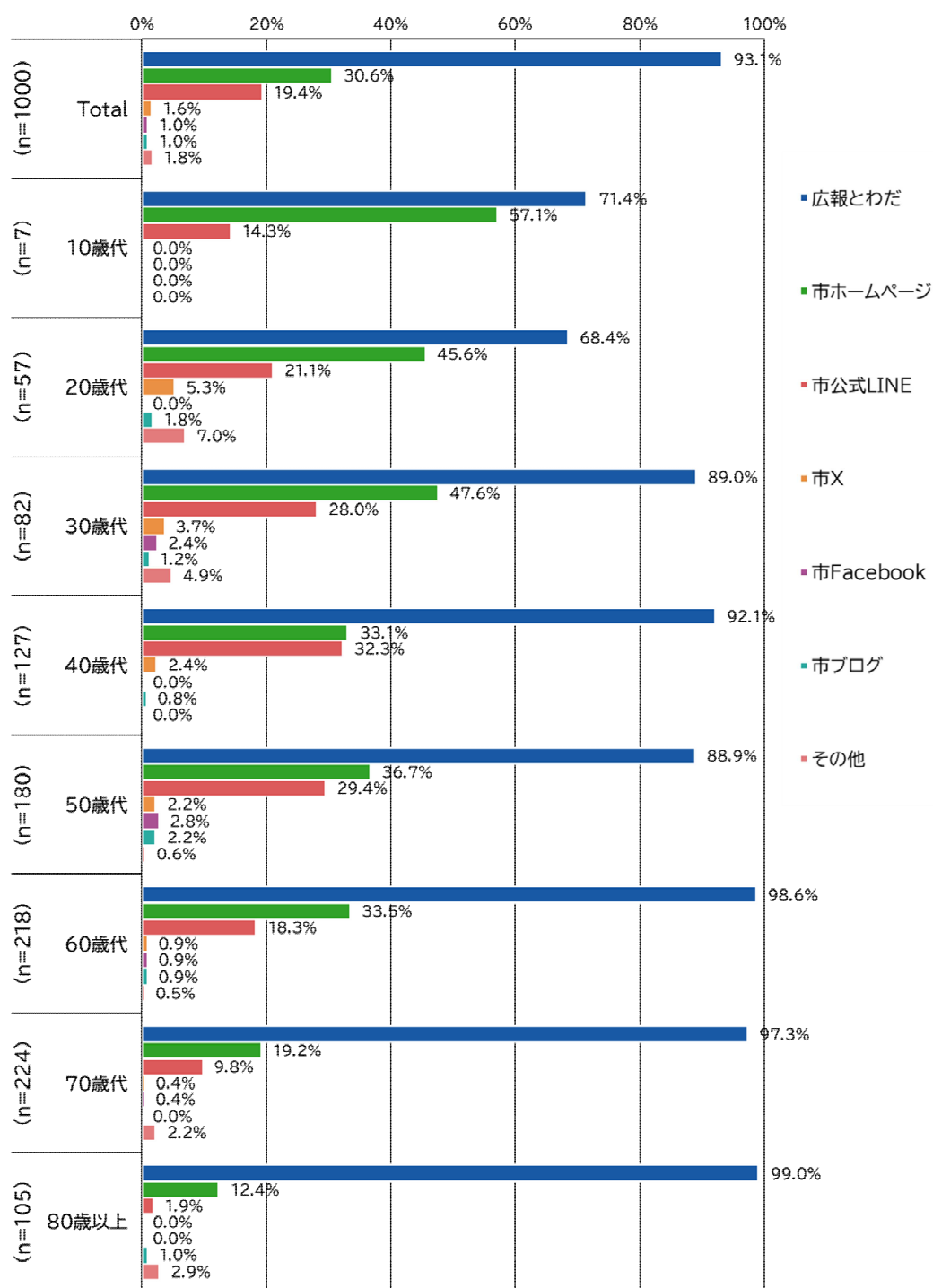


図 1-(9)-9 市の情報の入手方法（その他の回答例）

- 図書館等の掲示物
- チラシ、パンフレット
- 町内会広報、回覧板
- 町内のコミュニケーション
- 友人・知人からの情報
- 新聞記事

図 1 - (9) -10 市の情報の入手方法（年齢階級別）



### ⑤デジタル化が進むことによる市役所のサービスへ期待すること

「一つの窓口で手続きが完了する行政手続き窓口の一元化」の割合が最も高く 54.1%である。次いで、「自宅等から手続きが完了する行政手続きのオンライン化」(44.0%)、「セキュリティ対策」(37.7%)である。

年齢階級別に見ると、40歳代以下では「自宅等から手続きが完了する行政手続きのオンライン化」の割合が特に高く、約7割を超えている。また、「現金以外の方法で支払いができるキャッシュレス化」の割合も3～4割と比較的高い。60歳代以上は「一つの窓口で手続きが完了する行政手続き窓口の一元化」が突出して高く、80歳以上では「特に期待することはない」の割合も25%に上る。

図 1 - (9) -11 デジタル化が進むことによる市役所のサービスへ期待すること

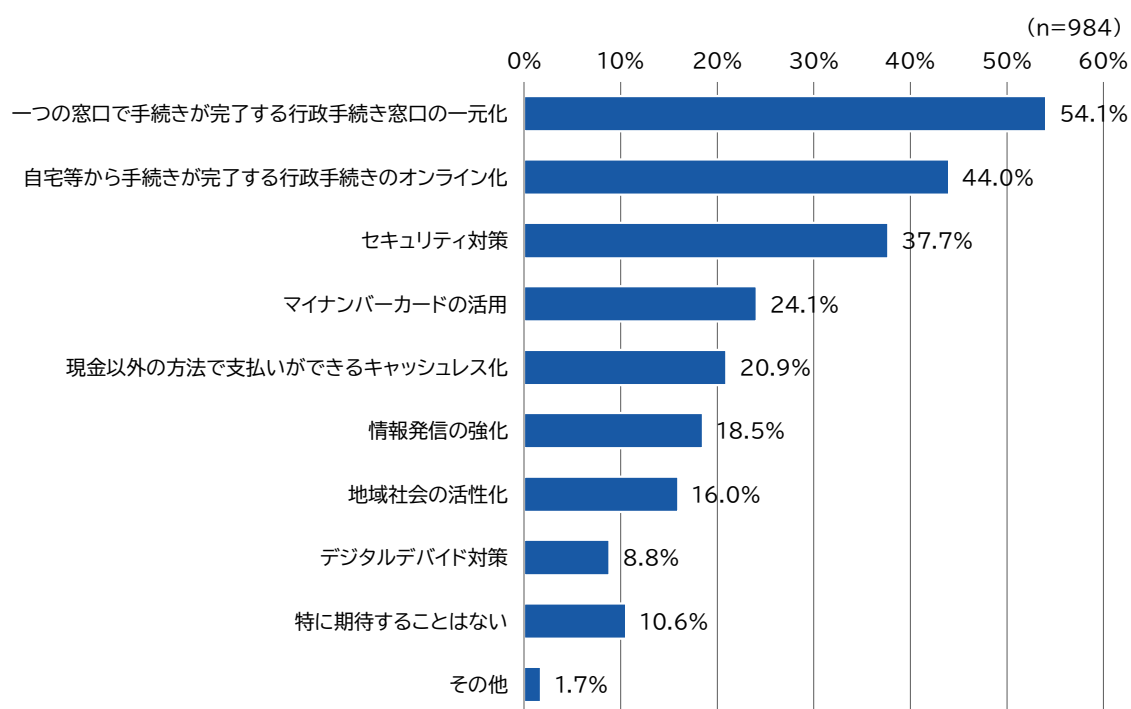
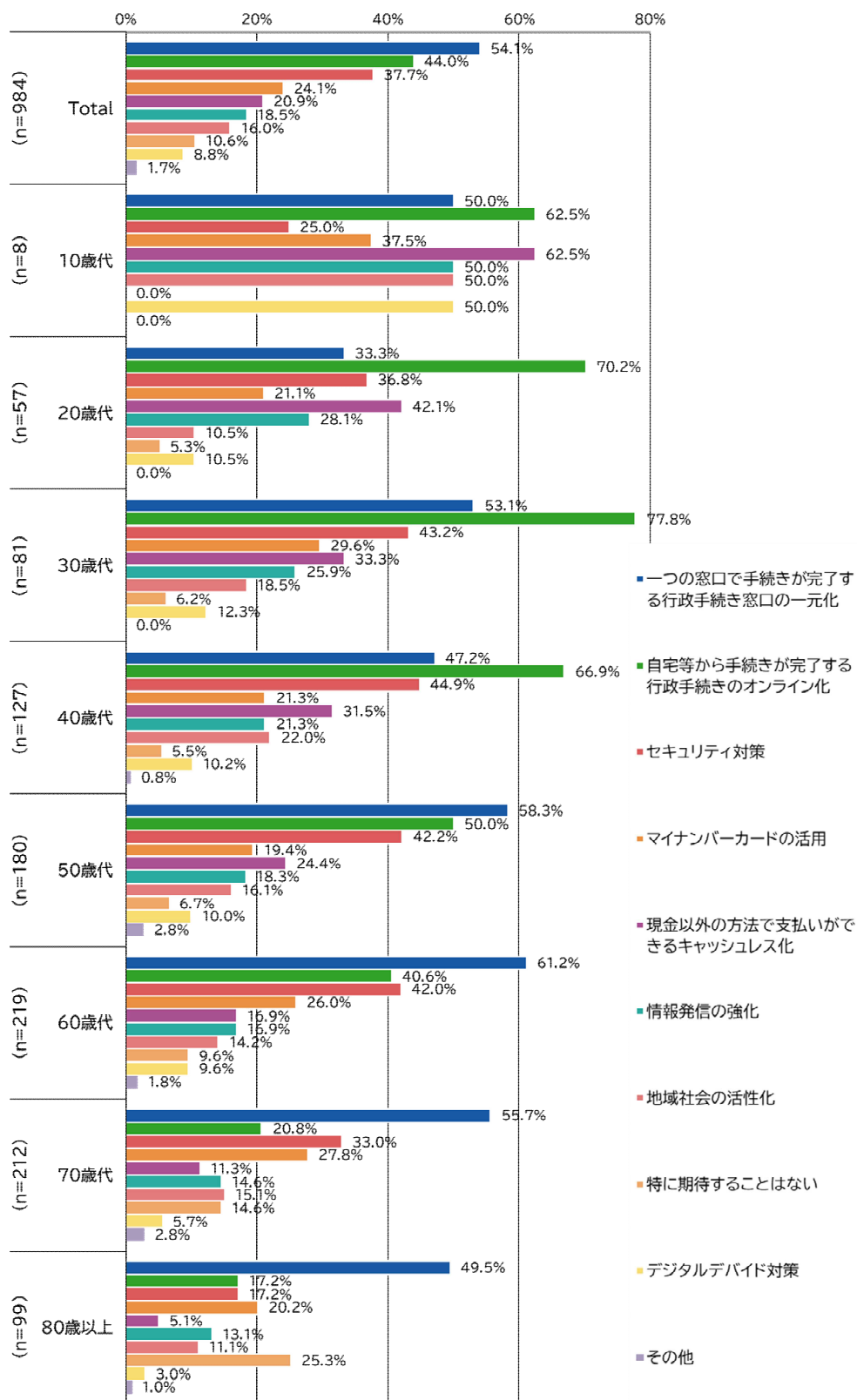


図 1 - (9) -12 デジタル化が進むことによる市役所のサービスへ期待すること（その他の回答例）

- 高齢者へのデジタル化に関する講習、勉強会への補助
- 窓口での待ち時間の短縮
- 公共施設の無料 Wi-Fi の拡充
- 町内会会報のデジタル化

図 1-(9)-13 デジタル化が進むことによる市役所のサービスへ期待すること  
(年齢階級別)



## ⑥デジタル化が進むことに対して不安に思うこと

「個人情報が漏洩する」の割合が最も高く63.9%である。次いで、「情報が複雑化して、何が正しいかわからなくなる」(45.3%)、「パソコンやスマートフォン等の機器を使いこなせない」(45.1%)である。

年齢階級別に見ると、年齢が上がるほど「個人情報が漏洩する」の割合が下がる傾向が見られ、70歳代では50.6%、80歳以上では36.1%に低下している。逆に、「パソコンやスマートフォン等の機器を使いこなせない」は年齢が上がるほど回答割合が高くなる傾向が見られ、70歳代以上では7割に上る。

図 1 - (9) -14 デジタル化が進むことに対して不安に思うこと

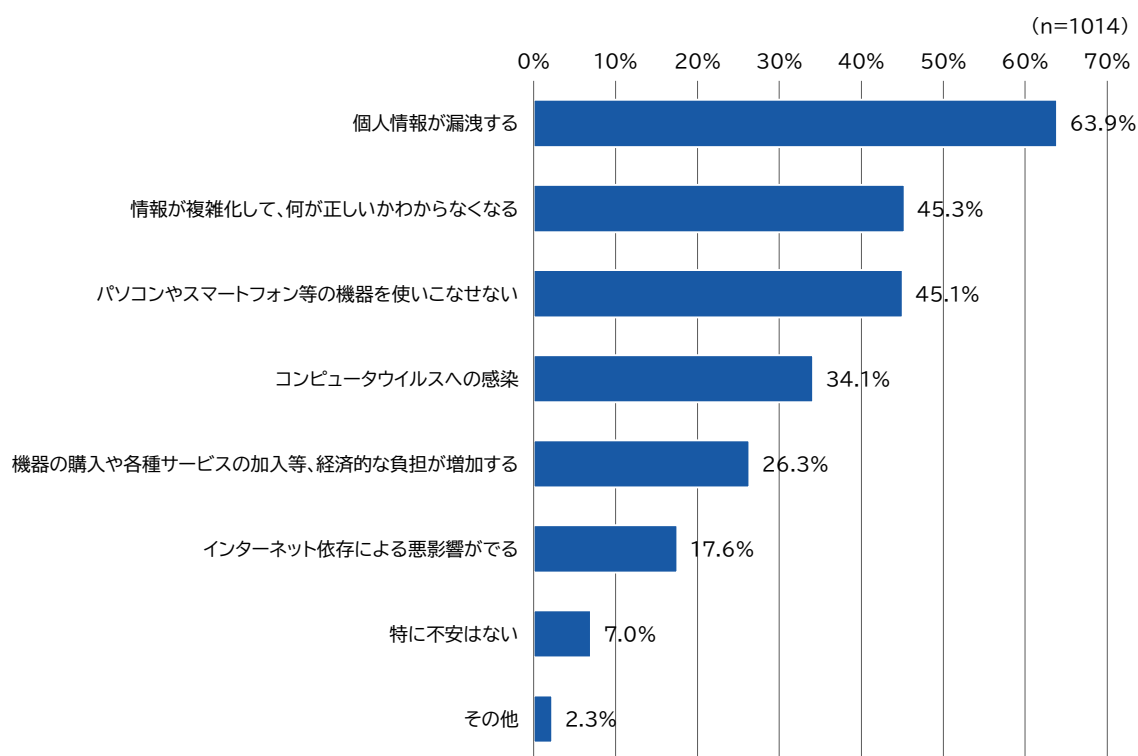
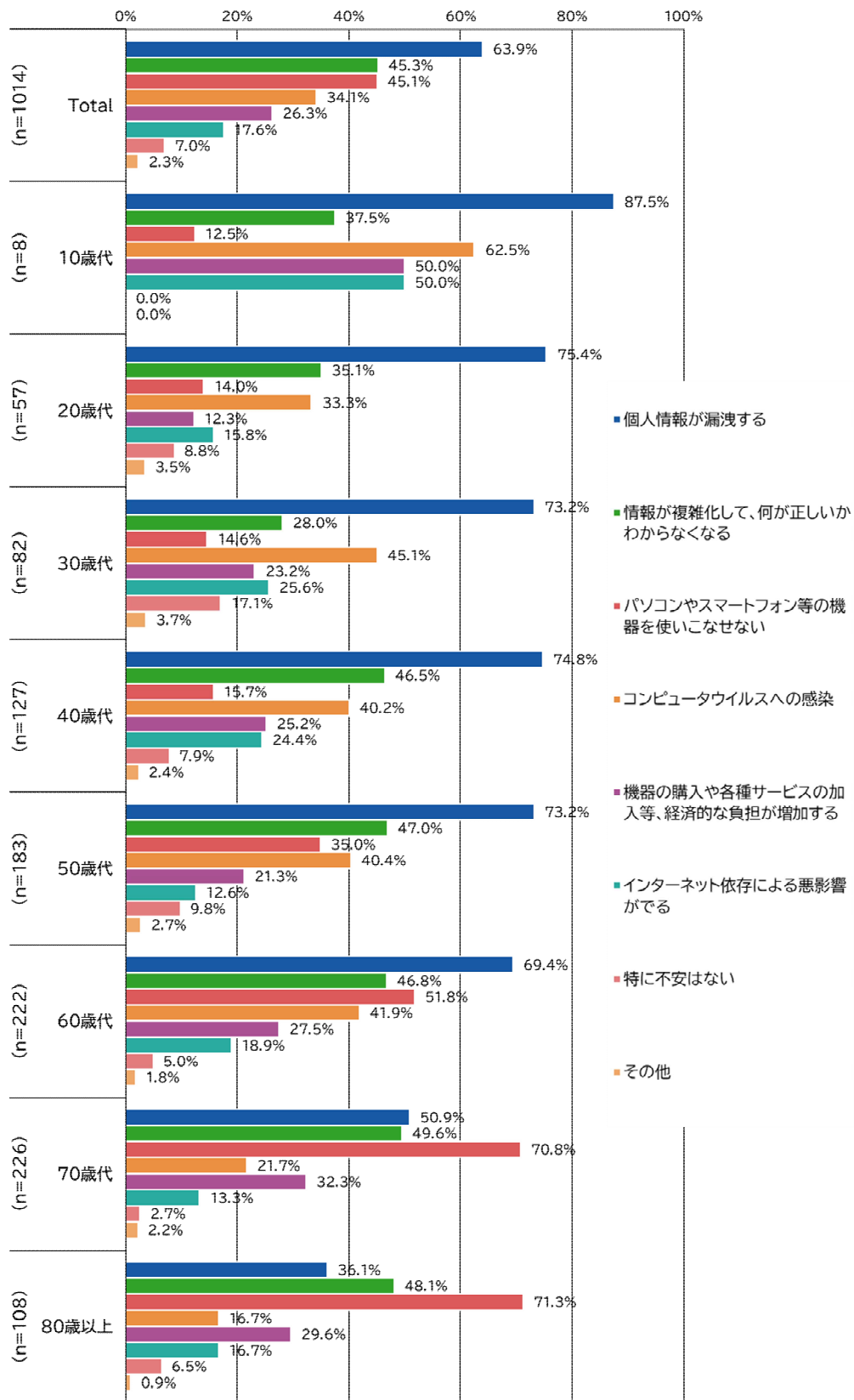


図 1 - (9) -15 デジタル化が進むことに対して不安に思うこと（その他の回答例）

- スマホ依存・対策
- 情報リテラシーの向上
- デジタルデバイド・情報格差(デジタルに弱い高齢者への配慮)
- アカウント乗っ取り、詐欺の多発、詐欺メールの識別
- デジタル遺産の発生

図 1 - (9) -16 デジタル化が進むことに対して不安に思うこと（年齢階級別）



### ⑦市の魅力を高めるために重点的に取り組むべきこと

「出産・子育て環境の整備」「医療体制の充実」「交通・移動の利便性向上」「商業・雇用の活性化」「市民の声を反映した市政運営」等に関する意見が多く見られた。

特に産婦人科・分娩施設の消滅は危機感が強く、早急な対応を求める声が多い。また、若者・子育て世代の定住促進、中心市街地の活性化、公共交通の充実、既存資源の有効活用といった課題解決が急務とするも多い。

#### 図 1-(9)-17 ⑦市の魅力を高めるために重点的に取り組むべきこと

##### ■ 医療・出産環境

- ・ 産婦人科・分娩施設が市内から消滅したことへの強い不安と不満が多数。中央病院での産科再開や新設を求める声が多に多い
- ・ 病院・診療科の偏りや不足（皮膚科、出産、検診など）、高齢化による医院閉鎖への不安
- ・ 独居高齢者や保証人がいない場合の入院・終活支援の要望

##### ■ 子育て・教育

- ・ 子どもが安心して遊べる屋内外の施設や公園の充実を求める声が多い
- ・ 子育て世帯への経済的支援、保育料軽減、奨学金返済支援、教育費負担軽減などの要望
- ・ 不登校やいじめへの対応、学習支援（無料塾やボランティアマッチング）も求められている
- ・ 制服統一やスポーツ施設の整備、部活動の地域移行への不安

##### ■ 交通・移動

- ・ 公共交通（バス、コミュニティバス、シャトルバス）の本数・路線拡充、料金引き下げ、利便性向上を求める声が多い
- ・ 高齢者や免許返納者の移動手段確保への強い要望
- ・ 駐車場の無料化や増設、イベント時の臨時駐車場確保の要望
- ・ 道路・歩道の整備、除雪、橋の新設などインフラ整備の要望

##### ■ 商業・雇用・産業

- ・ 商店街・中心市街地の空き店舗・シャッター街の活性化、家賃引き下げ、イベント開催、複合施設化などの提案
- ・ 大型商業施設や飲食店、娯楽施設（アミューズメントパーク、カラオケ、ゲームセンター等）の誘致要望
- ・ 若者や高齢者の雇用創出、企業誘致（特に IT・製薬・ベンチャー等）、最低賃金引き

#### 上げの要望

- ・ 農業・一次産業の支援拡充、地場製品のPR強化

#### ■ 観光・まちづくり

- ・ 十和田湖・奥入瀬溪流など観光資源の活用・PR強化、観光施設やトイレの整備、廃墟ホテルの撤去
- ・ イベントの充実（花火大会、秋祭り、フリーマーケット等）、市民が集える場所の創出
- ・ 美術館やアート以外の観光資源の開発・発信
- ・ 空き家対策、コンパクトシティ化、自然環境の保全・活用

#### ■ 行政・市政運営

- ・ 箱物（新規公共施設）建設への批判、既存施設の有効活用・維持費への懸念
- ・ 市長・議員・職員の質向上、若い世代の意見反映、積極的な情報発信・説明責任の強化要望
- ・ 市民の声をもっと聞き、実行力・スピード感を持った市政運営を求める声
- ・ 支援策の公平性（ひとり親・多子世帯・子なし世帯等）や、相談窓口の充実・対応改善

#### ■ その他

- ・ 高齢者・障害者・低所得者が安心して暮らせるまちづくり
- ・ ゴミ問題（プラスチックごみ収集、資源ごみ処理）、環境保全（風力発電反対、並木の保全）
- ・ デジタル化推進と高齢者への配慮、Uターン・移住者支援の強化
- ・ 市民同士の交流や世代間交流の場の創出 / 等

## 第2章 小学生向けアンケート

---

### 1. 調査概要

調査名	将来の十和田市に向けたアンケート調査（小学生向け）
調査目的	「第3次十和田市総合計画」の策定の参考とするため、市内小学校の5年生の意見を聴取する。
調査対象	市内小学校5年生
調査期間	令和7（2025）年8月25日（月）～9月29日（月）
配布数	424件
配布方法	学校備え付けタブレットを通じた配布
回収方法	学校備え付けタブレットによるウェブ回答
有効回答数	403件
有効回答率	95.0%

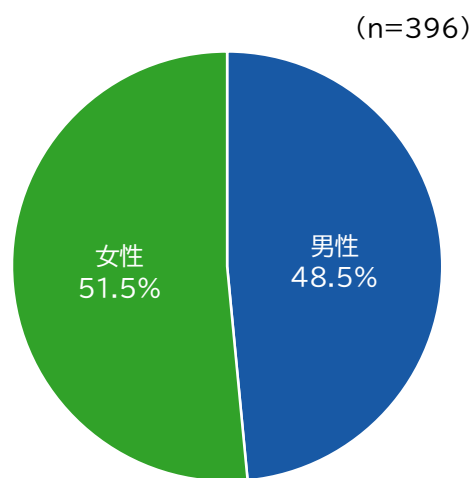
## 2. 調査結果

### (1) 基本属性

#### ①性別

女性が 51.5%、男性が 48.5%である。

図 2-(1)-1 性別



## ②居住地区

「西一番町～西二十三番町」の割合が最も高く 29.8%である。次いで、「東一番町～東二十四番町」(21.6%)、「三本木」(15.9%)である。

中心部と郊外部に分けると、中心部は 82.4%、郊外部は 17.6%である。

図 2-(1)-2 居住地区

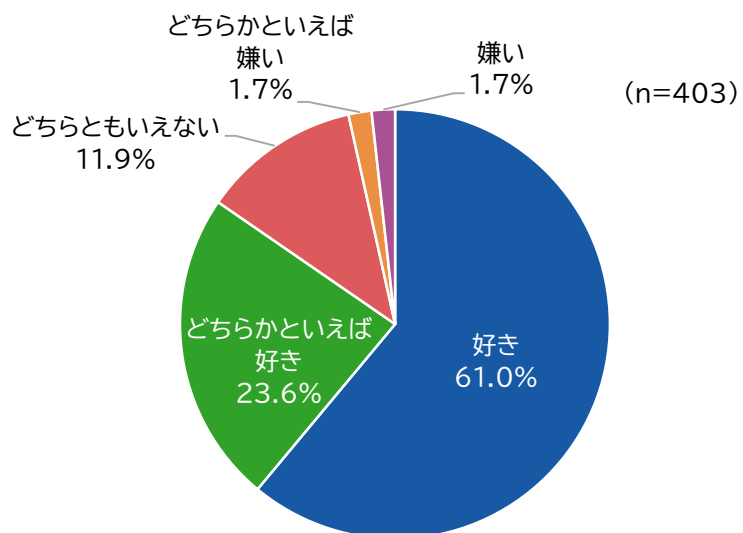
居住地区		回答者数	割合		
中心部	稲生町	6	332	1.5%	82.4%
	穂並町	1		0.2%	
	東一番町～東二十四番町	87		21.6%	
	西一番町～西二十三番町	120		29.8%	
	元町西	19		4.7%	
	元町東	7		1.7%	
	ひがしの	16		4.0%	
	一本木沢	12		3.0%	
	三本木	64		15.9%	
郊外部	赤沼	2	71	0.5%	17.6%
	切田	1		0.2%	
	深持	2		0.5%	
	洞内	8		2.0%	
	大沢田	1		0.2%	
	馬洗場	1		0.2%	
	立崎	4		1.0%	
	八斗沢	2		0.5%	
	豊ヶ岡	0		0.0%	
	相坂	14		3.5%	
	藤島	4		1.0%	
	伝法寺	5		1.2%	
	米田	2		0.5%	
	大不動	4		1.0%	
	滝沢	2		0.5%	
	沢田	7		1.7%	
	奥瀬	6		1.5%	
十和田湖畔	3	0.7%			
法量	3	0.7%			
合計		403	100.0%		

## (2) 十和田市について思うこと

### ①十和田市が好きか

「好き」、「どちらかといえば好き」を合わせた割合は 84.6%である。

図 2-(2)-1 十和田市が好きか



## ②十和田市のよいと思うところ（好きなおところ）

「自然の美しさ」「芸術や文化の魅力」「祭りや地域活動の楽しさ」「人の優しさと暮らしやすさ」等に関する意見が多く見られた。

図 2-(2)-2 十和田市のよいと思うところ（好きなおところ）（主な意見）

### ■ 自然・環境の豊かさ

- ・ 十和田湖、奥入瀬溪流、稻生川、八甲田山など美しい自然が多い
- ・ 桜並木や花火大会など四季折々の景観が楽しめる
- ・ 空気や水がきれいで、環境に優しい町
- ・ 田畑や緑が多く、農作物（にんにく、ごぼう、長芋、りんごなど）が豊富

### ■ 芸術・文化・施設

- ・ 十和田市現代美術館やアート広場、フラワーホースなど芸術作品が街にある
- ・ 図書館、市民プール、体育館、駒っこランドなど公共施設が充実
- ・ 官庁街通りの桜並木や街並みが美しい（日本の道 100 選）
- ・ 大きなスーパーがあり、買い物がしやすい

### ■ 行事・地域活動

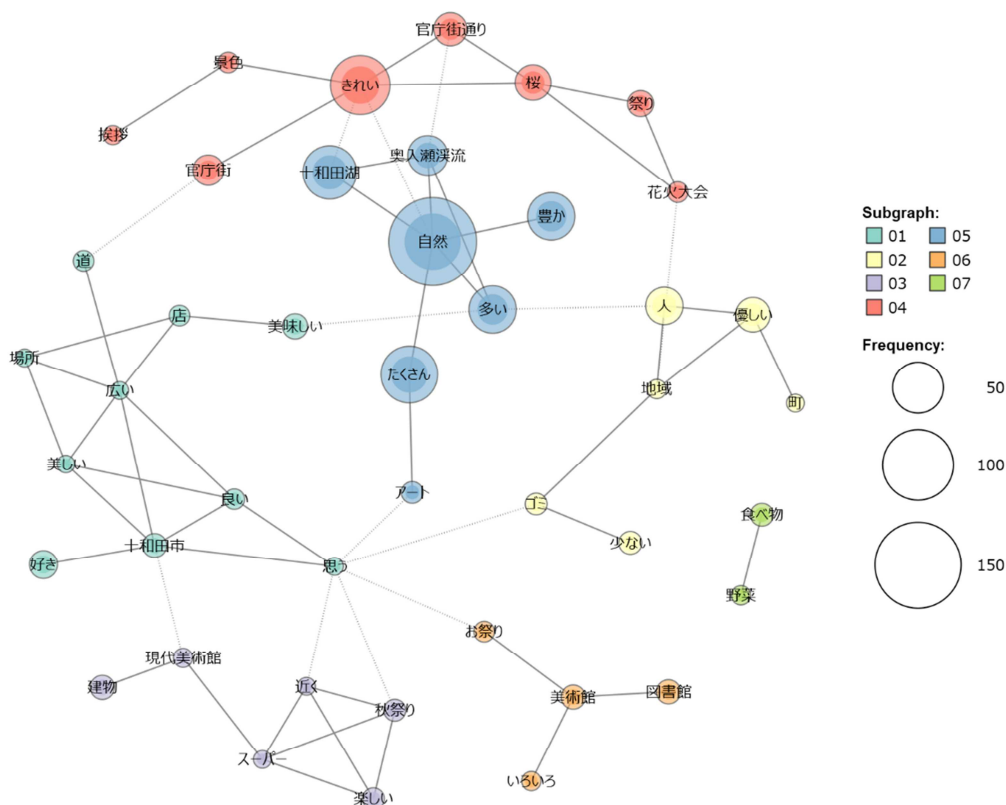
- ・ 秋祭り、桜祭り、花火大会、流鏝馬など伝統的で楽しいイベントが多い
- ・ 地域清掃やゴミ拾い活動など住民の協力が盛ん
- ・ 地域交流や友好都市とのつながりがある

### ■ 暮らしやすさ・人の温かさ

- ・ 治安が良く、事件が少ない
- ・ 挨拶をしてくれる人が多く、地域の人が優しい
- ・ 車が横断歩道で譲ってくれるなど思いやりがある
- ・ 津波など大きな災害が少なく安心して暮らせる / 等

テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、「自然」・「十和田湖」が「たくさん」・「豊か」・「多い」という回答傾向が見られる。在住地域別にみると、中心部では「官庁街」が多く、郊外部では少なかった。

図 2-(2)-3 十和田市のよいと思うところ（好きなおところ）  
 (テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)



カテゴリ	キーワード
自然	自然 (156人)、十和田湖 (56人)、豊か (43人)、多い (43人)、たくさん (63人)、奥入瀬溪流 (30人)、公園 (12人)
街なか・イベント	官庁街・官庁街通り (37人)、きれい (70人)、桜 (24人)、祭り (12人)、花火大会 (7人)、景色 (7人)
アート・文化	美術館 (10人)、図書館 (10人)、現代美術館 (6人)、アート (8人)

### ③十和田市のよくなしてほしいと思うところ（きれいなところ）

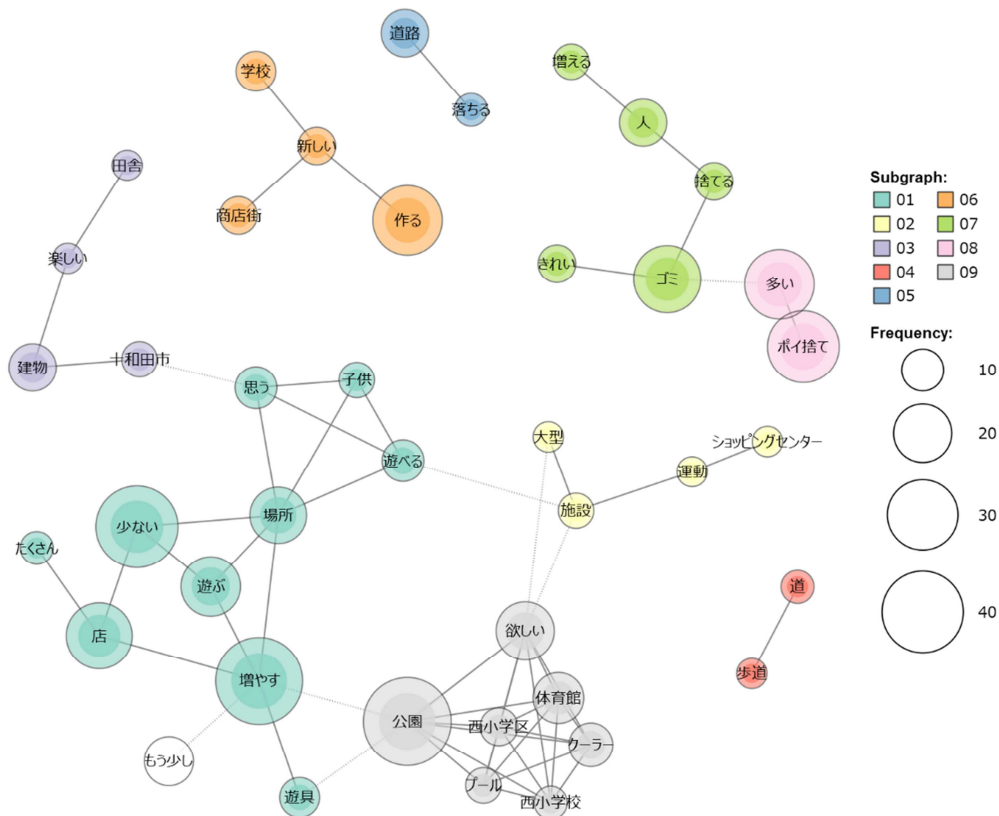
「ごみ問題の解決」「遊び場や商業施設の充実」「交通インフラの改善」「学校や公共施設の整備」「人口増加と安全な暮らし」等に関する意見が多く見られた。

#### 図 2-（2）-4 十和田市の良くなしてほしいと思うところ（きれいなところ） （主な意見）

<p><b>■ ごみ・環境問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ポイ捨てが多い、祭りや公園にごみが残る</li><li>・ ゴミ箱が少なく、道や施設にごみが散乱している</li><li>・ ごみ拾いをする人が少ないため、街が汚れて見える</li><li>・ 自然を守り、木や花を増やして環境を豊かにしてほしい</li></ul> <p><b>■ 商業・施設の不足</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 大型ショッピングモールやデパートが少ない</li><li>・ ディスカウントストア・飲食店・ファストフードの人気チェーン店がない</li><li>・ 映画館、ゲームセンター、遊園地、水族館など娯楽施設が不足</li><li>・ 商店街がシャッター街化していて寂しい雰囲気</li></ul> <p><b>■ 公園・遊び場の不足</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 公園の数が少なく、遊具も不足している</li><li>・ 子供や中高生が遊べる施設が少ない</li><li>・ 屋内で遊べる場所やアスレチック施設が欲しい</li><li>・ ドッグランや広い運動場なども求められている</li></ul> <p><b>■ 交通・インフラの不便さ</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 電車や新幹線がなく、移動手段が車やバスに限られる</li><li>・ 道路や歩道が凸凹で狭く、整備が不十分</li><li>・ 信号が多すぎたり事故が起きやすい場所がある</li><li>・ 八戸や青森に行く道路をもっと便利にしてほしい</li></ul> <p><b>■ 学校・公共施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学校の校舎が古い、体育館や家庭科室にエアコンがない</li><li>・ 西小学校のプールを続けてほしいという声</li><li>・ 学業に専念できる施設や図書館を増やしてほしい</li></ul> <p><b>■ 社会・暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 人口が少なく、若者が減っている</li><li>・ 犯罪や事故、不審者がいることへの不安</li><li>・ 挨拶をしない人がいる、地域の交流が少ない</li><li>・ 高齢者や子育て世代が住みやすい環境を整えてほしい / 等</li></ul>
---

テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、「遊ぶ」・「場所」が「少ない」ので「増やす」、「公園」が「欲しい」、「ポイ捨て」が「多い」という回答傾向が見られる。

図 2-(2)-5 十和田市のよくなってほしいと思うところ（きれいなところ）  
 (テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)

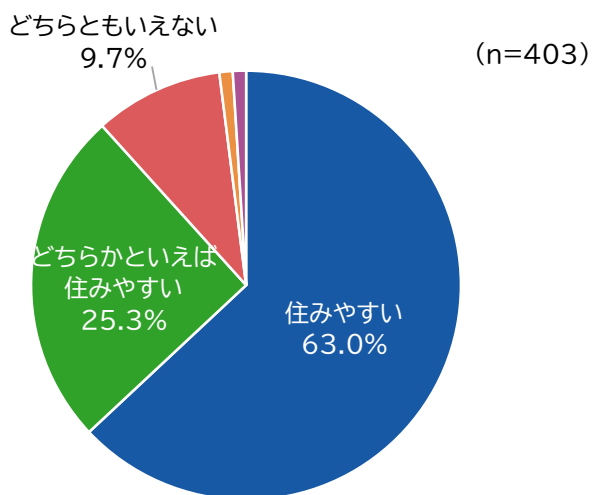


カテゴリ	キーワード
公共施設	公園 (47 人)、体育館 (15 人)
美化	ポイ捨て (31 人)、ゴミ (44 人)
商業・娯楽	店 (26 人)
娯楽・遊び場	遊び (21 人)、遊具 (9 人)
交通	道路 (13 人)

#### ④十和田市の住みやすさ

「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は 88.3%である。

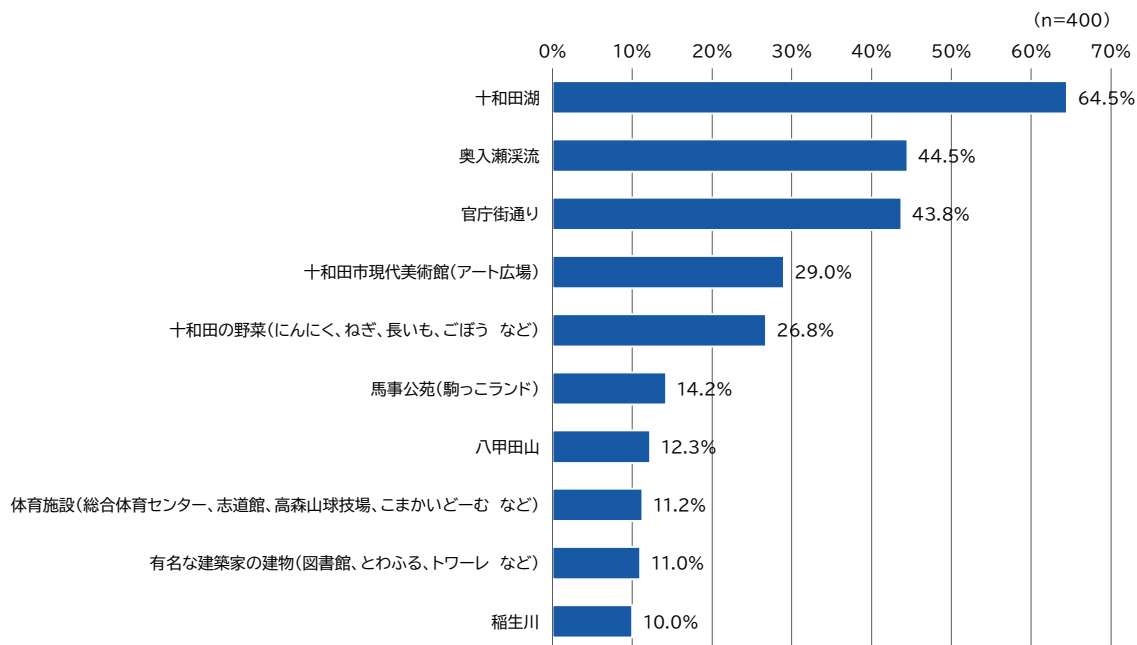
図 2-(2)-6 十和田市の住みやすさ



#### ⑤十和田市でじまんでできるもの

「十和田湖」の割合が最も高く 64.5%である。次いで、「奥入瀬溪流」(44.5%)、「官庁街通り」(43.8%)である。

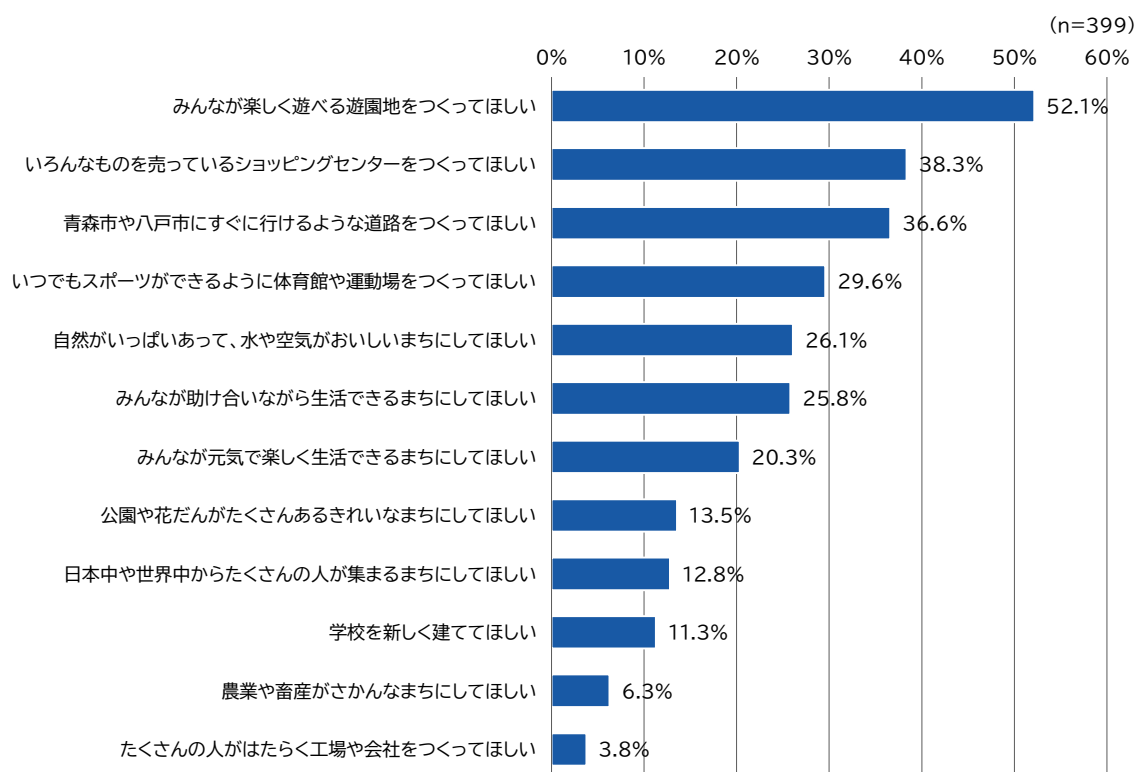
図 2-(2)-7 十和田市でじまんでできるもの



## ⑥十和田市にしてほしいと思っていること

「みんなが楽しく遊べる遊園地をつくってほしい」の割合が最も高く 52.1%である。次いで、「いろいろなものを売っているショッピングセンターをつくってほしい」(38.3%)、「青森市や八戸市にすぐに行けるような道路をつくってほしい」(36.6%)である。

図 2-(2)-8 十和田市にしてほしいと思っていること

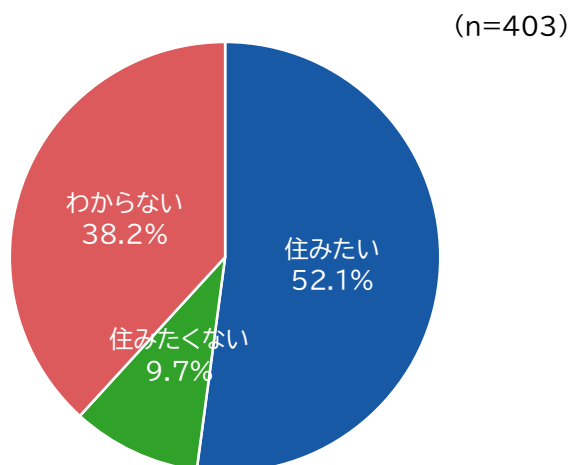


### (3) 将来について考えていること

#### ①大人になっても十和田市に住みたいか

「住みたい」の割合が最も高く 52.1%である。次いで、「わからない」(38.2%)、「住みたくない」(9.7%)である。

図 2-(3)-1 大人になっても十和田市に住みたいか



## ②将来どのような仕事をしてみたいか

「人を助ける仕事」「教育や子どもに関わる仕事」「芸術やスポーツで活躍する仕事」「動物や自然に関わる仕事」「食や生活を支える仕事」等に関する意見が多く見られた。「人の役に立ちたい」「みんなを笑顔にしたい」という気持ちに根ざした意見が多いことが特徴といえる。

図 2-(3)-2 将来どのような仕事をしてみたいか (主な意見)

- |   |
|---|
| <p>■ 人を助ける仕事</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医者、看護師、産科医、理学療法士、薬剤師、介護士、児童相談所スタッフ</li><li>・ 警察官、消防士、自衛隊、公安など安全を守る仕事</li></ul> <p>■ 子どもや教育に関わる仕事</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学校の先生 (小学校・中学校)、保育士、栄養士、ピアノの先生</li><li>・ 子供に好かれる先生になりたい、勉強や生活を支えたいという声が多い</li></ul> <p>■ 芸術・クリエイティブ系</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ イラストレーター、漫画家、絵本作家、写真家、作曲家、声優、デザイナー、モデル、女優</li><li>・ YouTuber、ゲームクリエイター、プロゲーマー、インフルエンサーなど新しい表現の仕事</li></ul> <p>■ スポーツ・運動系</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ サッカー選手 (日本代表や海外クラブを目指す夢も多い)</li><li>・ バスケットボール選手 (NBA や千葉ジェッツなど具体的な目標あり)</li><li>・ 野球選手、バレーボール選手、陸上選手、柔道選手、体操選手、スケボー選手など</li></ul> <p>■ 動物・自然に関わる仕事</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 獣医師、トリマー、ペットショップ店員、動物園・水族館の飼育員</li><li>・ 農業、畜産業、漁師、花屋、木や花の整備、恐竜の骨の発掘など自然系の仕事</li></ul> <p>■ 食・生活に関わる仕事</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ パティシエ、パン屋、ケーキ屋、料理人、ラーメン屋、寿司屋</li><li>・ スーパーやコンビニの店員、カフェ店員など身近な仕事</li></ul> <p>■ その他の仕事</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 外務省や政府関係、公務員、市役所職員、国会議員</li><li>・ 建築士、大工、電気工事士、車の修理、部品メーカーなど技術系</li><li>・ ホテル社長、会社員、タイヤ屋、時計屋など多様な職種 / 等</li></ul> |
|---|



### ③将来の十和田市をよりよいまちにするために、できること・思いつくこと

「環境美化」「遊び場や商業施設の充実」「イベントや観光の活性化」「子育て・福祉の強化」「交通インフラの改善」等に関する意見が多く見られた。

図 2-(3)-4 ③将来の十和田市をよりよいまちにするために、  
できること・思いつくこと（主な意見）

#### ■ 環境・ごみ対策

- ・ ポイ捨てをなくす、落ちているごみを拾う
- ・ ゴミ箱を増設、公園や自販機の近くに設置
- ・ ごみ拾い活動やボランティアを活発にする
- ・ リサイクルや分別を徹底し、きれいな街にする
- ・ 自然を守り、木や花を増やして環境を豊かにする

#### ■ 商業・娯楽施設の充実

- ・ 大型ショッピングモール、映画館、遊園地、水族館、動物園などを建設
- ・ ディスカウントストア・アニメ店など人気店の誘致
- ・ 公園や運動場、アスレチックなど子どもが遊べる施設を増やす
- ・ 若者や大人も楽しめる施設を整備

#### ■ イベント・文化

- ・ 祭りやイベントを増やし、地域交流を活発にする
- ・ 十和田湖や奥入瀬溪流など観光資源をもっと PR
- ・ 全国から人が集まるような大きな祭りやコンサートを開催
- ・ 十和田市の魅力を伝える CM やポスターを作る

#### ■ 暮らしやすさ・福祉

- ・ 子育て支援（子どもを産んだ人への大きなメリット、子育て施設の充実）
- ・ 病院や医療設備を増やす
- ・ 高齢者や困っている人を助ける仕組みを整える
- ・ 不登校やいじめをなくす取り組み
- ・ 点字ブロックやスロープを増やし、誰でも暮らしやすい街に

#### ■ 交通・インフラ

- ・ 電車の復活、駅の新設
- ・ バスの本数を増やす、道路を広く整備する
- ・ 安全な交通環境（信号無視や危険運転の防止） / 等



## 第3章 中学生向けアンケート

---

### 1. 調査概要

調査名	将来の十和田市に向けたアンケート調査（中学生向け）
調査目的	「第3次十和田市総合計画」の策定の参考とするため、市内中学校の2年生の意見を聴取する。
調査対象	市内中学校2年生
調査期間	令和7（2025）年8月25日（月）～9月29日（月）
配布数	466件
配布方法	学校備え付けタブレットを通じた配布
回収方法	学校備え付けタブレットによるウェブ回答
有効回答数	375件
有効回答率	80.5%

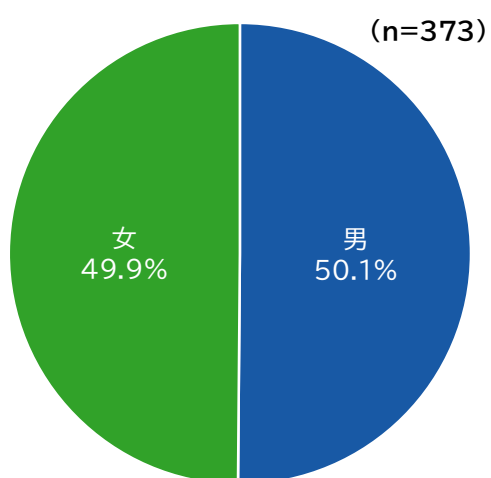
## 2. 調査結果

### (1) 基本属性

#### ①性別

男が 50.1%、女が 49.9%である。

図 3-(1)-1 性別



## ②居住地区

「西一番町～西二十三番町」の割合が最も高く 30.1%である。次いで、「東一番町～東二十四番町」(17.6%)、「三本木」(11.7%)である。

中心部と郊外部に分けると、中心部は 74.1%、郊外部は 25.9%である。

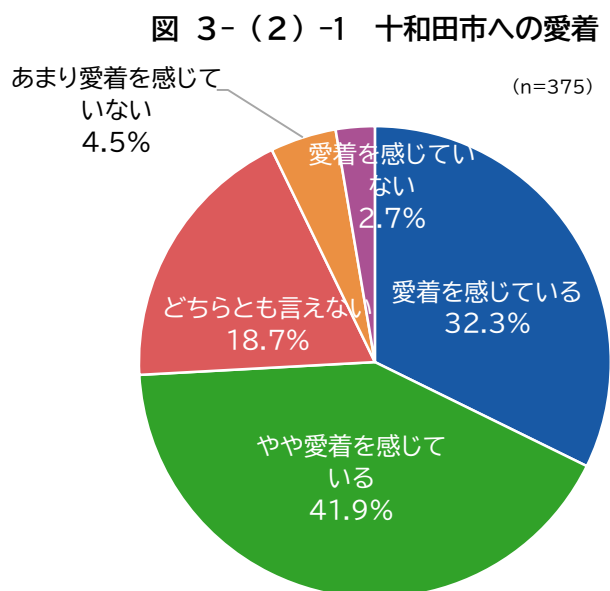
図 3-(1)-2 居住地区

居住地区		回答者数	割合		
中心部	稲生町	7	278	1.9%	74.1%
	穂並町	0		0.0%	
	東一番町～東二十四番町	66		17.6%	
	西一番町～西二十三番町	113		30.1%	
	元町西	22		5.9%	
	元町東	6		1.6%	
	ひがしの	8		2.1%	
	一本木沢	12		3.2%	
	三本木	44		11.7%	
郊外部	赤沼	7	97	1.9%	25.9%
	切田	0		0.0%	
	深持	4		1.1%	
	洞内	8		2.1%	
	大沢田	1		0.3%	
	馬洗場	0		0.0%	
	立崎	1		0.3%	
	八斗沢	0		0.0%	
	豊ヶ岡	1		0.3%	
	相坂	19		5.1%	
	藤島	2		0.5%	
	伝法寺	2		0.5%	
	米田	2		0.5%	
	大不動	7		1.9%	
	滝沢	1		0.3%	
	沢田	8		2.1%	
	奥瀬	9		2.4%	
十和田湖畔	1	0.3%			
法量	5	1.3%			
その他	19	5.1%			
合計		375		100.0%	

## (2) 十和田市について

### ①十和田市への愛着

「愛着を感じている」、「やや愛着を感じている」を合わせた割合は74.1%である。



## ②十和田市の魅力と感じる点

「自然の美しさ」「芸術と文化」「祭りやイベント」「食の豊かさ」「人の温かさと住みやすさ」等に関する意見が多く見られた。

図 3-(2)-2 十和田市の魅力とを感じる点 (主な意見)

### ■ 自然の豊かさ

- ・ 十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田山などの美しい自然景観
- ・ 桜並木や四季折々の風景が楽しめる
- ・ 空気や水がきれい、災害が少ない安心感
- ・ 農産物（りんご、ごぼう、にんにく、長芋など）が豊富で美味しい

### ■ 芸術・文化

- ・ 十和田市現代美術館や街中のアート作品
- ・ 官庁街通りの美しい街並みと桜並木（日本の道 100 選）
- ・ 芸術を活かしたまちづくりが魅力的

### ■ 行事・イベント

- ・ 秋祭り、花火大会、流鏝馬など伝統的で迫力ある祭り
- ・ 地域の人々が参加するイベントが多く、にぎわいを感じられる

### ■ 食の魅力

- ・ バラ焼き、馬刺し、ラーメン、焼肉、餃子など美味しい料理が豊富
- ・ 野菜や果物など地元食材の味が良い
- ・ 源たれなど特産品が有名

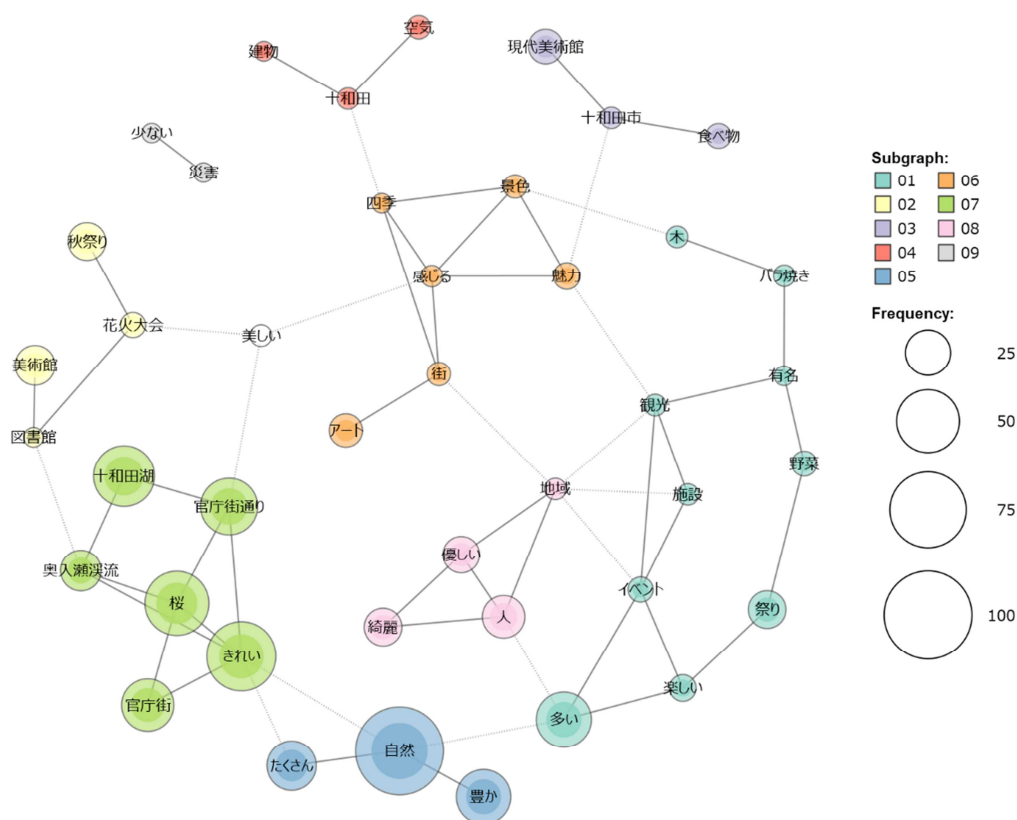
### ■ 暮らしやすさ・人の温かさ

- ・ 人が優しく、治安が良い
- ・ 公園や勉強できる施設が多く、住みやすい環境
- ・ 都会すぎず田舎すぎない「ちょうど良い」街の規模 / 等

テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、「自然」が「たくさん」「豊か」、「官庁街通り」「十和田湖」「奥入瀬溪流」が「きれい」、「アート」などの回答が多い。

在住地域別にみると、中心部では「官庁街」「美術館」が多く、郊外部では少なかった。

図 3-(2)-3 十和田市の魅力と感ずる点  
(テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)



カテゴリ	キーワード
自然	自然 (100人)、十和田湖 (47人)、豊か (37人)、多い (38人)、たくさん (30人)、奥入瀬溪流 (20人)
街なか・イベント	官庁街・官庁街通り (75人)、きれい (61人)、桜 (52人)、祭り (17人)、花火大会 (7人)
アート・文化	美術館 (19人)、図書館 (10人)、現代美術館 (14人)、アート (13人)

### ③十和田市の魅力と感しない点

「遊び場や商業施設の不足」「交通の不便さ」「街並みや施設の老朽化」「環境や治安の問題」「若者向け施策の不足」等に関する意見が多く見られた。

図 3-(2)-4 十和田市の魅力と感しない点 (主な意見)

#### ■ 娯楽・遊び場の不足

- ・ 遊ぶ場所が少ない(映画館、遊園地、ゲームセンター、漫画喫茶などが不足)
- ・ 若者や子ども向けの施設が少なく、友達と気軽に集まれる場所がない
- ・ 屋内で遊べる施設やアスレチック、スポーツ施設が不足
- ・ イベントが少なく、街に活気がない

#### ■ 商業・店舗の不足

- ・ 大型ショッピングモールやデパートがない(下田や八戸まで行かないと買い物できない)
- ・ カフェ、飲食店、ファッション店、アニメ店などの人気チェーン店がない
- ・ 飲食店やスイーツ店が少なく、バリエーションが乏しい
- ・ 商店街がシャッター街化していて閉店が多い

#### ■ 交通・インフラの不便さ

- ・ 電車がなく、バスの本数が少ない・料金が高い
- ・ 車以外の移動手段が乏しく、郊外から市街地へのアクセスが不便
- ・ 道路や歩道が凸凹で危険、街灯が少なく夜道が暗い

#### ■ 景観・施設の問題

- ・ 空き家や古い建物が多く、街並みに活気がない
- ・ 無駄な建物や使われていない施設が多い
- ・ 公園や遊具が少なく、整備が不十分
- ・ トイレが汚い、ゴミ箱が少ないなど生活環境面の不満

#### ■ 社会・暮らし

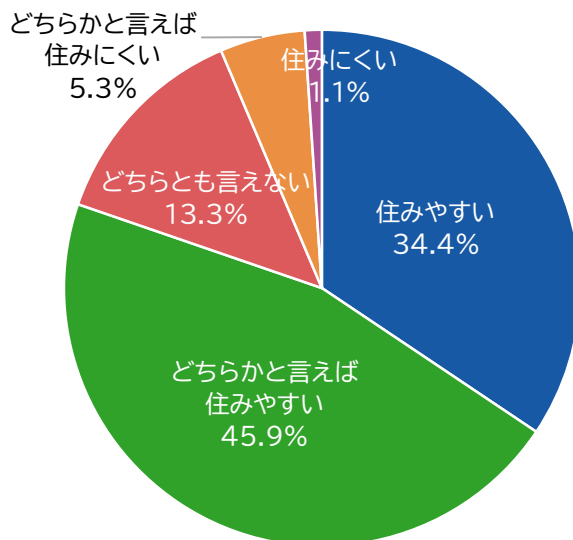
- ・ ポイ捨てやゴミが多い、マナー違反が目立つ
- ・ 治安が悪いと感じる場面がある、不審者の存在
- ・ 人口減少や高齢者中心の街づくりで若者向けの施策が不足
- ・ 「田舎すぎる」「何もない」と感じる声が多い / 等



#### ④十和田市の住みやすさ

「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は80.3%である。

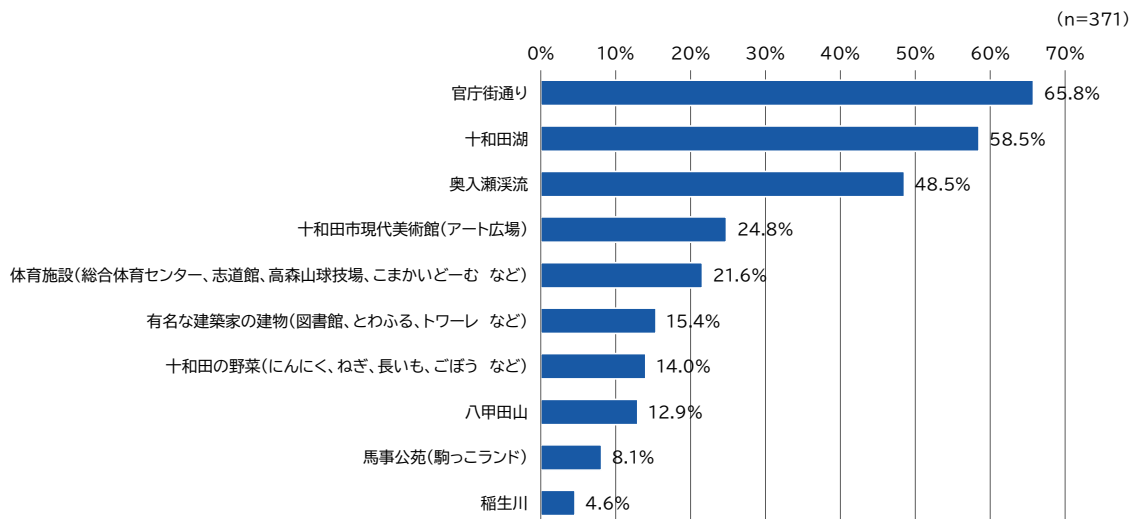
図 3-(2)-6 十和田市の住みやすさ



#### ⑤十和田市で誇れるもの

「官庁街通り」の割合が最も高く65.8%である。次いで、「十和田湖」(58.5%)、「奥入瀬溪流」(48.5%)である。

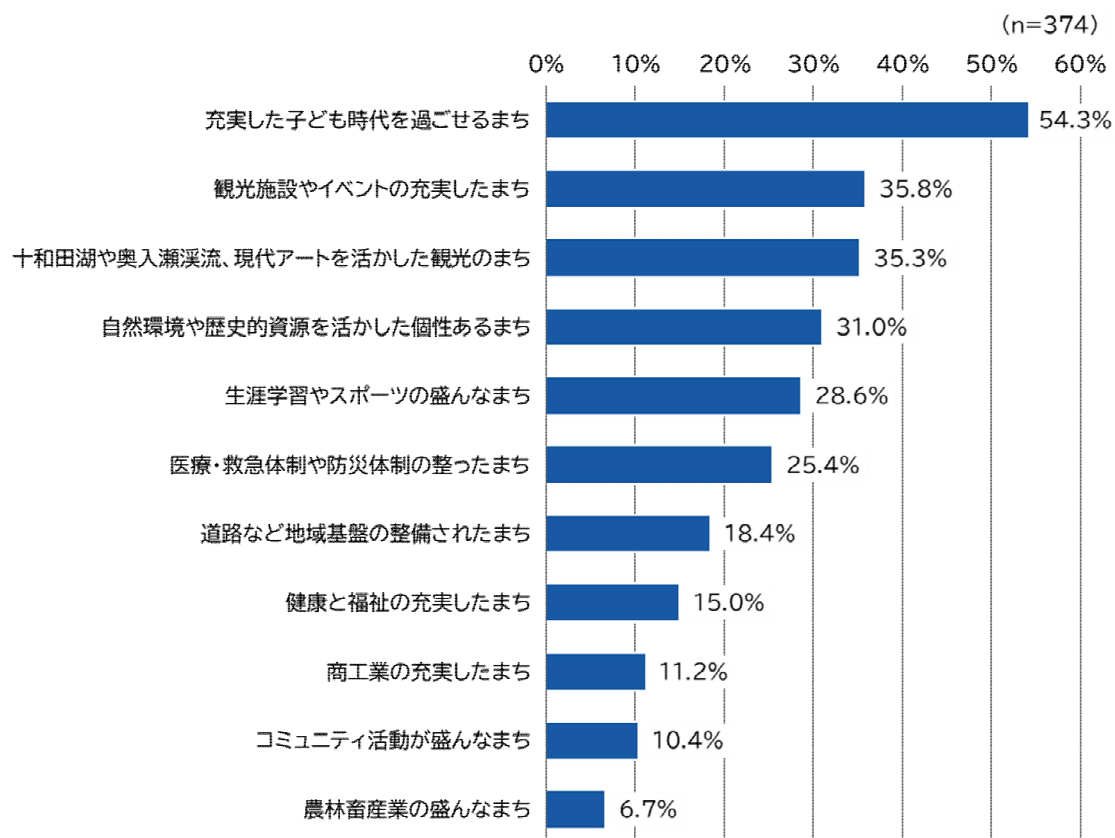
図 3-(2)-7 十和田市で誇れるもの



### ⑥十和田市の10年後のまちの姿

「充実した子ども時代を過ごせるまち」の割合が最も高く54.3%である。次いで、「観光施設やイベントの充実したまち」(35.8%)、「十和田湖や奥入瀬溪流、現代アートを活かした観光のまち」(35.3%)である。

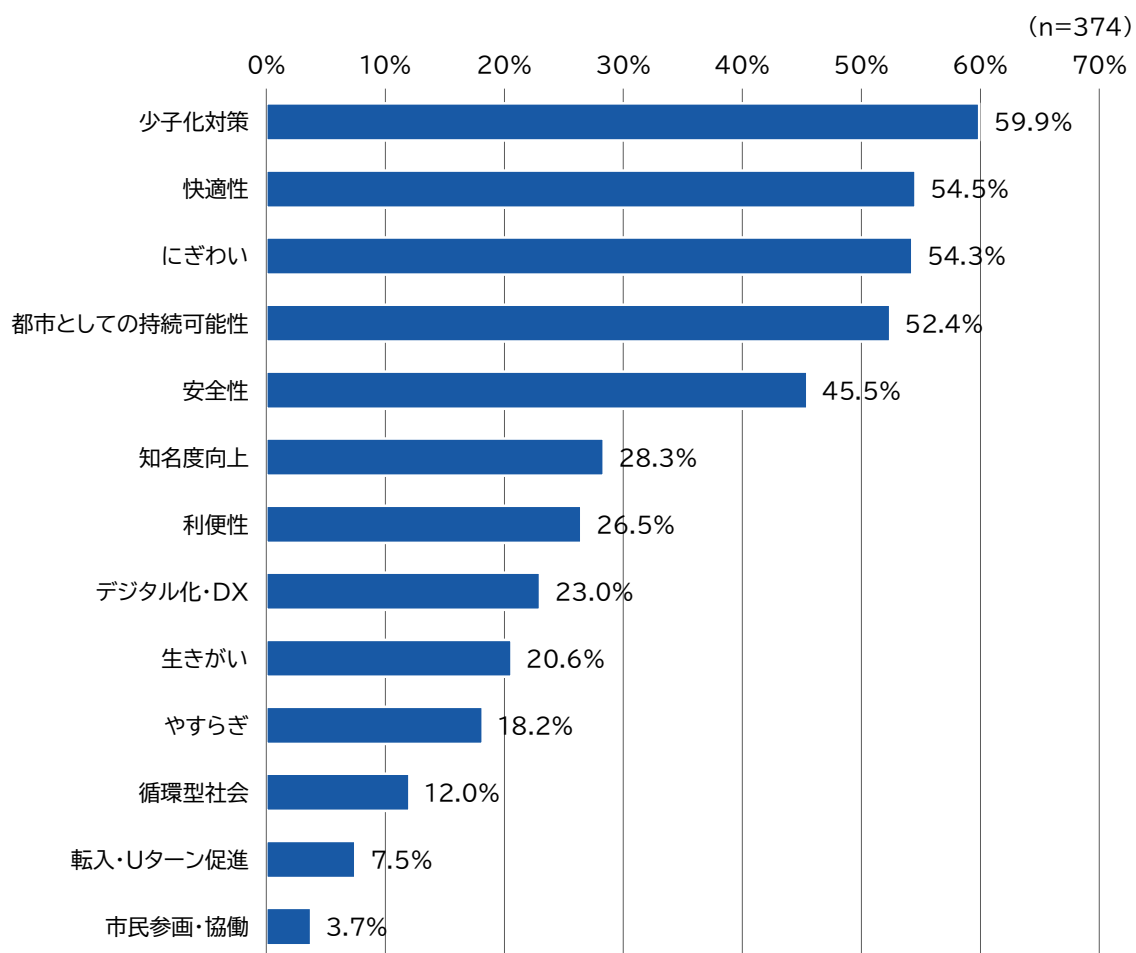
図 3-(2)-8 十和田市の10年後のまちの姿



### ⑦これからのまちづくりに必要な視点

「少子化対策」の割合が最も高く 59.9%である。次いで、「快適性」(54.5%)、「にぎわい」(54.3%)である。

図 3-(2)-9 これからのまちづくりに必要な視点

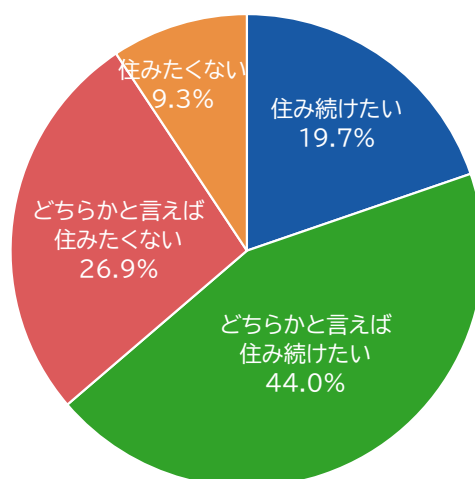


### (3) 定住・就職について

#### ①定住意向

「住みたい」、「どちらかと言えば住みたい」を合わせた割合は 63.7%である。

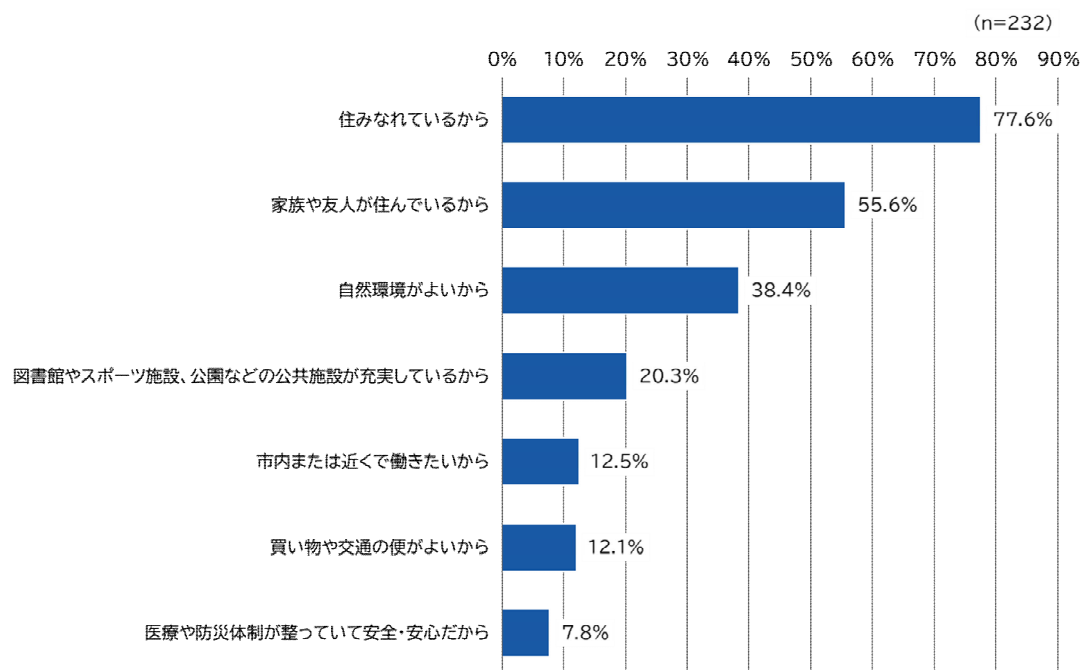
図 3-(3)-1 定住意向



## ②住み続けたい理由

「住みなれているから」の割合が最も高く 77.6%である。次いで、「家族や友人が住んでいるから」(55.6%)、「自然環境がよいから」(38.4%)である。

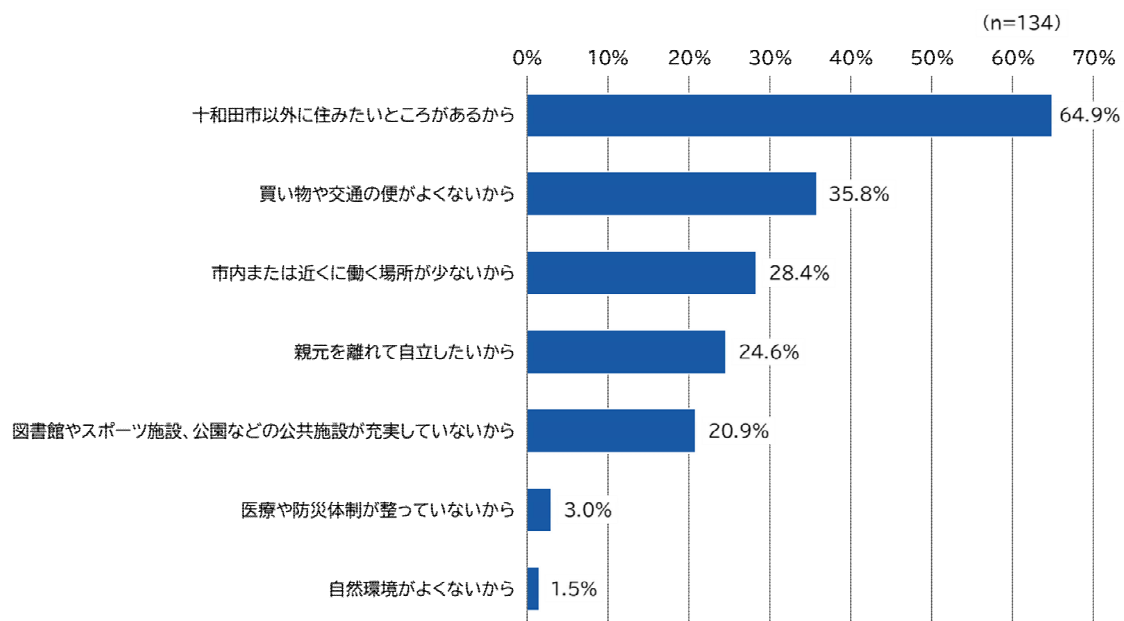
図 3-(3)-2 住み続けたい理由



### ③住み続けたくない理由

「十和田市以外に住みたいところがあるから」の割合が最も高く 64.9%である。次いで、「買い物や交通の便がよくないから」(35.8%)、「市内または近くに働く場所が少ないから」(28.4%)である。

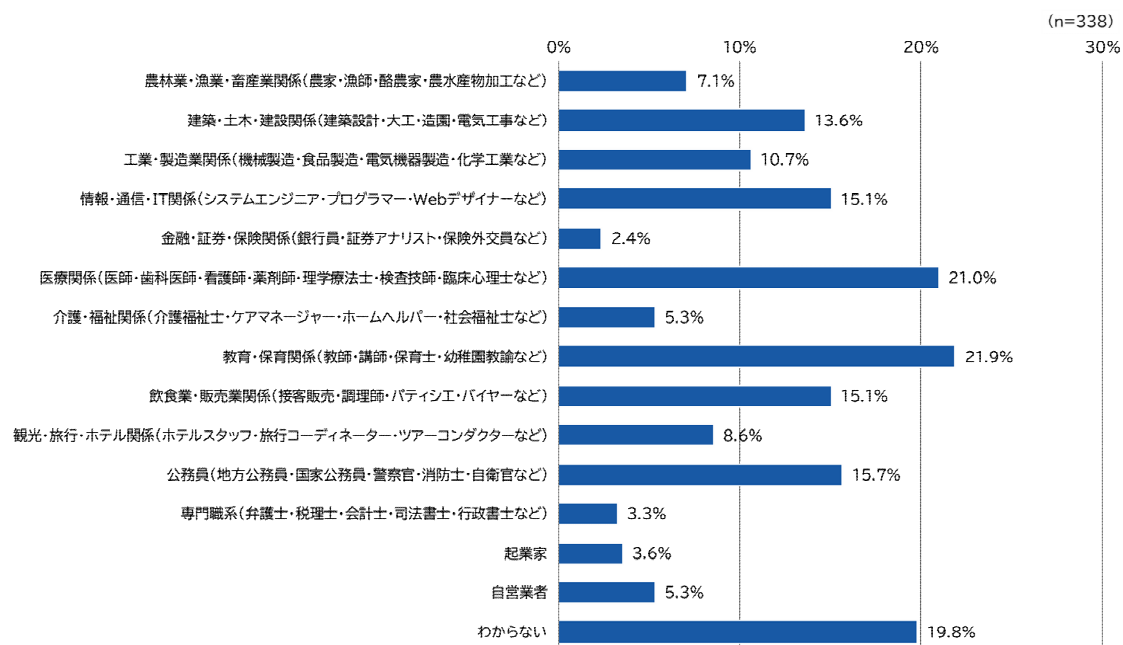
図 3-(3)-3 住み続けたくない理由



#### ④将来就きたいと思っている仕事

「教育・保育関係（教師・講師・保育士・幼稚園教諭など）」の割合が最も高く 21.9%である。次いで、「医療関係（医師・歯科医師・看護師・薬剤師・理学療法士・検査技師・臨床心理士など）」（21.0%）、「わからない」（19.8%）である。

図 3-（3）-4 将来就きたいと思っている仕事



⑤将来の十和田市をより良いまちにするために、できること・思いつくこと

「遊び場や商業施設の充実」「交通インフラの改善」「環境保護」「イベントや文化の発信」「子育て・福祉の強化」等に関する意見が多く見られた。

図 3-(3)-5 将来の十和田市をより良いまちにするために、  
できること・思いつくこと (主な意見)

■ 商業・娯楽施設の充実

- ・ 大型ショッピングモールやデパートの建設
- ・ カフェ、飲食店、ファストフード、ゲームセンターなどの人気チェーン店の誘致
- ・ ゲームセンター、映画館、遊園地、トランポリン施設など子どもから大人まで楽しめる施設の増設
- ・ アーケード街やシャッター街の復活・有効活用

■ 交通・インフラ整備

- ・ 電車の復活や駅の新設
- ・ バスの本数増加、料金の見直し
- ・ 道路や歩道の整備（舗装、街灯、信号機の設置など）
- ・ 郊外と市街地を結ぶ交通網の改善

■ 環境・自然保護

- ・ ポイ捨て防止、ゴミ拾い活動の推進
- ・ ゴミ箱の増設、リサイクルの徹底
- ・ 自然を守りながら魅力を発信（奥入瀬溪流や十和田湖のPR強化）
- ・ 緑を増やし、環境保全活動を活発化

■ イベント・文化振興

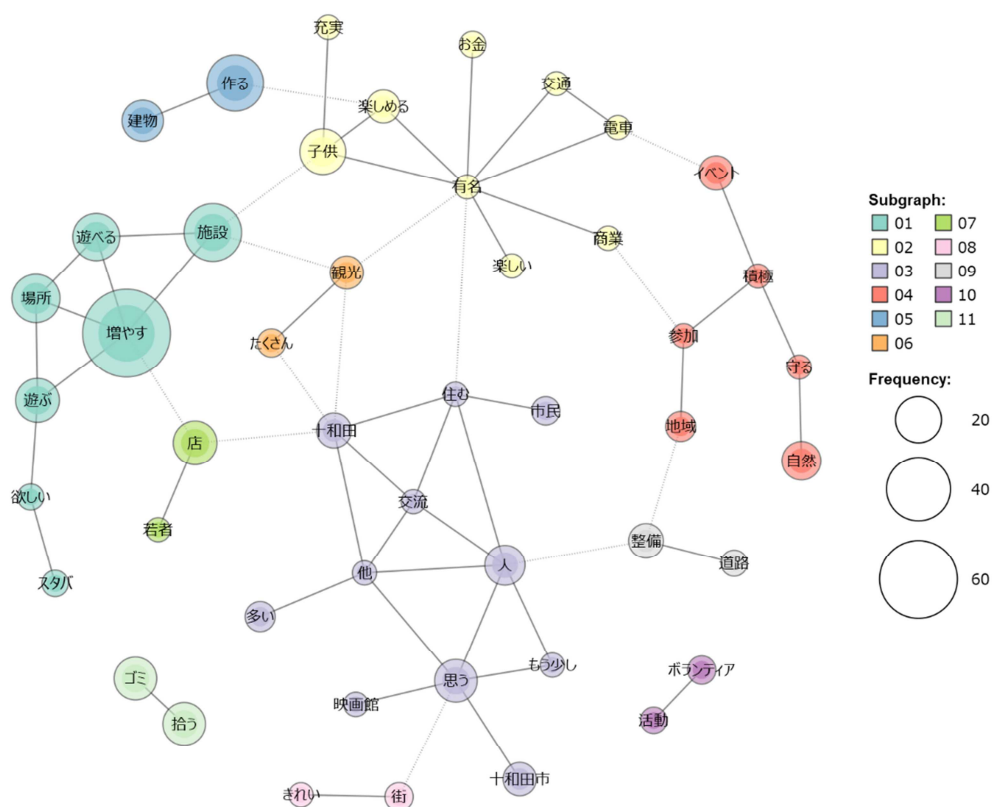
- ・ 夏祭り・秋祭り・花火大会などイベントの拡充
- ・ 十和田の歴史や文化を伝える博物館の建設
- ・ 「十和田のいいところポスターコンクール」など市民参加型企画
- ・ 国際交流の場を設け、観光客や外国人との交流を促進

■ 福祉・暮らしやすさ

- ・ 子育て支援（出産時の補助金、産婦人科の増設）
- ・ 学生や若者が勉強・交流できるスペースの整備（軽食付き学習施設など）
- ・ 高齢者だけでなく学生や若者も楽しめる取り組み
- ・ 安全性向上（不審者対策、夜道の街灯増設、治安維持） / 等

テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、「遊べる場所・施設」を「子ども」が「楽しめる」「建物」を「作る」、「市民」の「交流」などの回答が多い。

図 3-(3)-6 将来の十和田市をより良いまちにするために、  
 できること・思いつくこと  
 (テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)



カテゴリ	キーワード
自然	自然 (14人)
公共施設	施設 (32人)、建物 (16人)
美化	ポイ捨て (12人)、ゴミ (17人)
商業・娯楽	シャッター街 (9人)、店 (18人)、映画館 (8人)、ショッピング (7人)、観光 (10人)
娯楽・遊び場	子ども (20人)、遊び (39人)、場所 (22人)、イベント (11人)、環境 (11人)

## 第4章 高校生向けアンケート

---

### 1. 調査概要

調査名	将来の十和田市に向けたアンケート調査（高校生向け）
調査目的	「第3次十和田市総合計画」の策定の参考とするため、市内高校の2年生の意見を聴取する。
調査対象	市内に所在する高校に在学する高校2年生
調査期間	令和7（2025）年8月25日（月）～9月29日（月）
配布数	518件
配布方法	学校備え付けタブレットを通じた配布
回収方法	学校備え付けタブレットによるウェブ回答
有効回答数	473件
有効回答率	91.3%

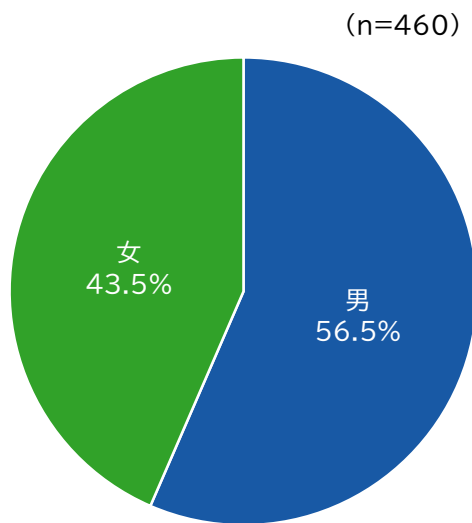
## 2. 調査結果

### (1) 基本属性

#### ①性別

男が 55.0%、女が 42.3%である。

図 4-(1)-1 性別



## ②居住地区

市外の割合が最も高く 32.6%である。次いで、「西一番町～西二十三番町」(18.6%)、「東一番町～東二十四番町」(14.8%)である。

中心部と郊外部に分けると、中心部は 53.9%、郊外部は 46.1%である。

図 4-(1)-2 居住地区

居住地区		回答者数	割合		
中心部	稲生町	2	255	0.4%	53.9%
	穂並町	2		0.4%	
	東一番町～東二十四番町	70		14.8%	
	西一番町～西二十三番町	88		18.6%	
	元町西	10		2.1%	
	元町東	7		1.5%	
	ひがしの	8		1.7%	
	一本木沢	16		3.4%	
	三本木	52		11.0%	
郊外部	赤沼	2	218	0.4%	46.1%
	切田	5		1.1%	
	深持	6		1.3%	
	洞内	4		0.8%	
	大沢田	2		0.4%	
	馬洗場	0		0.0%	
	立崎	1		0.2%	
	八斗沢	1		0.2%	
	豊ヶ岡	0		0.0%	
	相坂	20		4.2%	
	藤島	3		0.6%	
	伝法寺	0		0.0%	
	米田	1		0.2%	
	大不動	0		0.0%	
	滝沢	0		0.0%	
	沢田	3		0.6%	
	奥瀬	10		2.1%	
十和田湖畔	2	0.4%			
法量	4	0.8%			
市外	154	32.6%			
合計		473	100.0%		

## (2) 十和田市について

### ①十和田市への愛着

「愛着を感じている」、「やや愛着を感じている」を合わせた割合は 56.0%である。

図 4-(2)-1 十和田市への愛着

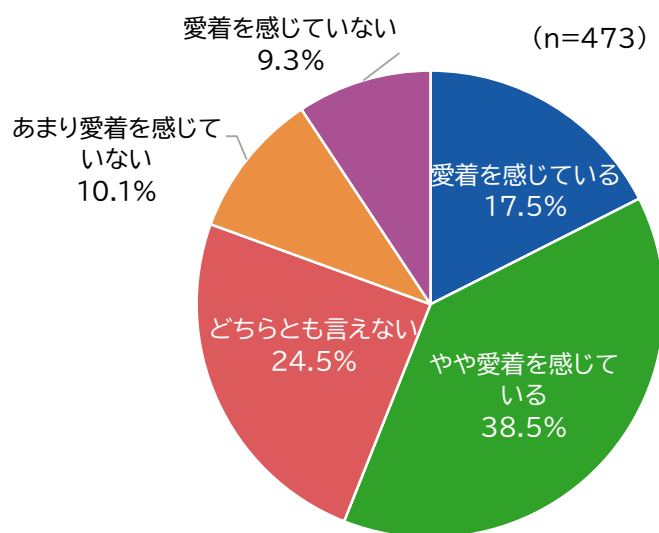
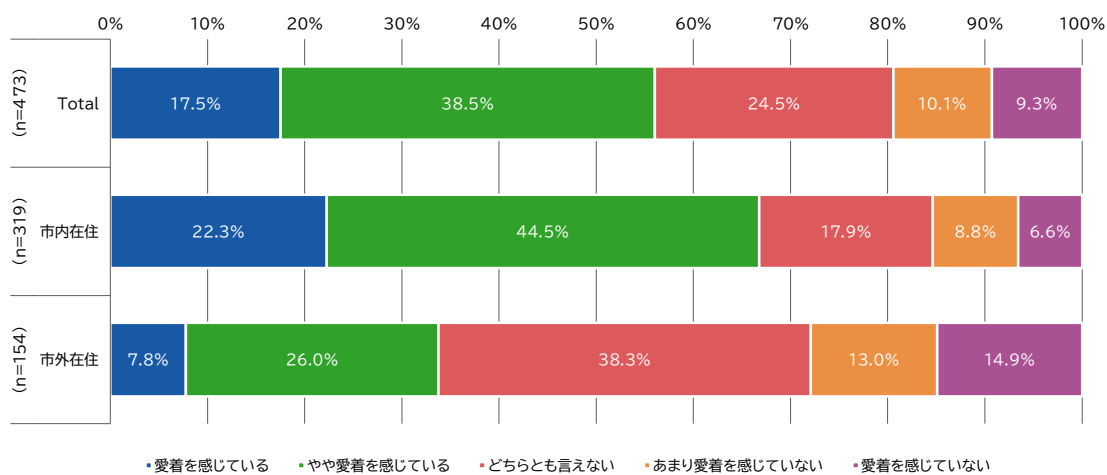


図 4-(2)-2 十和田市への愛着 (市内・市外在住別)



## ②十和田市の魅力とを感じる点

「自然の豊かさ」「芸術と文化」「美味しい食べ物」「整った街並みと施設」「人の温かさ」等に関する意見が多く見られた。

図 4-(2)-3 十和田市の魅力とを感じる点 (主な意見)

### ■ 自然の魅力

- ・ 十和田湖・奥入瀬溪流・八甲田山など豊かな自然
- ・ 桜や四季の美しい景観、空気や水がきれい
- ・ 農産物（りんご・にんにく・野菜）が美味しい
- ・ 災害が少なく、静かで落ち着ける環境

### ■ 芸術・文化

- ・ 十和田市現代美術館や街中のアート作品
- ・ 官庁街通りの美しい街並みと桜並木
- ・ 流鏝馬や秋祭り、花火大会など伝統行事が盛ん
- ・ 三本木小唄や南部切田神楽など地域文化

### ■ 食の魅力

- ・ バラ焼き、源たれ、ラーメン屋など美味しい食べ物が豊富
- ・ 古い飲食店や自営業の店に温かみがある
- ・ ご飯や野菜・肉など地元食材が美味しい

### ■ 街並み・施設

- ・ 官庁街通りの整然とした街並み、碁盤の目状の道路で迷いにくい
- ・ 図書館や交流施設がきれいで充実
- ・ 公園やスポーツ施設が多く、住みやすい環境
- ・ スーパーや最低限の商業施設が揃っていて生活に困らない

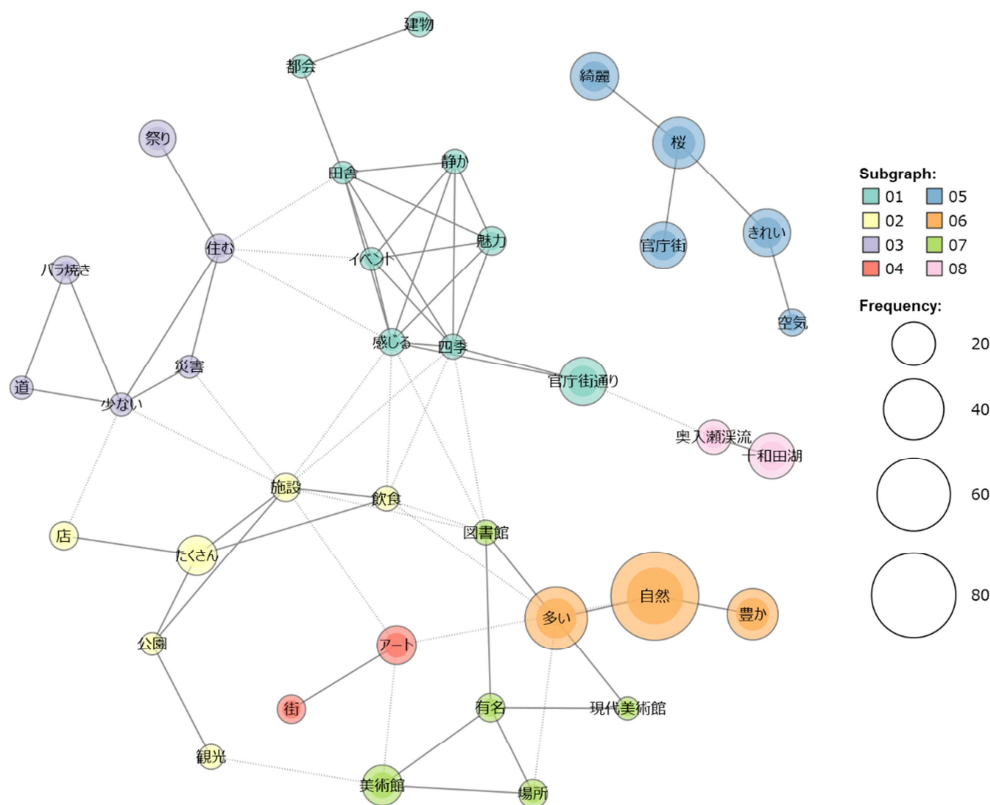
### ■ 人・暮らし

- ・ 人が優しく温かい、治安が良い
- ・ 穏やかで平和な町並み
- ・ 都会すぎず田舎すぎない「ちょうど良い」バランス / 等

テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、「自然」が「多い」「豊か」、「官庁街」「奥入瀬溪流」「十和田湖」「桜」が「きれい」、「アート」「美術館」の「街」などの回答が多い。

在住地域別にみると、中心部では「官庁街」「美術館」がやや多く、郊外部では少なかった。

図 4-(2)-4 十和田市の魅力と感ずる点  
(テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)



※テキストマイニングにより頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施

カテゴリ	キーワード
自然	自然 (87人)、十和田湖 (23人)、豊か (28人)、多い (43人)、たくさん (17人)、奥入瀬溪流 (12人)
街なか・イベント	官庁街・官庁街通り (48人)、きれい (24人)、桜 (29人)、祭り (27人)
アート・文化	美術館 (17人)、図書館 (6人)、現代美術館 (5人)、アート (16人)

### ③十和田市の魅力と感じない点

「遊び場や商業施設の不足」「交通の不便さ」「街並みや施設の老朽化」「行政の税金の使い方への不満」等に関する意見が多く見られた。

図 4-(2)-5 十和田市の魅力と感じない点 (主な意見)

#### ■ 娯楽・遊び場の不足

- ・ 遊ぶ場所が少ない(カラオケ・ゲームセンター・映画館・ショッピングモールなどが不足)
- ・ 若者向けの施設やカフェが少ない
- ・ 友達と集まれる場所が限られている
- ・ イベントや子ども向けの遊び場も少ない

#### ■ 商業施設・店舗の不足

- ・ 大型ショッピングモールやデパートがない(下田や八戸まで行かないと買い物できない)
- ・ カフェ、飲食店、ディスカウントストア、デパートなどの人気チェーン店がない
- ・ 商店街がシャッター街化していて閉店が多い
- ・ 魅力的な飲食店や今どきのお店が少ない

#### ■ 交通・アクセスの不便さ

- ・ 電車がない、バスの本数が少ない、運賃が高い
- ・ 車以外の移動手段が乏しい
- ・ 都市部へのアクセスに時間とお金がかかる

#### ■ 景観・施設の問題

- ・ 空き家や古い建物が多く、街並みが寂しい
- ・ 歩道や道路がボコボコで危険、舗装が不十分
- ・ 公共施設や体育館などが不足、設備が古い
- ・ 官庁街通りは評価が高いが、脇道は景観が質素でバランスが悪い

#### ■ 行政・運営への不満

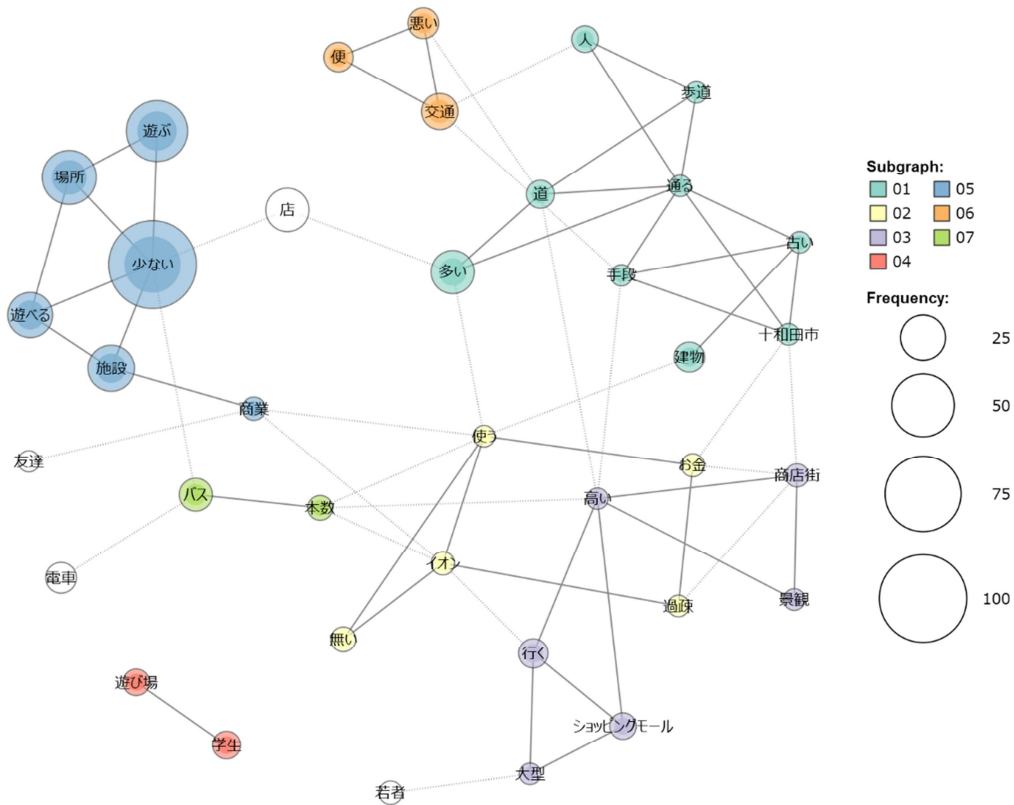
- ・ トワーレやトワフルなど「市民に役立たない施設」に税金を使っていると感じる
- ・ 美術品や観光向けの施設ばかりで、市民が喜ぶものが少ない
- ・ ゴミやポイ捨てが目立ち、祭り後の清掃が不十分

#### ■ その他

- ・ 馬糞の匂いなど生活環境面での不快感
- ・ 熊の出没など安全面の不安
- ・ 過疎化・少子高齢化が進んでいる / 等

テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、「遊べる場所」が「少ない」、「古い建物」が「多い」、「交通の便」が「悪い」などの回答が多い。

図 4-(2)-6 十和田市の魅力と感じない点  
(テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)

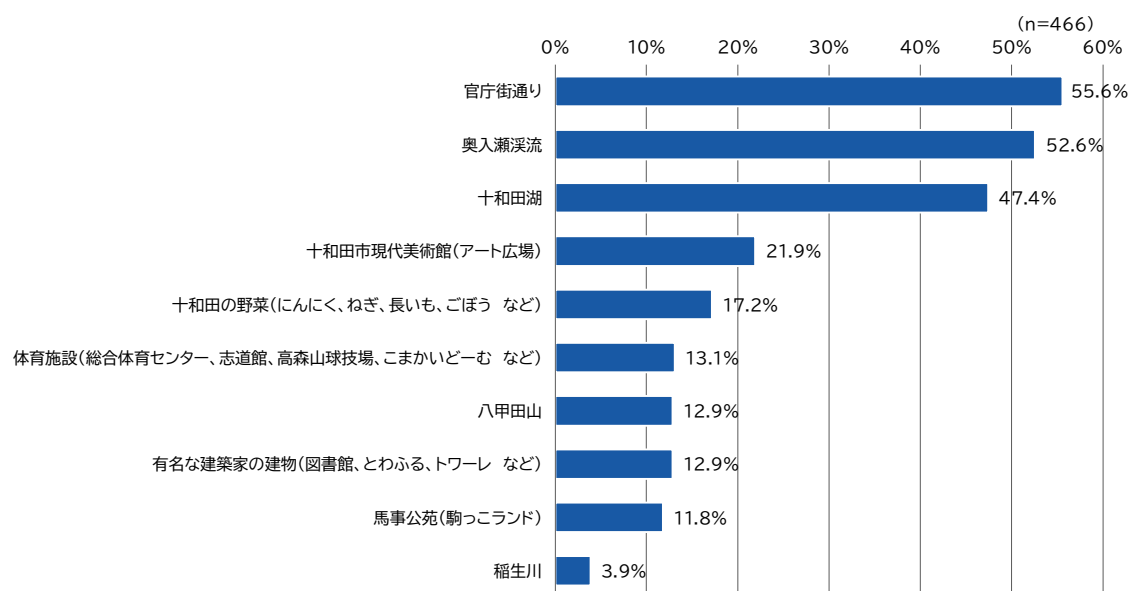


カテゴリ	キーワード
公共施設	施設 (27人)、建物 (11人)
商業・娯楽	シャッター街 (14人)、店 (23人)、ショッピング (8人)、少ない (101人)
娯楽・遊び場	遊び (81人)、場所 (37人)
交通	交通 (16人)、バス (13人)、電車 (11人)、悪い (11人)

#### ④十和田市で誇れるもの

「官庁街通り」の割合が最も高く 55.6%である。次いで、「奥入瀬溪流」(52.6%)、「十和田湖」(47.4%)である。

図 4-(2)-7 十和田市で誇れるもの



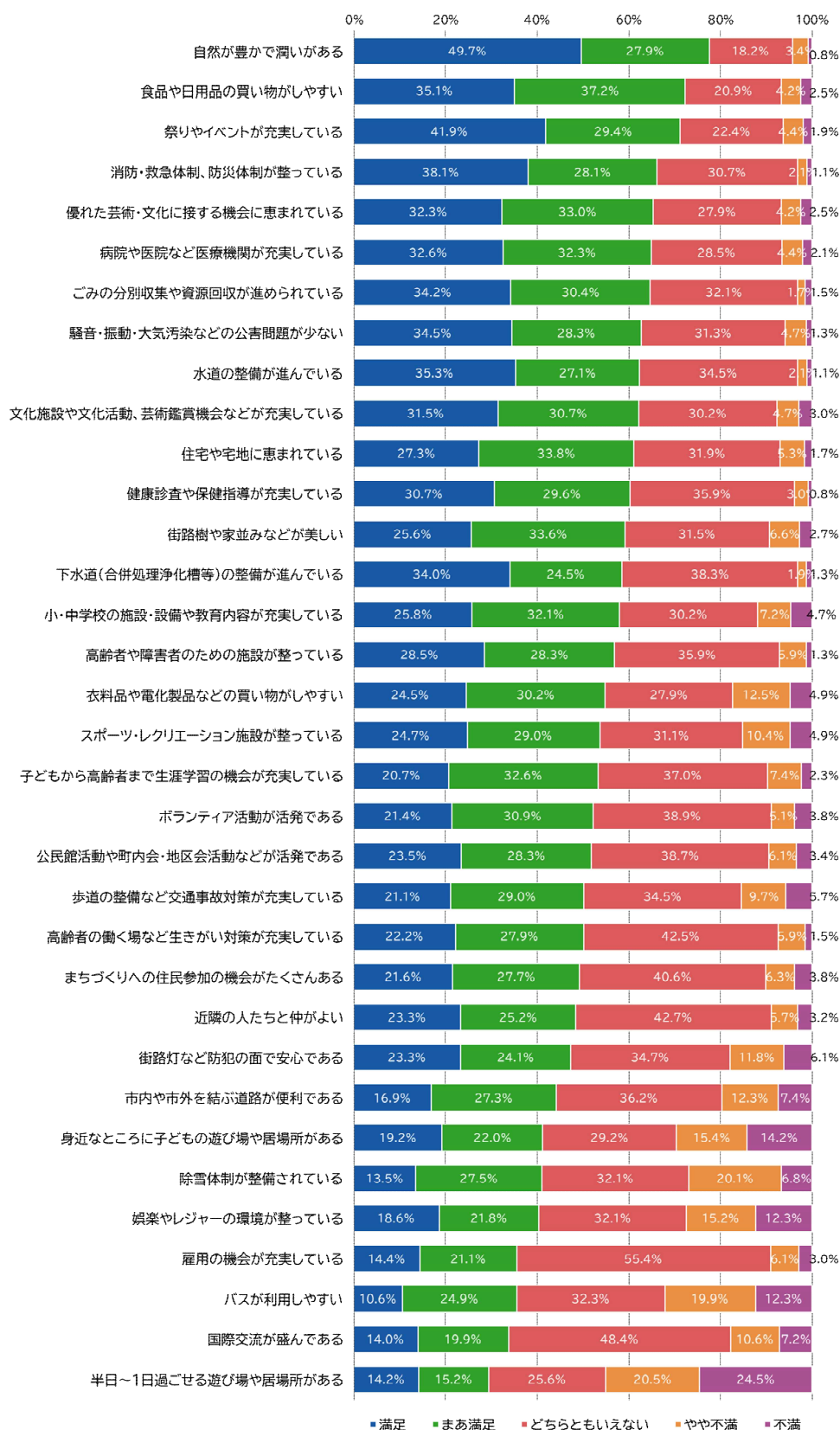
### (3) 施策の満足度・重要度

#### ①生活環境の満足度

「満足」、「やや満足」の割合の合計は、「自然が豊かで潤いがある」が最も高く77.6%である。次いで、「食品や日用品の買い物がしやすい」(72.3%)、「祭りやイベントが充実している」(71.3%)である。

「不満」、「やや不満」の合計は、「半日～1日過ごせる遊び場や居場所がある」が最も高く45.0%である。次いで、「バスが利用しやすい」(32.1%)、「身近なところに子どもの遊び場や居場所がある」(29.6%)である。

図 4-(3)-1 生活環境の満足度（「満足+まあ満足」の多い順）

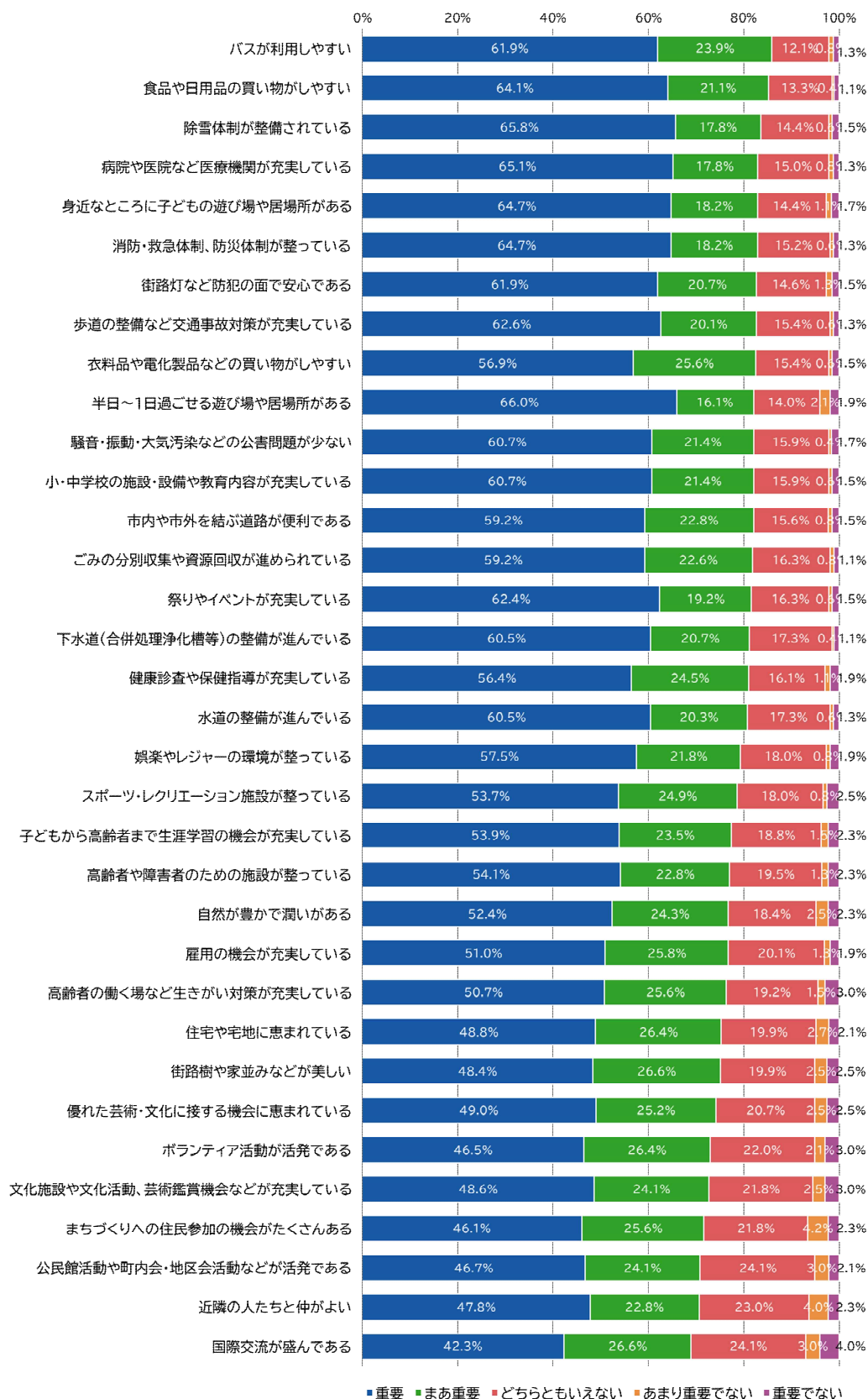


## ②生活環境の重要度

「重要」、「まあ重要」の割合の合計は、「バスが利用しやすい」が最も高く 85.8%である。次いで、「食品や日用品の買い物がしやすい」(85.2%)、「除雪体制が整備されている」(83.6%)である。

「重要でない」と「あまり重要でない」の割合の合計に着目すると、「国際交流が盛んである」における割合が高く 7.0%である。次いで、「まちづくりへの住民参加の機会がたくさんある」(6.5%)、「近隣の人たちと仲がよい」(6.3%)、「文化施設や文化活動、芸術鑑賞機会などが充実している」(5.5%)、「街路樹や家並みなどが美しい」(5.0%)、「優れた芸術・文化に接する機会に恵まれている」(5.0%)、「公民館活動や町内会・地区会活動などが活発である」(5.1%)、「ボランティア活動が活発である」(5.1%)「自然が豊かで潤いがある」(4.8%)、「住宅や宅地に恵まれている」(4.8%)である。

図 4-(3)-2 生活環境の重要度（「重要+まあ重要」の多い順）



### ③満足度×重要度の分析

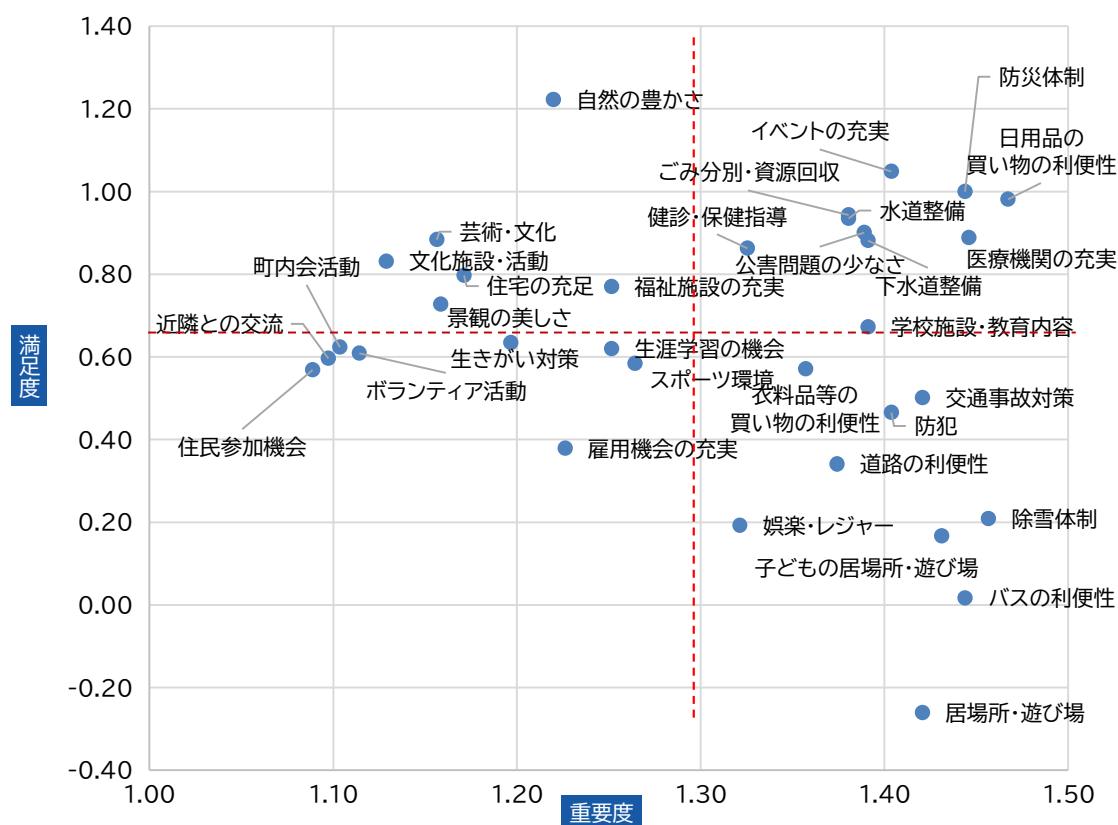
生活の満足度と重要度の関係は以下の通りである。

満足度・重要度ともに高いのは、「日用品の買い物の利便性」「防災体制」「医療機関の充実」「イベントの充実」などであり、これらは高校生の目から見た本市の強みといえる。

一方、満足度・重要度ともに低い左下の象限に位置する施策は少ないが、「雇用機会の充実」「住民参加機会」「近隣との交流」「町内会活動」などは比較的低い値となっている。

最も重視すべきである重要度が高いが満足度が低いものは、「除雪体制」「バスの利便性」「居場所・遊び場」「子どもの居場所・遊び場」などであり、高校生の目から見た重点的な課題と捉えられる。

図 4-(3)-3 生活の満足度・重要度（関係図）



注) 回答のうち以下の通りの点数を付与し、回答者の平均値をプロットした。

満足度：「満足」= 5点、「まあ満足」= 4点、「どちらともいえない」= 3点、「やや不満」= 2点、「不満」= 1点

重要度：「重要」= 5点、「まあ重要」= 4点、「どちらともいえない」= 3点、「あまり重要でない」= 2点、「重要でない」= 1点

図 4- (3) -4 生活の満足度・重要度 (数値)

番号	施策	満足度	重要度
1	バスが利用しやすい	0.02	1.44
2	市内や市外を結ぶ道路が便利である	0.34	1.37
3	食品や日用品の買い物がしやすい	0.98	1.47
4	衣料品や電化製品などの買い物がしやすい	0.57	1.36
5	除雪体制が整備されている	0.21	1.46
6	雇用の機会が充実している	0.38	1.23
7	自然が豊かで潤いがある	1.22	1.22
8	街路樹や家並みなどが美しい	0.73	1.16
9	住宅や宅地に恵まれている	0.80	1.17
10	身近なところに子どもの遊び場や居場所がある	0.17	1.43
11	半日～1日過ごせる遊び場や居場所がある	-0.26	1.42
12	水道の整備が進んでいる	0.93	1.38
13	下水道（合併処理浄化槽等）の整備が進んでいる	0.88	1.39
14	ごみの分別収集や資源回収が進められている	0.94	1.38
15	騒音・振動・大気汚染などの公害問題が少ない	0.90	1.39
16	歩道の整備など交通事故対策が充実している	0.50	1.42
17	消防・救急体制、防災体制が整っている	1.00	1.44
18	街路灯など防犯の面で安心である	0.47	1.40
19	健康診査や保健指導が充実している	0.86	1.33
20	病院や医院など医療機関が充実している	0.89	1.45
21	高齢者や障害者のための施設が整っている	0.77	1.25
22	高齢者の働く場など生きがい対策が充実している	0.63	1.20
23	小・中学校の施設・設備や教育内容が充実している	0.67	1.39
24	子どもから高齢者まで生涯学習の機会が充実している	0.62	1.25
25	スポーツ・レクリエーション施設が整っている	0.58	1.26
26	文化施設や文化活動、芸術鑑賞機会などが充実している	0.83	1.13
27	娯楽やレジャーの環境が整っている	0.19	1.32
28	優れた芸術・文化に接する機会に恵まれている	0.88	1.16
29	近隣の人たちと仲がよい	0.60	1.10
30	公民館活動や町内会・地区会活動などが活発である	0.62	1.10
31	まちづくりへの住民参加の機会がたくさんある	0.57	1.09
32	ボランティア活動が活発である	0.61	1.11
33	祭りやイベントが充実している	1.05	1.40
34	国際交流が盛んである	0.23	1.00
	平均値	0.63	1.30

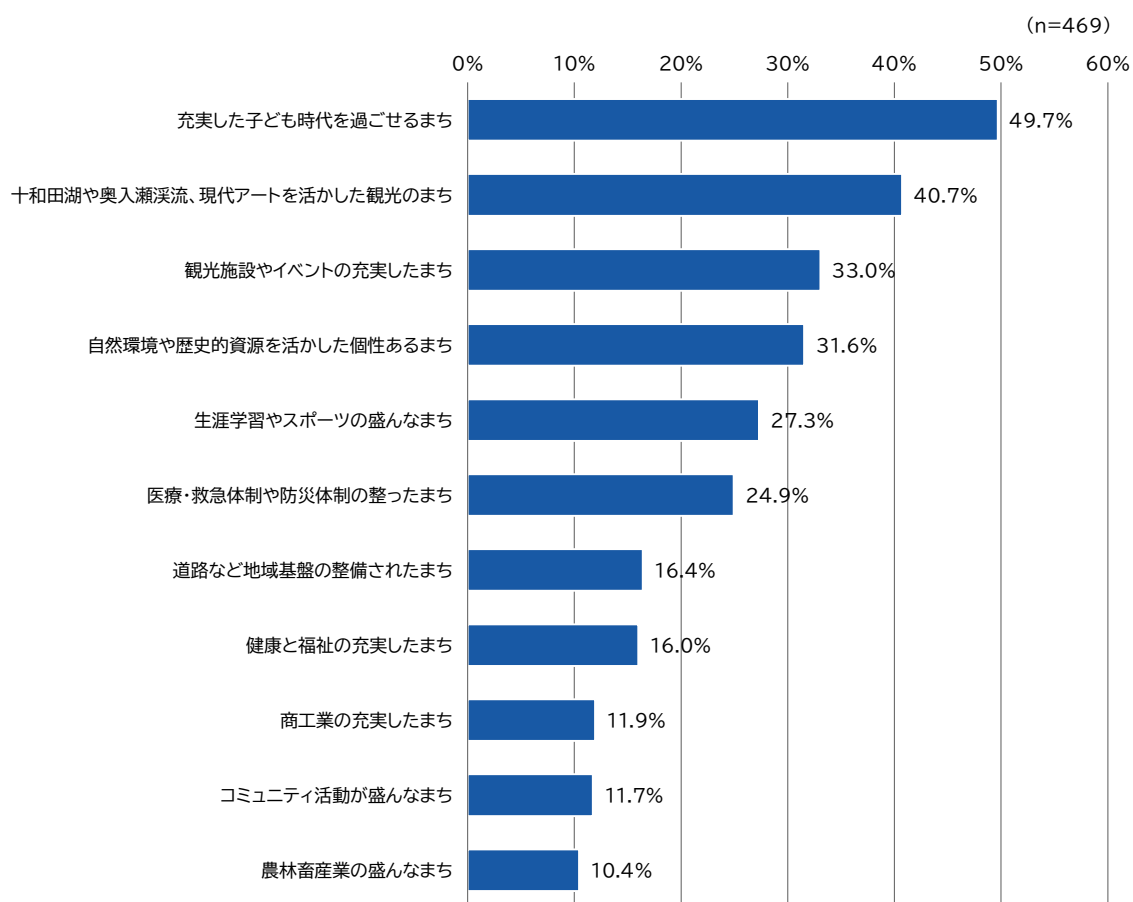
※平均より高い項目は赤字、低い項目は青字

## (4) 十和田市の方向性

### ①十和田市の10年後のまちの姿

「充実した子ども時代を過ごせるまち」の割合が最も高く49.7%である。次いで、「十和田湖や奥入瀬溪流、現代アートを活かした観光のまち」(40.7%)、「観光施設やイベントの充実したまち」(33.0%)である。

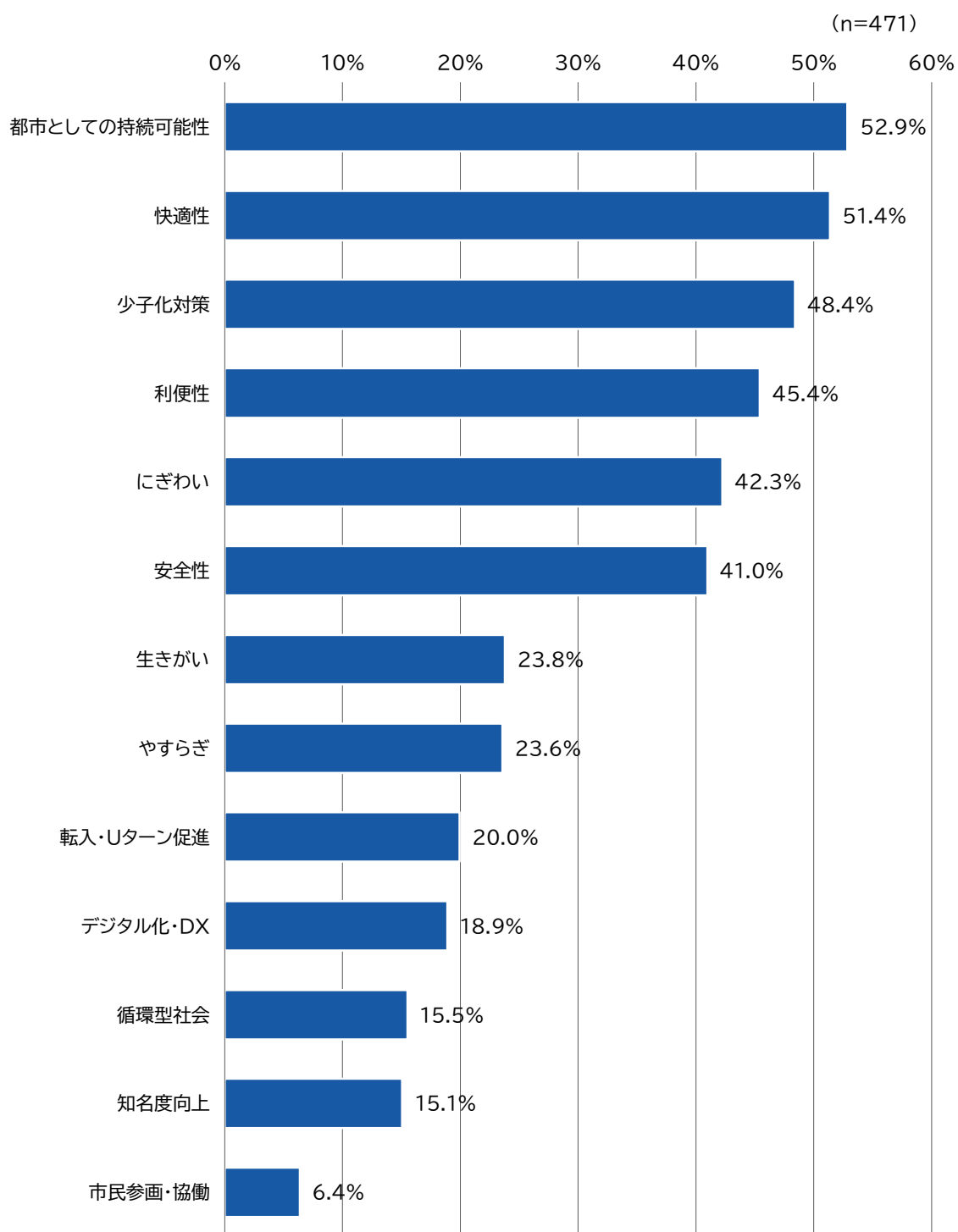
図 4-(4)-1 十和田市の10年後のまちの姿



## ②これからのまちづくりに必要な視点

「都市としての持続可能性」の割合が最も高く 52.9%である。次いで、「快適性」(51.4%)、「少子化対策」(48.4%)である。

図 4-(4)-2 これからのまちづくりに必要な視点

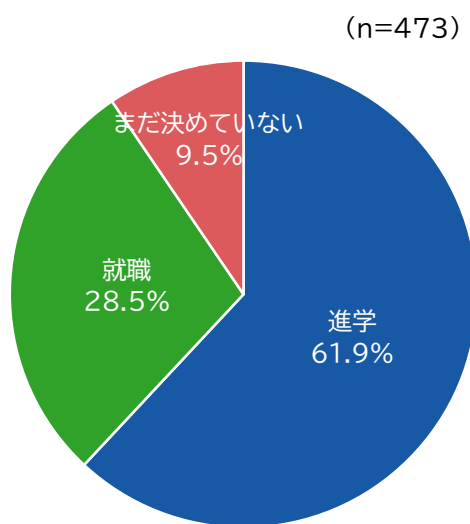


## (5) 定住・就職について

### ①卒業後の進路

進学が割合が最も高く 61.9%である。次いで、就職が 28.5%であり、「まだ決めていない」は 9.5%である。

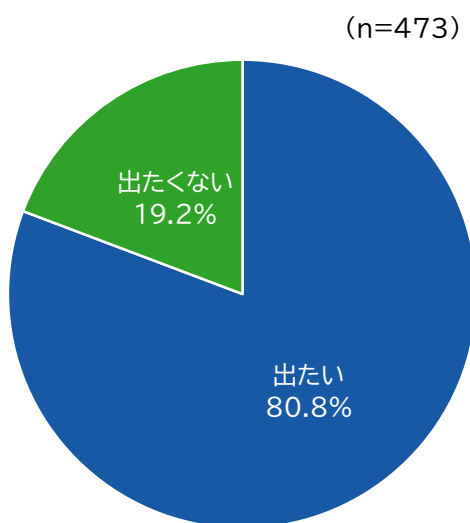
図 4-(5)-1 卒業後の進路



### ②市外・県外転出意向

市外・県外に「出たい」の割合が 80.8%で、「出たくない」は 19.2%である。

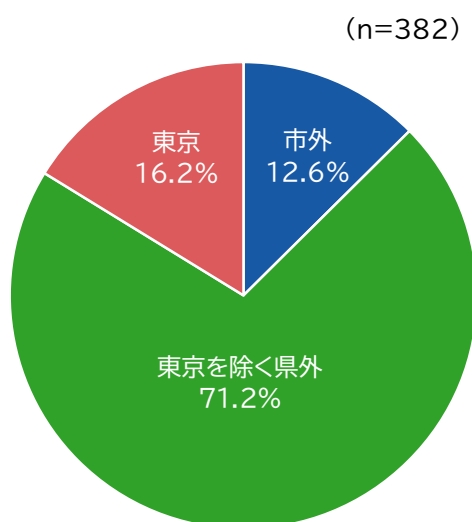
図 4-(5)-2 市外・県外転出意向



### ③転出希望先

東京を除く県外の割合が最も高く 71.2%である。次いで、東京が 16.2%、市外が 12.6%である。

図 4-(5)-3 転出希望先



#### ④市外・県外への転出希望理由

「進学・就職の選択肢が少ない」「収入や待遇の差」「都会的な利便性や刺激への憧れ」「自立や経験を積みたい」等に関する意見が多く見られた。

図 4-(5)-4 市外・県外への転出希望理由（主な意見）

##### ■ 進学・学び

- ・ 行きたい大学・専門学校が県外にある
- ・ 十和田市や青森県内には学びたい学部・専門分野が少ない
- ・ 資格取得や専門的な学習のために県外進学が必要
- ・ 日本の中心（東京など）で最先端の学問を学びたい
- ・ 一度県外に出て視野を広げたい、経験を積みたい

##### ■ 就職・収入

- ・ 就職したい企業や職場が県外にある
- ・ 給料や待遇が県外の方が良い
- ・ 職業の選択肢が広い
- ・ 安定して稼げる環境を求めている
- ・ 起業や特殊な職業（競走馬牧場、自衛隊など）を目指すため県外へ

##### ■ 都会・環境への憧れ

- ・ 十和田市は「何もない」「遊ぶ場所が少ない」と感じる
- ・ 商業施設や娯楽施設が充実している都会に憧れ
- ・ 交通の便が良い場所で暮らしたい（電車・バスの利便性）
- ・ イベントや文化的な活動が多い都市に魅力を感じる
- ・ 新しい環境で人間関係をリセットしたい、刺激を受けたい

##### ■ 経験・ライフスタイル

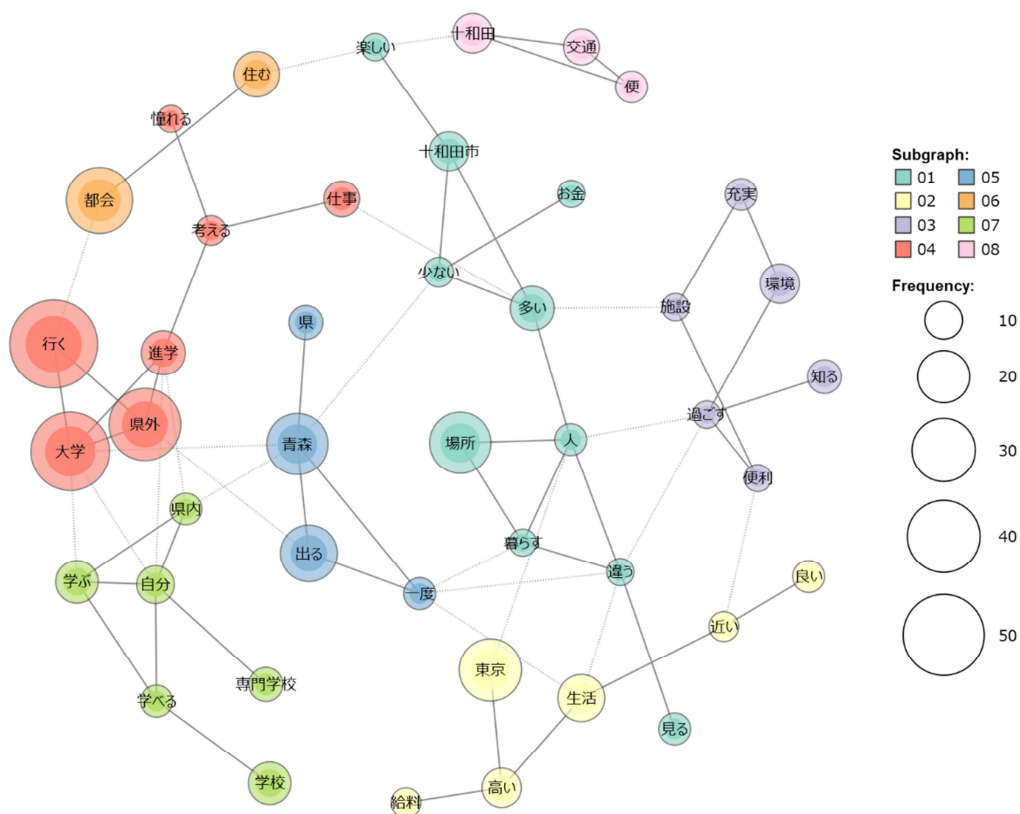
- ・ 一人暮らしをして自立したい
- ・ 県外で生活することで世界を広げたい
- ・ いろんな場所を見てみたい、違う土地で暮らしてみたい
- ・ 都会と田舎の違いを体験したい
- ・ 青森県外に出ることで、逆に地元の良さを再発見したい

##### ■ その他の理由

- ・ 雪が多く生活が不便だから出たい
- ・ 十和田市は刺激がなく、住みにくいとを感じる
- ・ なんとなく出たい、飽きたから出たい
- ・ 家族が県外にいるため自然に出る選択になる / 等

テキストマイニングにより頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、「大学」「進学」が「県外」、「一度」「青森県」を「出る」、「都会」に「憧れる」、「東京」の「生活」を「見る」などの回答が多い。

図 4-(5)-5 市外・県外への転出希望理由  
(テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)



### ⑤市外・県外に出たくない理由

「家族や友人とのつながり」「慣れた土地の安心感」「生活費の安さ」「地元愛や地域貢献」「県内就職の希望」等に関する意見が多く見られた。

図 4-(5)-6 市外・県外に出たくない理由（主な意見）

#### ■ 家族・人間関係

- ・ 両親や祖父母が近くにいて安心できる
- ・ 家族に何かあった時すぐ駆けつけられるから
- ・ 親の店を継ぐ、家を継ぐなど家業・家族の事情
- ・ 兄弟や友達が地元が多く、離れたくない

#### ■ 慣れ・安心感

- ・ 住み慣れた土地が居心地よく安心できる
- ・ 知らない土地は怖い、人混みが苦手
- ・ 都会の生活に疲れそうだから避けたい
- ・ 慣れている場所で働きたい、めんどくさいから出たくない

#### ■ 経済的理由

- ・ 県外は生活費や家賃が高いので負担が大きい
- ・ 学費や物価が県内の方が安い
- ・ 卒業後すぐはお金を貯めたいので地元になりたい

#### ■ 利便性・生活環境

- ・ 帰省しやすい、近場の方が楽
- ・ 災害が少なく気候的に住みやすい
- ・ 県内の方が交通や生活環境に慣れていて安心

#### ■ 地域への愛着・貢献

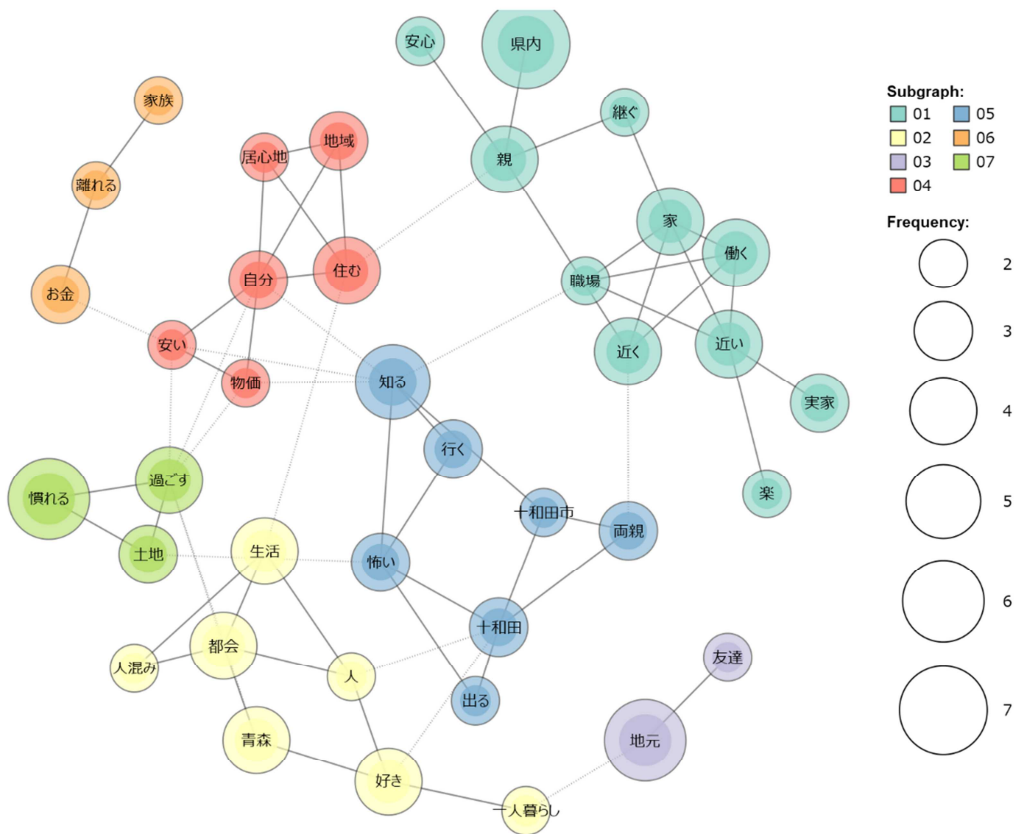
- ・ 地元が好きだから、発展に協力したい
- ・ 十和田市や青森県の人が好きだから
- ・ 地域の祭りや文化に参加したい
- ・ 青森県で普及したい競技がある

#### ■ 就職・進路

- ・ 就職したい会社が県内にある（六ヶ所村の原燃関係など）
- ・ 県内にも良い職場があるから安心
- ・ できるだけ家から近い職場で働きたい / 等

テキストマイニングにより頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、「十和田市」を「出る」のが「怖い」、「青森」の「人」「生活」が「好き」、「地元」の「友達」がいる、「自分」が「居住地」「地域」がある、「実家」「近く」の「職場」で「働く」、「県内」だと「親」が「安心」するなどの回答が多い。

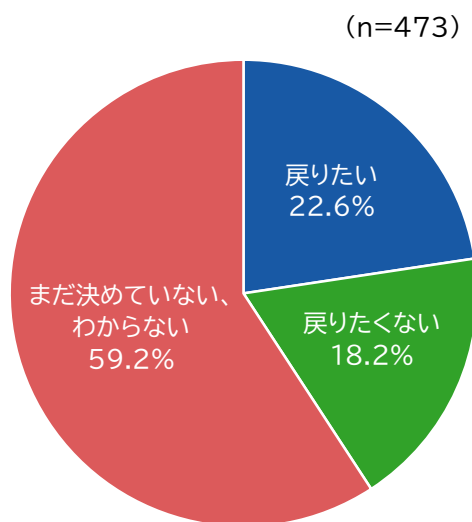
図 4-(5)-7 市外・県外に出たくない理由  
(テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)



### ⑥Uターン意向

「まだ決めていない、わからない」の割合が最も高く59.2%で、「戻りたい」は22.6%、「戻りたくない」が18.2%である。

図 4-(5)-8 Uターン意向



### ⑦将来の十和田市において、何があれば戻ってきたいか

「商業施設や娯楽の充実」「交通の利便性向上」「子育て・生活支援」「働き口の確保」等に関する意見が多く、都会的な便利さや活気を求める声強い一方で、戻る意志がないという意見も一定数見られた。

図 4-(5)-9 将来の十和田市において、何があれば戻ってきたいか（主な意見）

#### ■ 交通・生活基盤について

- ・ 商業・買い物環境
- ・ 大型ショッピングモールやデパートの整備
- ・ ブランド店やカフェなど人気チェーン店の誘致
- ・ 安くて気軽に利用できる店や飲食店の充実
- ・ 一日中過ごせる複合商業施設の希望

#### ■ 娯楽・遊び場について

- ・ カラオケ、ゲームセンター、テーマパークなど娯楽施設の増加
- ・ 大人も楽しめるアクティブな遊び場
- ・ 子どもが体を動かせる公園やプールなどの整備
- ・ 街中に気軽に立ち寄れる遊び・休憩スペース

#### ■ 交通・利便性について

- ・ 電車の復活や整備、駅の新設
- ・ バスの本数増加、二次交通の利便性向上
- ・ 公共交通機関の充実による移動のしやすさ

#### ■ 暮らし・支援について

- ・ 子育て支援や福祉の充実
- ・ 安定した生活基盤（仕事・収入・住環境）
- ・ 就職できる大企業や働き口の確保

#### ■ その他の意見

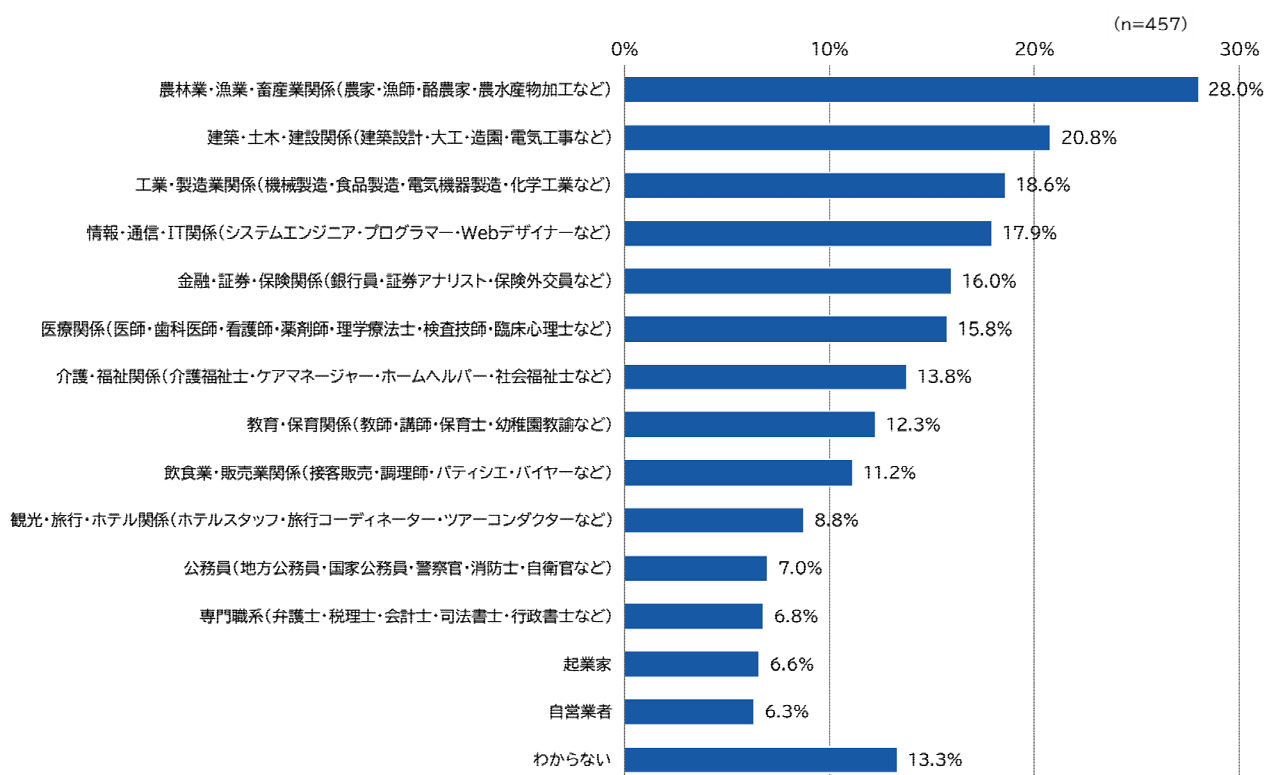
- ・ 十和田市が「都会的」になれば戻りたいという声
- ・ 活気ある街づくり、文化センターの充実 / 等

※ 「何があっても戻りたくない」「特にない」という否定的な意見も一部存在

### ⑧将来就きたいと思っている仕事

「公務員（地方公務員・国家公務員・警察官・消防士・自衛官など）」の割合が最も高く28.0%である。次いで、「医療関係（医師・歯科医師・看護師・薬剤師・理学療法士・検査技師・臨床心理士など）（20.8%）」、「教育・保育関係（教師・講師・保育士・幼稚園教諭など）（18.6%）」である。

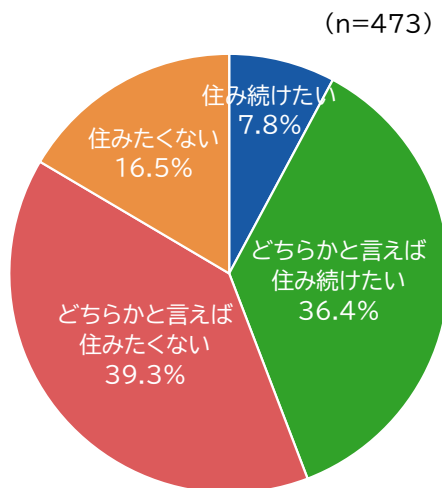
図 4-（5）-10 将来就きたいと思っている仕事



### ⑨定住意向

「住み続けたい」、「どちらかと言えば住み続けたい」を合わせた割合は44.2%である。

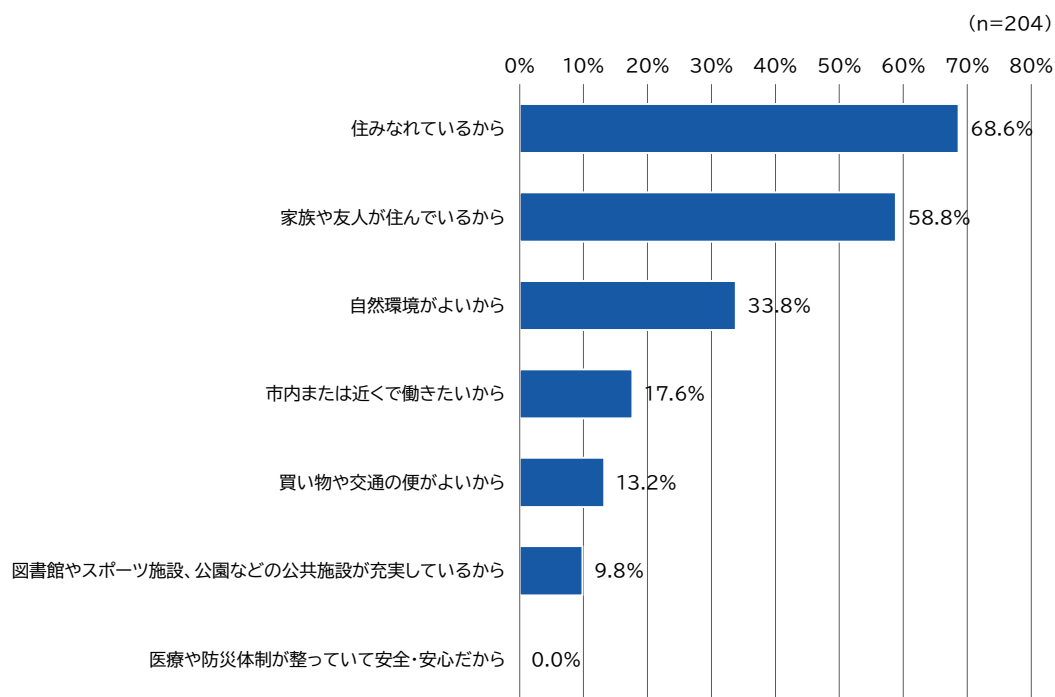
図 4-(5)-11 定住意向



### ⑩住み続けたい理由

「住みなれているから」の割合が最も高く68.6%である。次いで、「家族や友人が住んでいるから」(58.8%)、「自然環境がよいから」(33.8%)である。

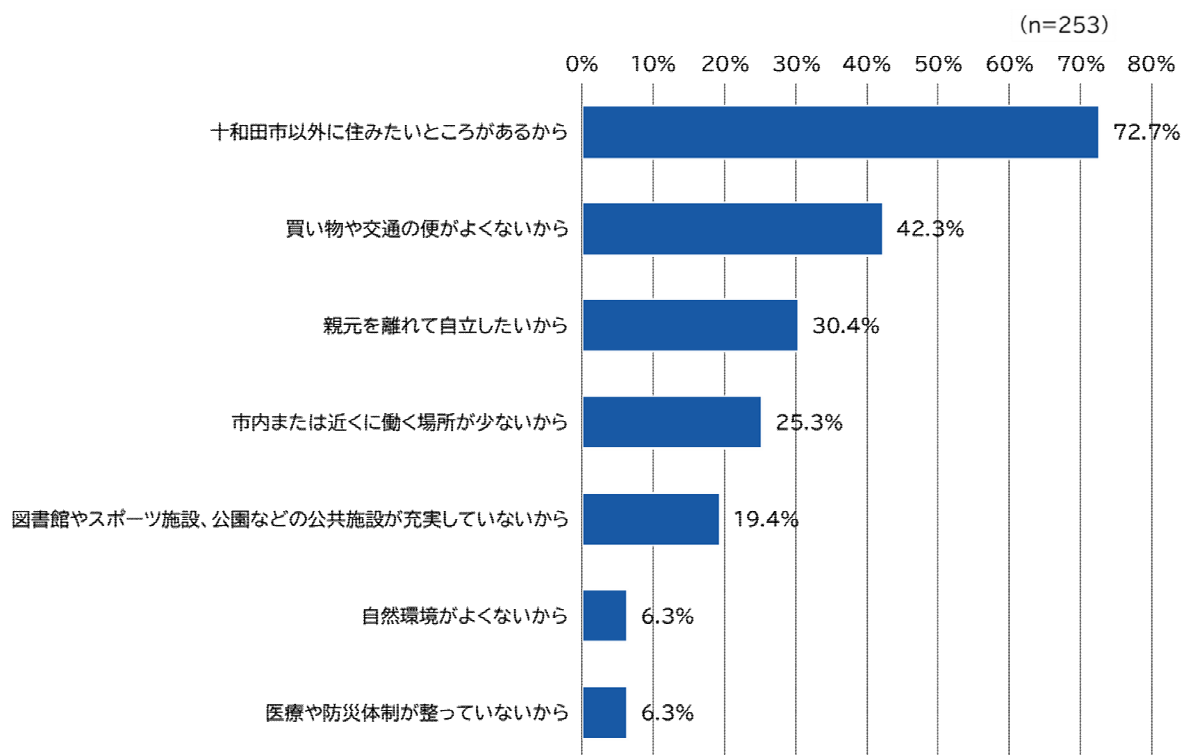
図 4-(5)-12 住み続けたい理由



### ①住み続けたくない理由

「十和田市以外に住みたいところがあるから」の割合が最も高く72.7%である。次いで、「買い物や交通の便がよくないから」(42.3%)、「親元を離れて自立したいから」(30.4%)である。

図 4-(5)-13 住み続けたくない理由



⑫将来の十和田市をより良いまちにするために、できること・思いつくこと

「交通の利便性向上」「若者が楽しめる商業・娯楽施設」「学生や子どもに優しい環境」「地域の魅力発信」「人口減少対策」等に関する意見が見られた。

図 4-(5)-14 将来の十和田市をより良いまちにするために、  
できること・思いつくこと（主な意見）

■ 交通・生活基盤

- ・バスの本数を増やす、運賃を安くする、無償化などの要望
- ・電車の復活や駅の新設を望む声
- ・通学路の除雪を徹底してほしい（高校生の遅刻防止）
- ・歩道や道路の整備（舗装・除草・信号増設など）

■ 商業・娯楽施設

- ・映画館、ゲームセンター、スポーツ、漫喫など若者が楽しめる施設の設置
- ・カフェや飲食店などチェーン店の誘致
- ・大型商業施設やデパートの建設、空き店舗・空き家のリノベーション活用
- ・シャッター街の復活・活性化

■ 学生・子ども向け環境

- ・自由に勉強できる場所やカフェの整備
- ・中高生や子どもが遊べる場所を増やす（運動場、公園、プリ機など）
- ・学生に優しい政策（給付金、優遇制度など）

■ 地域活性化・魅力発信

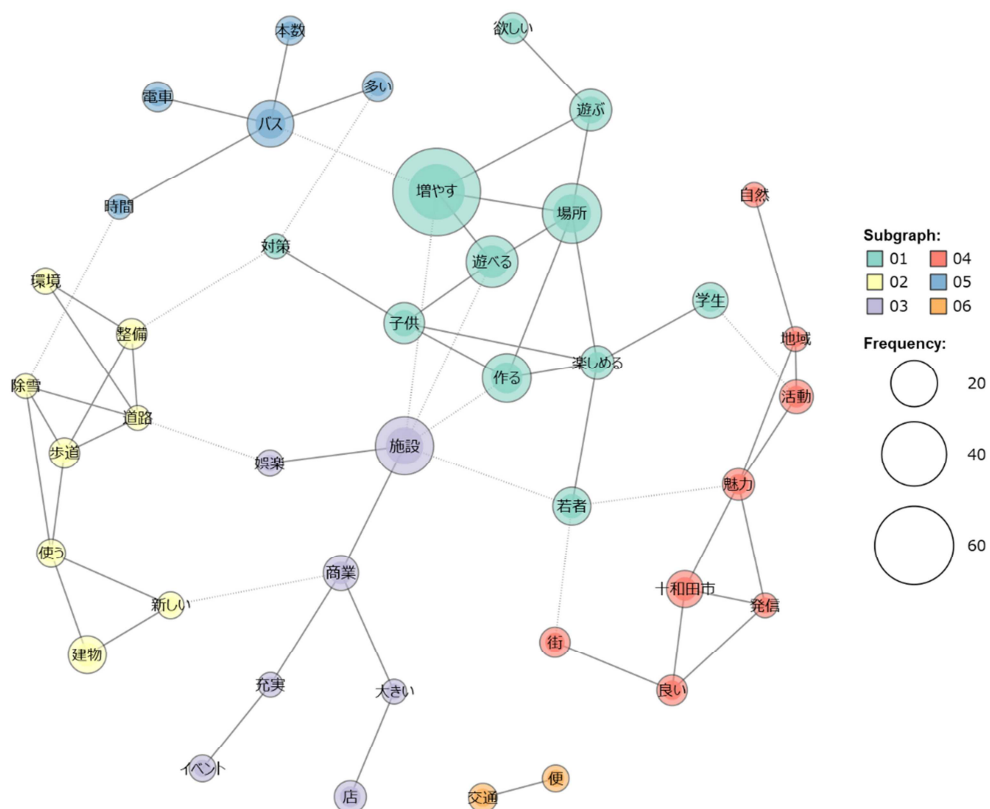
- ・十和田市の良さをPR（InstagramなどSNSで発信）
- ・地元学校と市が協力して活動し、地域の変化を楽しめる仕組みづくり
- ・伝統芸能やアートを街中に広げる取り組み
- ・高齢者の力を活かした地域活性化

■ 人口・暮らし

- ・子どもを増やすための少子化対策、育児金の援助
- ・Uターン政策や移住者優遇で人口減少に対応
- ・建物を増やす、空いた土地を有効活用
- ・生活環境の基盤整備（トイレや施設の快適化、エアコン設置など） / 等

テキストマイニングにより頻出語分析・共起ネットワーク分析を実施したところ、「子ども」が「遊べる場所・施設」「商業・娯楽施設」を「増やす」「充実」、「バス」の増便、「電車」の開通、「地域活動」・「魅力」の「発信」などの回答が多い。

図 4-(5)-15 将来の十和田市をより良いまちにするために、  
 できること・思いつくこと  
 (テキストマイニングによる頻出語分析・共起ネットワーク分析)



カテゴリ	キーワード
公共施設	施設 (32人)、建物 (13人)
商業・娯楽	商業 (11人)、店 (9人)、ショッピング (8人)、少ない (101人)
娯楽・遊び場	若者 (13人)、学生 (11人)、子ども (15人)、遊び (41人)、場所 (33人)、楽しむ (10人)
交通	バス (20人)

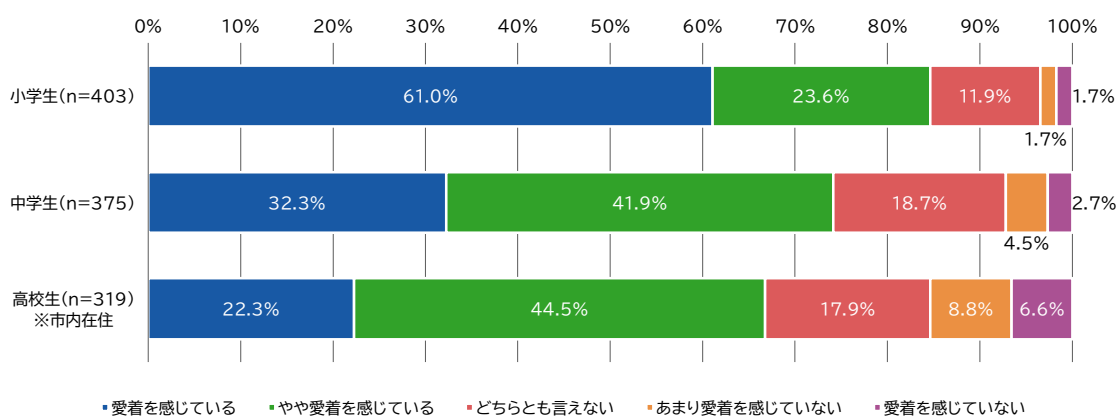
## 第5章 対象横断的分析

### (1) 十和田市について

#### ①好きか・愛着があるか

十和田市への愛着については、小学生は84.6%が「好き」または「どちらかといえば好き」と回答しており、中学生(74.2%)、高校生(66.8%)と年齢が進むにつれて下がる傾向が見られるが、高校生でも3分の2は「愛着」を感じている。ただし、小学生から中学生にかけて、「好き」(愛着がある)という積極的な回答の割合が大きく減少している。

図 5-(1)-1 十和田市への愛着(対象別比較)

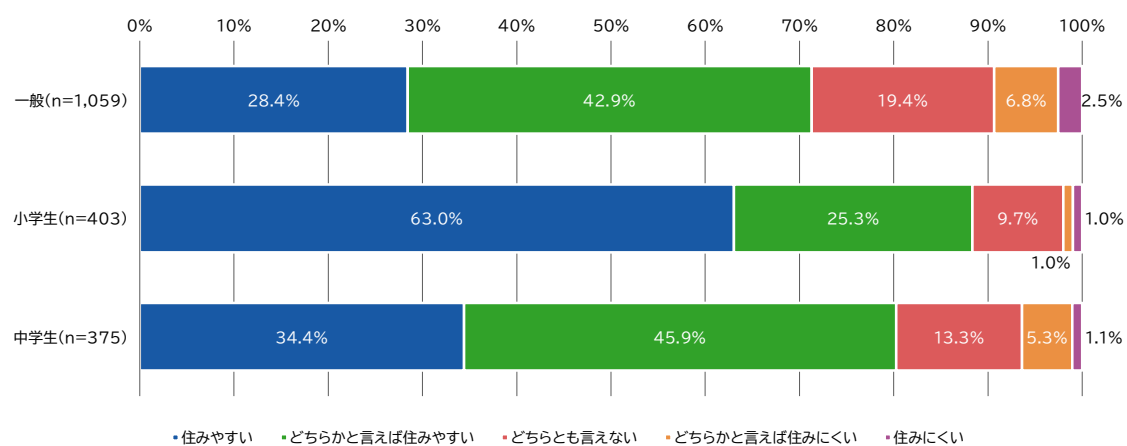


※小学生は「好き」、「どちらかといえば好き」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば嫌い」、「嫌い」で回答

## ②住みやすさ

住みやすさについては、小学生は「住みやすい」または「どちらかと言えば住みやすい」と回答する割合が88.3%とほとんどを占める。中学生（80.3%）、一般（71.3%）と割合が減少するが、特に「住みやすい」の回答の割合は、小学生（63.0%）から中学生（34.4%）にかけて大幅に減少している。

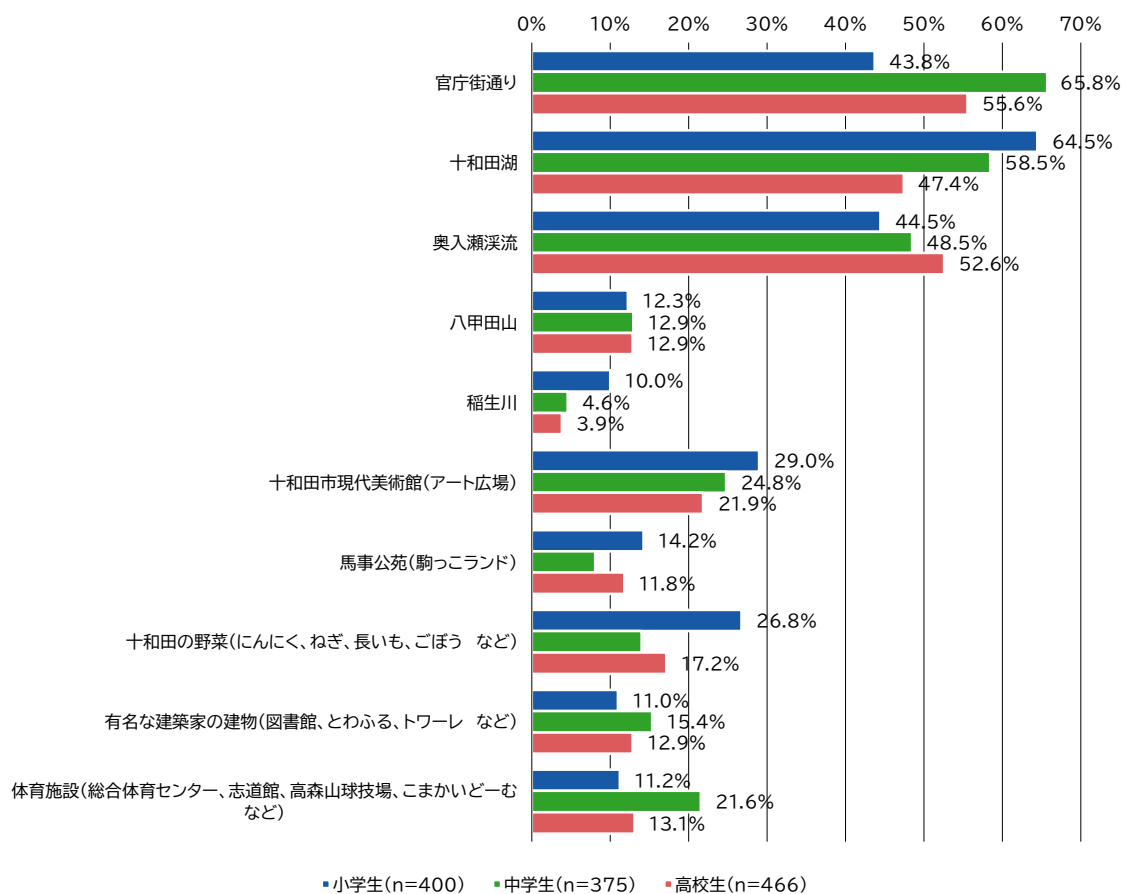
図 5-（1）-2 住みやすさ（対象別比較）



### ③自慢できるところ

自慢できるところは、小学生は十和田湖が最も多く、中学生・高校生は官庁街通りが最も多い。奥入瀬溪流は高校生が最も高く、十和田市現代美術館、十和田の野菜は小学生が最も高い。

図 5- (1) -3 自慢できるところ (対象別比較)

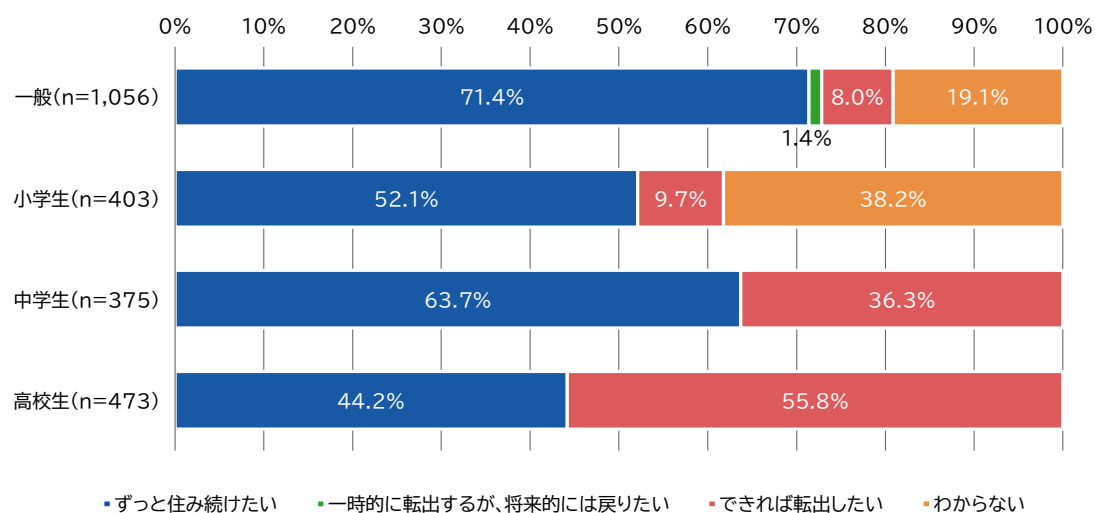


## (2) 定住意向

### ①定住意向

定住意向は一般が最も高く、71.4%を占めている。小学生は、「わからない」が38.2%を占めているが、それを除くと84.3%が住みたいとしており、中学生（63.7%）、高校生（44.2%）と学齢が上がるにつれて定住意向が低下する傾向が見られ、高校生では転出意向が5割を超えている。

図 5-(2)-1 定住意向 (対象別比較)



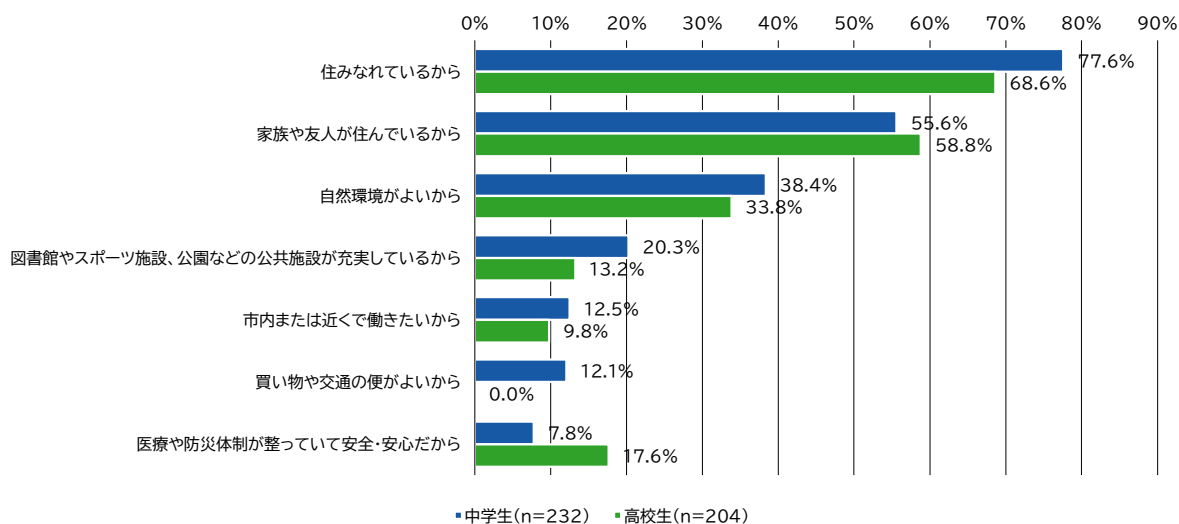
※小学生は、大人になっても十和田市に「住みたい」「住みたくない」「わからない」で回答し、「住みたい」を「ずっと住みたい」、「住みたくない」を「できれば転出したい」としてカウントした。

※中学生、高校生は、「住みたい」「どちらかといえば住みたい」「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」で回答し、前者2つの合計を「ずっと住みたい」、後者2つの合計を「できれば転出したい」としてカウントした。

## ②住み続けたい理由

住み続けたい理由については、中学生と高校生で概ね同様の傾向となっているが、中学生は「図書館やスポーツ施設、公園などの公共施設が充実しているから」をあげる割合がやや高く、高校生は「医療や防災体制が整っていて安全・安心だから」をあげる割合がやや高い。

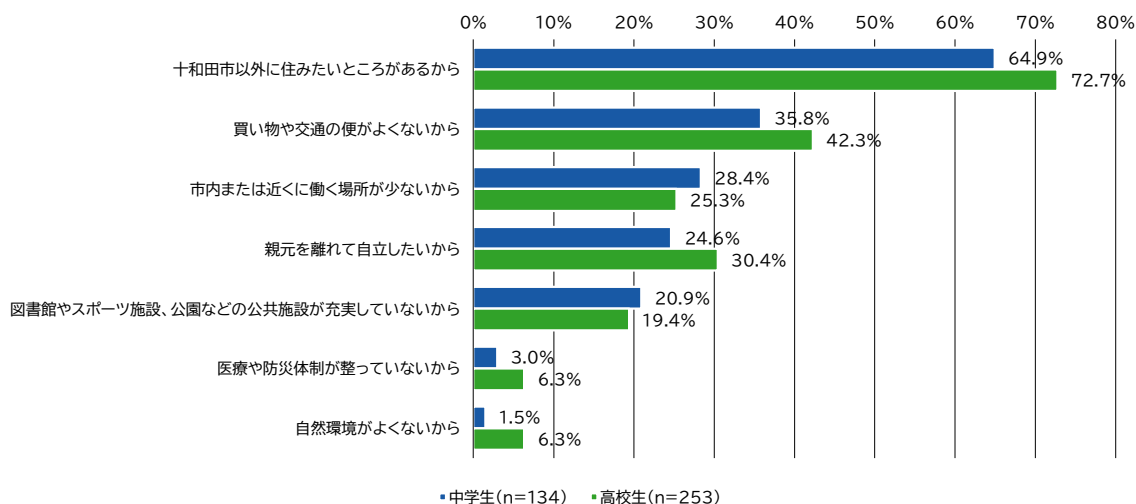
図 5-(2)-2 住み続けたい理由（対象別比較）



## ③住み続けたくない理由

住み続けたくない理由についても、中学生と高校生で概ね同様の傾向となっているが、高校生になると「十和田市以外に住みたいところがあるから」「買い物や交通の便が良くないから」「親元を離れて自立したいから」といった回答をあげる割合がやや高まっている。

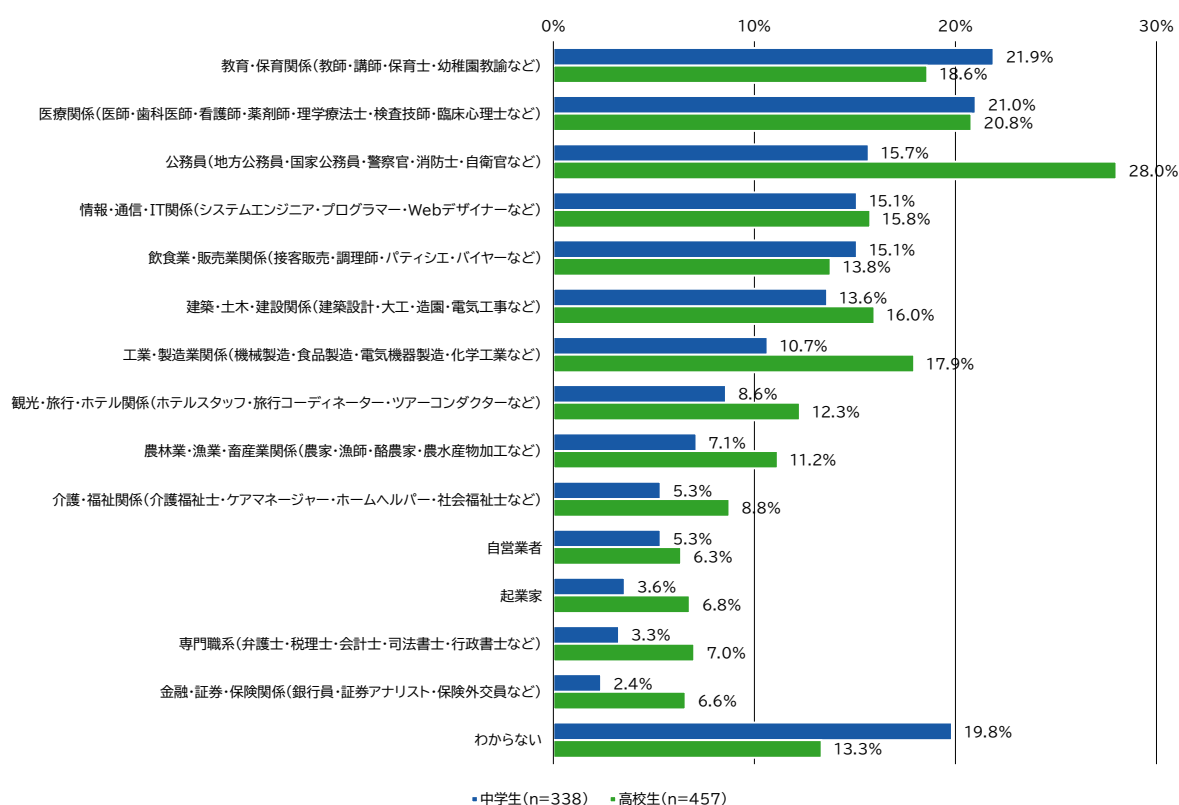
図 5-(2)-3 住み続けたくない理由（対象別比較）



#### ④将来就きたい仕事

将来就きたい仕事については、中学生は「教育・保健関係」(21.9%)、「医療関係」(21.0%)が多く、「わからない」も19.8%を占めている。高校生になると、「公務員」(28.0%)が最も多くなり、次いで「医療関係」(20.8%)、「教育・保健関係」(18.6%)と続くが、次に「工業・製造業関係」(17.9%)があがり、大きく伸びている。

図 5-(2)-4 将来就きたい仕事 (対象別比較)

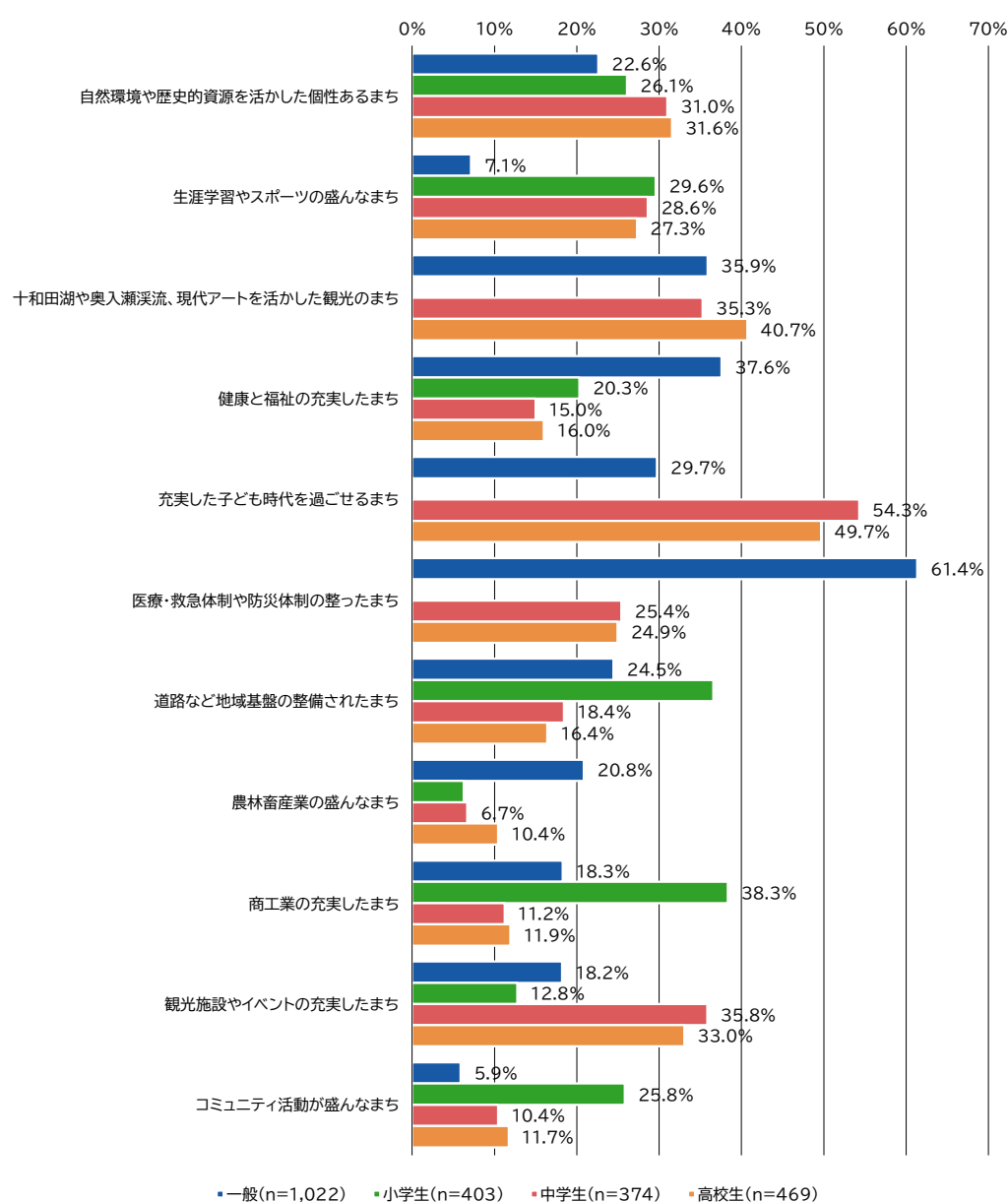


### (3) 市の方向性について

#### ①十和田市の10年後のまちの姿

小中高生の方が、一般に比べて「自然環境や歴史的資源を活かした個性あるまち」、「充実した子ども時代を過ごせるまち」、「生涯学習やスポーツの盛んなまち」、「観光施設やイベントの充実したまち」、「コミュニティ活動が盛んなまち」に該当する回答の割合が多く、一般は「健康と福祉の充実したまち」、「道路など地域基盤の整備されたまち」、「農林畜産業の盛んなまち」、「商工業の充実したまち」が多かった。

図 5-(3)-1 10年後のまちの姿 (対象別比較)



※小学生向けアンケートは該当する選択肢がないものもある。

## ②これからのまちづくりに必要な視点

これからのまちづくりに必要な視点については、中学生は「少子化対策」(59.9%)、「快適性」(54.5%)、「にぎわい」(54.3%)、「都市としての持続可能性」(52.4%)の順で多くなっている。高校生もこれらの回答は多くなっているが、「都市としての持続可能性」(52.9%)が最も多くあげられているほか、中学生と比較して「利便性」(45.4%)、「転入・Uターン促進」(20.0%)が大きく増加し、「知名度向上」(15.1%)が大きく低下している。

図 5-(3)-2 これからのまちづくりに必要な視点 (対象別比較)

